

八名郡農林會報告

第參號

明治三十年一月刊行

愛知縣八名郡農林會

042915-000-6

特24-870

八名郡農林會報告

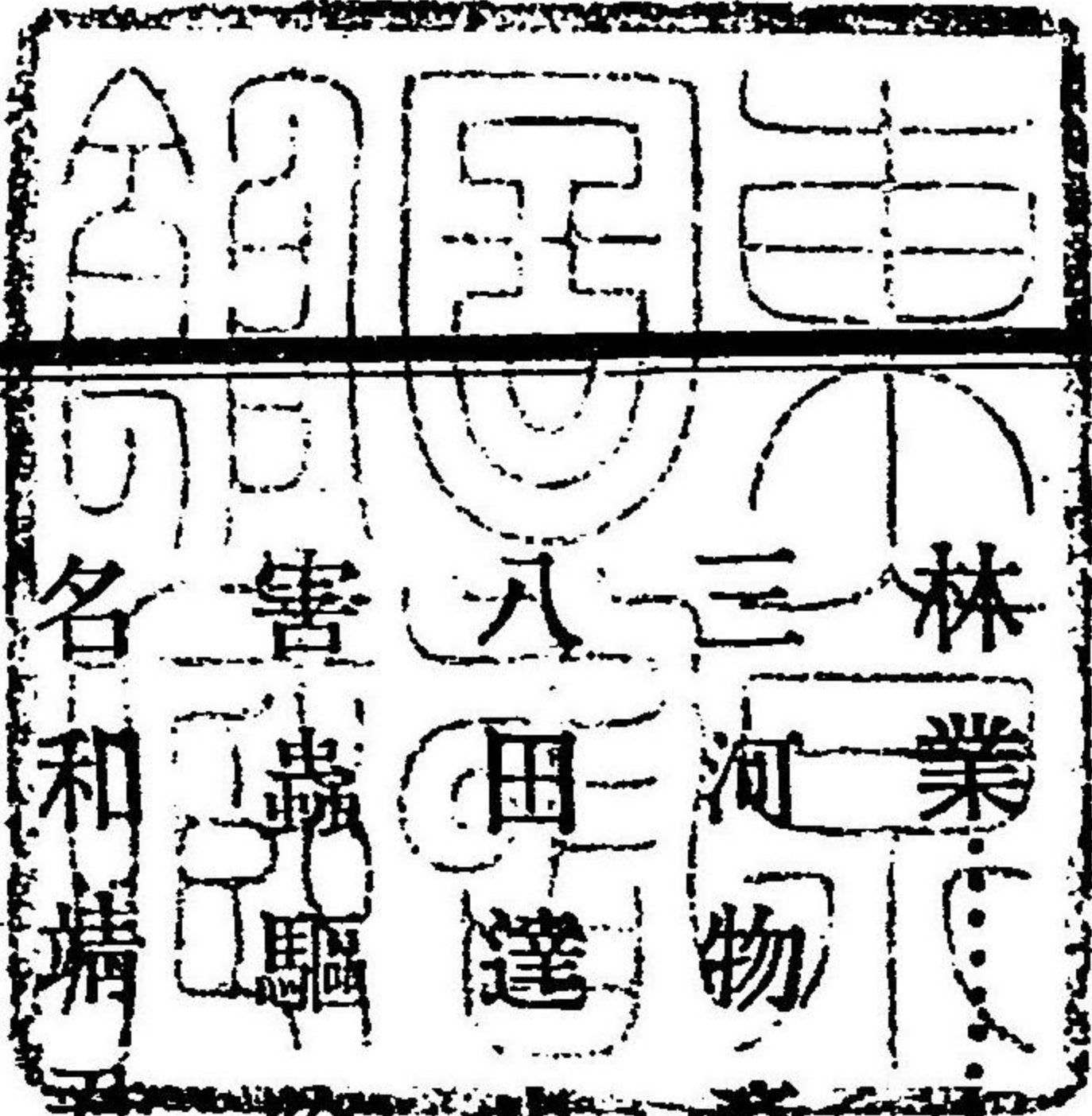
愛知縣八名郡農林會／編

M30

BDJ-0655



特24  
870



目次

本會錄事……………一頁

八名郡農事試驗場錄事……………四頁

林業……………二十三頁

三河物産共進會願末……………二十五頁

八田達也君蠶業演說……………三十頁

害蟲驅除諸規則……………四十頁

名和靖君昆蟲演說……………五十一頁

蠶業講習會……………六十二頁

製炭……………百二頁

鈴木傳治君藍綬褒章ヲ受ク……………百九頁

特別會員入退會……………全頁



# 八名郡農林會報告第三號

## ◎本會錄事

明治廿九年三月廿八日役員會ヲ開シ議決ノ要領左ノ如シ

一 明治廿九年春期定期會ハ山吉田村トシ會日ハ會長ニ於テ取定メ會員ヘ通知スル事

一 明治廿九年度本會經費豫算ハ別紙ノ通りトス

一 河物産共進會役員ハ別紙ノ通撰定ス(委員出品人物代審査委員)

一 前年度ニ引續キ會報ヲ發行スル事

一 農林會試作場ハ一ト先廢止シ教師并ニ試作委員ヘ挨拶狀ニ盃ヲ添ヘ贈ル事トス

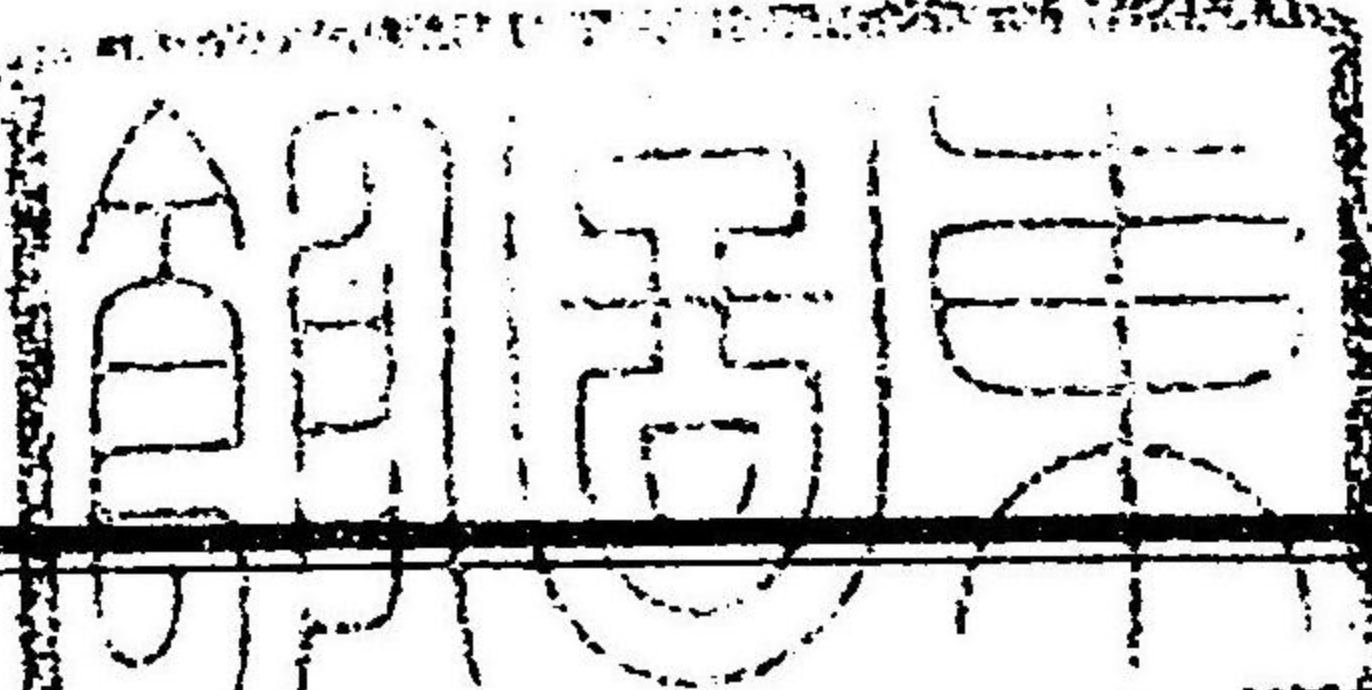
一 本會役員ハ郡内各町村農會開設ノ節ハ可成出席スル事トス

一 三河農會ヘ出席スル本會代表者ハ會長ヘ通知ヲ受ケ會長ヨリ幹事ヘ通告スル事トス

一 本會事務擴張ノ爲メ廿九年度ニ於テ郡費ノ補助ヲ仰ク事

以上決定

一 四月八日付郡費ヲ以テ補助相成度旨申請ニ對シ許可セラレ之ト共ニ左ノ命令書ヲ受ケタリ



命令書

八名郡農林會副會長 鈴木平五郎

農林會補助トシテ金百圓下附候就テハ左ノ事項ヲ履行スベシ

第一項 八名郡農事試驗場ノ成績ヲシテ郡内ニ周知セシムルノ方法ヲ設クベシ

第二項 三河物産共進會ニ關シ本郡出品者ニ可成便利ヲ得セシメ且ツ該會ノ景況ハ閉會後一ヶ月以内ニ報告スベシ

第三項 補助金ヲ下附シタル年限内ニ於テ此命令ニ違背シ實施ヲ欠キタル場合ニハ補助金ノ幾分ヲ還納セシムル事アルベシ

明治廿九年五月七日

愛知縣八名郡長 服部直衡

明治廿九年五月四日五日ノ兩日山吉田村大字下吉田満光寺ニ於テ總集會ヲ開クニ付本縣農事試驗場技手和田義幹氏ノ臨席ヲ請ヒタルガ綜合セ付カサルノ故ヲ以テ出張ナク落膽セシニ恰モ良シ本縣ニ於テ林業講話ノ爲メ招聘セラレシ林務官補鈴木馨氏來郡出席アリテ林業ニ關スル適切ナル講話アリシカハ大ニ參衆ニ満足ヲ與ヘタリ此日出席百數十名餘鈴木林務官案内トシテ本縣丹羽屬出張セラル同五日ハ會員ノミ會合シ研究談ヲ爲シ閉會シタリ

明治廿九年十月廿四日事務會ヲ開設ス出席者拾貳名決議ノ要領左ノ如シ

一本會ハ系統的ノ組織ニアラサルヲ以テ之レヲ改メン爲メ本會ヲ解散シ更ニ町村農會ヨリ成立セシメテ郡農會ト爲スヤ否ニ付テハ本件ハ解散セスシテ系統的農會ニ修正スル爲メ町村農會ト交渉會ヲ開キ規則ヲ改正スルノ方針ヲ取ル事トス

一農林會ト町村農會ト交渉會ヲ開クニ付テハ町村農會ヨリハ代表者一名ツ、農林會ヨリハ委員三名ヲ出スモノトス

一交渉會開設期日ハ會長ノ見計ヒテ更ニ通知スルコトトス

一規則ノ修正按ハ三名ノ委員ニ於テ起草シ交渉會へ提出スルモノトス

一秋期定期會ハ一ト先延期シ規則修正ノ上開會スルコトトス

一將來本會々務ノ計畫等モ亦交渉會后更ニ協議決定スルモノトス

一交渉會委員ノ撰擧ハ無記名ヲ以テ投票セシニ鈴木平五郎、鈴木傳治、本多種次郎當撰ス

一三河物産共進會へ出務セシ役員并ニ審査委員ノ報酬ハ一日金拾錢ノ目的ヲ以テ挨拶狀ニ添へ贈ルコトス

一來十一月五日ヨリ三日間静岡市ニ開設スル東海農區五縣聯合農事大會へハ本會代表者一名出張セシムルコトトス但旅費ハ郡役所雇員ノ受クル旅費額ヲ支給ス而シテ出張員ハ會長ノ指名ヲ以テス

以上決定

一十一月五日ヨリ静岡市ニ開設ノ農事大會ヘハ淺見瀧助氏出張セリ

本會試作場教師及試作人へ挨拶ノ件

一本會ハ役員會ノ決議ニ仍リ試作場ヲ廢シ關係者ニ挨拶ヲナシタリ其試作人ニ贈リタルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

本會何々部試作ニ付テハ每度精密ナル試作被成降稔益不尠候然ルニ追々村農會モ設立相成試作モ實行ノ筈ニ付本會ノ試作ハ一ト先中止可致候得共尙不相變御心掛ケ被下度希望致候聊カ從來ノ御苦勞ヲ深謝スル爲粗品呈上此段及御挨拶候也

明治廿九年十月廿四日

八名郡農林會

試作人宛

### ◎八名郡農事試驗場錄事

本場ノ麥作試驗ハ創業ノ際ナルヲ以テ其準備ニ缺クル處少ナカラサリ然レトモ生育良好ニシテ相應ノ試驗ヲ遂ケ得ラルヘキ觀ヲ呈セシモ出穂后ニ至リ銷微大ニ蕃殖シ非常ノ害ヲ蒙レリ故ニ種類試驗ノ如キハ殆ント優劣ヲ判定スル事難キ迄ニ至レリト雖トモ其他ニ於テハ多少參考ニ資スヘキ價值アルヲ信ス看者宜シク熟讀參照アラソコト望ム

廿八年麥作試驗

麥作試驗ヲ大別シテ種類試驗、撰種試驗、播種量試驗、點播試驗、畦幅試驗、肥料試驗、播種期節試驗ノ七目トス

各試驗ヲ通シタル耕種ノ梗概左ノ如シ但シ特殊ノモノハ各目ノ條下ニ之ヲ記ス

一畦幅二尺

一播種量一反歩ニ付大麥四升小麥三升トス

一肥料ハ一反歩ニ付堆肥十五荷、鍊粕四貫目、過磷酸石灰三貫目、水肥二十荷(一回ニ分施ス)ヲ施ス

一種子ハ鹽水撰ヲ施シタルモノヲ用ユ但シ大麥ハ水一斗ニ付鹽四升ノ割ヲ以テ調製シ小麥及ヒ裸麥ハ苦鹽水ヲ用ユ

一播種ハ施肥量試驗、施肥期試驗、撰種試驗、播種量試驗等ハ十一月九日、裸麥種類試驗、單一肥料試驗、肥料ノ要素試驗ハ全十日、大麥種類試驗ハ全十一日、其他ハ各試驗項目中ニ記ス

一中耕ハ十二月中旬、一月上旬、三月中旬、四月上旬ノ四回施行ス

一踏付ハ一月九日ニ行フ

### 第一目 種類試驗

此試驗ハ大麥四十一種、裸麥十二種、小麥十一種、通計六十四種ナリ作付歩數ハ每種一樣ナラスシテ三歩乃至二十四歩トス左ニ出穂収獲期并ニ一反歩改算ノ収量等ヲ表示ス

大 麥

種 名	穂出揃	収 獲	一 反 歩 當 收 量		一 升 重 量	稈 重 量	稈 長
			重 量	容 量			
ゴルアンメロン	五月四日	六月十二日	五、六〇〇	一、八九〇	三三〇	七〇	三三
メーレン	全 十七日	全 十七日	五、三〇〇	一、八四六	三〇五	六六	三三
市 場	四月廿九日	五月卅一日	四、〇〇〇	一、九二〇	二五〇	六六	三三
紫	全 二十日	全 廿八日	四、七〇〇	一、八八〇	二五〇	六六	三三
庄 内	全 廿六日	全 三十日	四、〇〇〇	一、六三四	二五〇	六六	三三
穂 揃	全 十四日	全 日	三、〇〇〇	一、九〇〇	二五〇	六六	三三
喜 平	五月八日	六月三日	三、〇〇〇	一、九〇〇	二四〇	六六	三三
熊 谷	四月廿九日	五月卅一日	三、三〇〇	一、七三三	二四〇	六六	三三
紀 州	全 廿四日	全 三十日	三、五〇〇	一、七〇〇	二四〇	六六	三三
チンコ赤麥	全 廿二日	全 廿八日	三、〇〇〇	一、四八三	二三六	六六	三三
早生坊主	全 日	全 三十日	三、四〇〇	一、七四〇	二三三	六六	三三
新 撰	五月四日	六月二日	三、五〇〇	一、五八八	二三〇	六六	三三
谷 風	四月十九日	五月廿六日	三、〇〇〇	一、七六〇	二三〇	六六	三三

八 石	全 廿七日	全 三十日	三、〇〇〇	一、七三三	二三五	六六	三三
九 畝 十 俵	全 廿五日	全 三十日	三、〇〇〇	一、七三〇	二三〇	六六	三三
遠 州	五月三日	全 卅一日	三、〇〇〇	一、七三三	二三四	六六	三三
ヨチクラ	四月廿二日	全 三十日	三、〇〇〇	一、七四七	二三四	六六	三三
牟 呂	五月一日	全 卅一日	三、一五〇	一、七〇〇	二三三	六六	三三
ケカラカシ	四月廿八日	全 三十日	三、一〇〇	一、七〇六	二三〇	六六	三三
錦	全 廿四日	全 日	三、〇〇〇	一、七三〇	二三一	六六	三三
三 徳	全 日	全 日	三、〇〇〇	一、七四〇	二三一	六六	三三
福 助	全 日	全 卅一日	三、〇〇〇	一、七三三	二三〇	六六	三三
善 光 寺	五月一日	全 日	三、九〇〇	一、七〇六	二三〇	六六	三三
穂 長	四月廿六日	六月一日	三、二〇〇	一、七三〇	二二〇	六六	三三
金 穂	五月二日	全 三日	三、七〇〇	一、七三三	二三〇	六六	三三
青 肌	全 日	全 二日	三、五〇〇	一、七〇五	二三〇	六六	三三
木 曾	全 三日	五月三十日	三、五〇〇	一、七〇五	二三〇	六六	三三
信 濃	四月廿九日	全 日	三、二〇〇	一、七三四	二三三	六六	三三

暮川	四月廿九日	五月卅一日	三、二〇〇	一、二五	三〇	三	二八
倉塞	五月五日	六月三日	三、〇〇〇	一、二五	三五	三	二九
青葉	四月三十日	五月三十日	一、五〇〇	一、〇七	三六	三	二九
白錦	全日	六月一日	二、〇〇〇	九八〇	二五	二九	二九
代々	五月一日	全日	三、五〇〇	一、〇三	二五	四	二九
白鳥	全七日	全四日	三、六〇〇	一、〇六	二〇	三	二九
白麥	全三日	全日	三、五〇〇	一、〇四〇	二六	三	二九
番樂	四月廿八日	五月三十日	二、八〇〇	九八	二四〇	三	二九
フカヅウ	五月八日	六月四日	二、〇〇〇	一、一〇五	一九〇	三	二九
カチレ	全五日	全三日	二、〇〇〇	一、一〇五	一九〇	三	二九
一ト皮	全六日	五月卅一日	二、〇〇〇	八九	三〇	三	二九

大麥収獲ノ結果前表ノ如シ而シテ被害ノ多少ハ収獲ノ多寡ニ關スルヲ實ニ大ナリトス之カ概略ヲ種別スレハ略無事ニ生育ヲ遂タルハゴルデンメロン及メーレン、ノ二種ニ過スシテ一ト皮、カチレ、フカヅウ、白麥、白錦、白鳥、ケカラカシ、牟呂、福助、穂長、金穂、木曾、青肌、代々等ハ病害ノ爲ニ著ク収量ヲ減シ其他ハ被害ニ多少アルモ右數種ニ比スレハ収量ニ關係ヲ及ボシタルハ僅々ナルヘシ

種名		原產地	穂出揃	收穫	獲	稈ノ長
裸麥	裸	在來	全日	全日	全日	二八
玉子撰出	山口縣	四月十九日	五月廿九日	三〇	二八	
赤裸	本縣農事試驗場	全日	三十一日	三一	二八	
鳴海	愛知郡	全日	三十日	三一	二八	
三島	廣島縣	全日	廿四日	三〇	二九	
白裸	愛知郡	全日	十八日	三四	二九	
日本	兵庫縣	全日	廿五日	二九	二九	
播磨	香川縣	全日	十八日	三一	二九	
坊主	山口縣	全日	三十日	二六	二九	
三月候	山口縣	全日	二十日	二九	二九	
青チンコ裸	本縣農事試驗場	全日	廿七日	二九	二九	
紫裸	全日	全日	廿五日	二九	二九	
米裸	在來	全日	全日	二八	二九	

裸麥各種ノ原產地、穂出揃、收穫期、稈ノ長等左ノ如シ

収獲ノ結果ヲ一反歩ニ改算スレハ左表ノ如シ

種名	作付歩數	一 反 步		一 升 重 量	一 升 重 量	種 重 量
		重 量	容 量			
玉子撰出	八三	七三三〇	一〇一〇	三五六	六八七〇	
赤 裸	四〇	三七八八〇	一〇八二	三五六	六八七〇	
鳴 海	七六	三六三三〇	一〇三六	三五〇	六八七〇	
三 島	一三四	三三三三〇	一〇三六	三五〇	六八七〇	
白 裸	七七	三三〇三〇	一〇三六	三五〇	六八七〇	
日 本	七〇	三三六三〇	一〇三六	三五〇	六八七〇	
播 磨	七四	三三三三〇	一〇三六	三五〇	六八七〇	
坊 主	四〇	三三〇〇〇	九〇九	三五〇	六八七〇	
三 月 候	七二	三三三〇〇	九〇〇	三五〇	六八七〇	
青 ナンコ	八六	三三九〇〇	七六六	三五五	六八七〇	
紫 裸	四〇	三三三三〇	七三二	三五五	六八七〇	
米 裸	八三	三三三三〇	四六六	三三〇	六八七〇	

鳴海裸、白裸ノ二種ハ麥稈真田用ニ適ス

裸麥生育ノ景況ハ最モ善良ニシテ遙カニ大小麥ニ後レリ然ルニ連日ノ降雨ト葉錆病ノ爲ニ成熟前ニ至リ  
 俄カニ枯稿シタルヲ以テ大ニ収量ヲ減シ遂ニ前表ノ如キ結果ヲ呈スルニ至レリ

小 麥

小麥ヲ播種スルノ當時未タ試験ノ準備整ハス漸クニシテ其季節ニ後レカリシノミ故ニ肥料ノ如キハ僅少  
 ノ水肥ト一反歩ニ付五貫目ノ割ヲ以テ鯨粕ヲ施シタルノミニシテ堆肥等ハ施與セカリキ  
 播種ハ、フルツ、モルド、オレゴン、西洋ノ四種ハ十月廿八日ニ其他各種ハ十一月五日ナリ  
 収獲ノ結果等左表ノ如シ但シ各種五歩ツ、ノ地ニ試験シタル結果ヲ一反歩ノ量ニ改算シテ示ス

種 名	穂出揃	収 獲	一 反 步		一 升 重 量	種 重 量	種 長
			重 量	容 量			
フルツ	五月廿一日	六月廿二日	六〇、五〇〇	一、三三三	三七〇	一三〇	四
モルド赤	全 廿三日	全 廿七日	四八、六〇〇	一、三三四	三六〇	一〇八	四
山口オレゴン	全 十五日	全 廿一日	四四、一〇〇	一、三三八	三六〇	九六	四
オレゴン	全 日	全 日	四四、一〇〇	一、三三三	三五〇	一〇〇	四
西 洋	全 十三日	全 十六日	二五、〇〇〇	八〇六	三三〇	四一	三〇
赤 皮	全 十二日	全 日	二四、〇〇〇	七二七	三三〇	五〇	三三
宮 崎	全 十九日	全 十九日	二三、〇〇〇	七四二	三三〇	七〇	二八



白皮	五月十三日	六月十八日	20,000	65	310	4	3
金槌	全十五日	全十四日	20,000	66	300	3	3
風シラス	全十二日	全十五日	16,000	64	250	3	3
鬼	全十五日	全十六日	15,000	60	250	3	3

以上ノ如ク洋種ノ小麥ハ土地相應ノ收穫アリシカ在來ノ各種ハ錆黴甚シク蔓延シ熟期ニ先チテ枯死シタルヲ以テ到底得失ヲ知ルコト能ハサルナリ然レハ洋種小麥ハ概シテ強健ニシテ病害ニ罹ルコト少ク品質最モ良好ニシテ收穫亦多量ナレハ之カ利益多キハ論ヲ俟タサルナリ

上來大小麥及裸麥ノ結果ヲ通覽スルニ參考ニ資スヘキモノナキニアラサレハ率子病害ニ侵サレ確乎タル成績ヲ得サリシハ甚タ遺憾トスル處ナリ更ニ試験シテ明了ナラシメンコトヲ期ス

第二目 撰種試験

大麥穂揃種、小麥フルツ種ヲ以テ此試験ニ充ツ作付歩數ハ每區不同ニシテ二歩乃至五歩ナリ左ニ試験ノ區別并ニ反歩ニ改算シタル收穫高ヲ表示ス

大麥 撰種	試験區別	收穫量		一升重量	稈重量
		重量	容積		
全 水一升ニ付鹽百廿々ノ鹽水ニ浮ヒタルモノ		25	1,000	250	3
大麥 撰種		27	1,135	240	3

全 全上ノ鹽水ニ沈ミタルモノ 3 1,280 250 3  
 小麥 撰種 4 1,080 250 3  
 全 水ニ沈ミ鹽膽水ニ浮ヒタルモノ 4 1,250 260 3  
 全 鹽膽水ニ沈ミタルモノ 5 1,305 260 3

以上ノ結果ニ據レハ撰種ノ効アルコト明了ニシテ之ヲ撰種ニ比スレハ大麥一斗五升五合、小麥一斗四升七合ノ増収ナリトス

第三目 播種量試験

此試験ハ大麥穂揃種、小麥フルツ種ヲ以テ施行シタリ作付歩數ハ三歩乃至五歩ナリ左ニ試験ノ區別并ニ反歩改算ノ収量等ヲ表示ス

麥種別	試験區別	收穫量		一升重量	稈重量
		重量	容積		
大麥	二升播 歩一當反	34,000	1,360	250	3
全	三升播全	41,100	1,660	250	3
全	四升播全	43,000	1,650	250	3
全	六升播全	36,500	1,450	250	3
全	八升播全	43,000	1,650	250	3

小麥	一升五合播全	四,100	1,130	三,五五	六
全	二升五合播全	四,510	1,130	三,五五	六
全	三升五合播全	四,600	1,135	三,四〇	101
全	五升播全	四,100	1,134	三,五〇	100

以上ノ結果ニ據レハ大麥四升、小麥三升五合ヲ以テ適當ノ播種量トスヘキカ如シ

第四目 點播試驗

此試驗ハ六區ニシテ每區三步ツ、トシ大麥ゴルテンメロン種ヲ以テ施行ス  
 生育ノ景況最モ善良ナリシカ二月下旬ヨリ萎縮病發生シ各區共ニ多少ノ害ヲ蒙リシカ第二區ハ被害殊ニ甚シク全ク枯死シタルモノ五六株アルニ至レリ之ニ亞クハ第一區第三區第四區ニシテ第五區及第六區ノ兩區ハ被害最モ僅少ナリキ  
 試驗ノ區別并ニ一反歩改算ノ収量左ノ如シ

區名	試驗區別	收量			一升重量	稈重量
		重量	容量	量		
一	條播 種子一反歩ニ付四升ノ割	四	一,四六六	三〇〇	四	
二	點播 第一區ト全量ノ種子	三	1,300	三〇〇	四	
三	全 株間五寸一株十五粒ツ、	三	1,267	三〇〇	五	

以上ノ結果ニ據リ條播ト點播ト比較スレハ點播ニ利アリ而シテ點播中ニ於テハ第五區ナル株間一尺ニシテ一株十五粒ノモノ収獲最モ多シ之レニ亞クハ第三區トシ一株ニ付三十粒播下シタルモノハ兩區共ニ収量稍々劣レリ但シ前ニ陳タルカ如ク被害ノ多少ニ由テ収量ニ差違アレハ此試驗ノ成績ハ大体ヲ知ルニ止ルノミ

第五目 畦幅試驗

此試驗ハ四區ニシテ每區六步ツ、トシ大麥穗揃種ヲ以テ之ニ充タリ左ニ試驗ノ區別并ニ收穫ノ結果等ヲ表示ス但シ收穫量ハ一反歩當リニ改算ス

試驗區別	一 反歩當収量			一升重量	稈重量
	重量	容量	量		
畦巾 一尺五寸	三,500	一,四五九	二四〇	八	
全 一尺七寸一分	三,500	1,410	二四三	七〇	
全 二 尺	三,500	1,416	二四三	六	
全 二尺四寸	二,810	1,177	二四〇	五	

第六目 肥料試験

肥料試験ヲ分テ肥料三要素試験、施肥量試験、單一肥料試験、施肥期節試験ノ四種トス即チ左ノ如シ

其一 肥料三要素試験

一反歩ニ付窒素二貫五百目(硫酸安母尼亞十貫三百十匁ヲ用ユ)磷酸二貫五百目(過磷酸石灰十六貫六百匁)加里二貫目(炭酸加里五貫五百三十匁)ノ割ヲ以テ各一步ツ、ノ地ニ試験ス之ニ供シタルハ大麥九畝十俵種ナリ左ニ試験ノ區別及ヒ出穂成熟等ヲ示ス

區名	試驗區別	穂出始	穂出揃	成熟
一	無肥料	五月三日	五月十五日	六月十日
二	窒素	全	廿三日	全
三	磷酸	四月二十日	二日	五月三十日
四	加里	五月三日	十五日	六月十日
五	磷酸、加里	四月廿三日	六日	五月三十日
六	窒素、加里	五月二日	十四日	六月十日
七	窒素、磷酸	四月二十日	六日	五月三十日
八	窒素、磷酸、加里	全	四日	全

九 無肥料 五月三日 全 十五日 六月十日

收穫ノ結果并一反歩改算ノ量等左表ノ如シ

區名	試驗區別	一步當収量		一升重量	稈重量	稈長	一反歩改算収量	
		重	容				重	容
一	無肥料	二四	一四	三三〇	二七	一五	七、一〇〇	〇、三三
二	窒素	一五	七	二〇〇	一八	一五	四、五〇〇	〇、三三
三	磷酸	一〇三	三三	三三	二〇	二〇	三〇、九〇〇	一、七六
四	加里	二六	一八	三三〇	二九	一五	七、八〇〇	〇、三三
五	磷酸、加里	七〇	二〇	三三〇	三〇	一八	二一、〇〇〇	〇、八〇
六	窒素、加里	三三	一〇〇	三三〇	三〇	一五	六、六〇〇	〇、三〇
七	窒素、磷酸	一四	七	二四	二三	三三	五、二〇〇	二、三六
八	窒素、磷酸、加里	三〇	八四	三三	一〇	二五	六、〇〇〇	二、五〇
九	無肥料	三	九	三三〇	三	一五	六、三〇〇	〇、二七

以上ノ結果ニ據レハ此地ハ最モ瘠薄ニシテ無肥料ナレハ一反歩ノ収量僅カニ三斗内外ニ過キス而シテ窒素及ヒ磷酸ヲ供給スルコト最モ必要ニシテ此ニ要素併用スレハ二石三斗七升余ニシテ三要素共ニ施與シタル第八區ニ比スルニ壹斗四升ノ差アルノミ之レニ由テ觀レハ窒素ト磷酸ヲ適宜施用スレハ加里ノ如キ

ハ自然不足ナルヘシ然ルニ從來一般ニ用ユル處ノ肥料ハ最モ加里ニ富ミ窒素モ亦多量ニ含有スレドモ磷酸質ニ至テハ著シク缺乏シタルモノナレハ米糠若クハ過磷酸石灰等ノ幾分ヲ併用スレハ利益多カルヘシ

其二 施肥量試験

此試験ハ九區ニシテ每區五步ツ、トシ大麥穂揃種ヲ以テ之ニ充テタリ肥料ハ通則ニ示ス量ヲ以テ堆肥及ヒ水肥ヲ一樣ニ施與シ更ニ各區配當ノ肥料ヲ加施シタリ  
出穂ハ第九區最モ早ク第八、七、六區ト順次之ニ亞キ他ノ五區ハ右四區中最モ後レタル第六區ノ出揃タル頃漸ク出始メタルモノニシテ肥料ノ多キニ隨テ後レタリ刈入ハ五月三十日ナリ試験ノ區別一反歩改算ノ收量等左表ノ如シ

區名	試驗區別	價額	收量			一升重量	稈長
			重	容	量		
一	無肥料	—	二四、四〇〇	〇、九七五	三六	二五〇	二六五
二	練粕 三貫六百匁	一	三三、五〇〇	一、三三八	三〇	二四〇	二六五
三	全 七貫二百匁	二	四三、五〇〇	一、八二二	四	二四〇	二九〇
四	全 十貫八百匁	三	四六、五〇〇	一、九〇〇	五	二四五	三二〇
五	全 十四貫四百匁	四	四九、八〇〇	一、八六八	五	二四五	三三〇

六	練粕 二貫五百匁 過磷酸石灰 一貫九百匁	一	五〇、八〇〇	一、九二〇	四	二五〇	二九〇
七	練粕 二貫四百匁 カリンサン 五貫九百匁	二	四八、〇〇〇	一、七五三	四	二四〇	二九〇
八	練粕 八貫三百匁 カリンサン 四貫百匁	三	四三、八〇〇	二、〇二八	五	二七〇	三二〇
九	練粕 十貫八百匁 カリンサン 五貫八百匁	四	六一、一〇〇	二、二七〇	六	二七〇	三三〇

右ノ結果ニ據リテ無肥料ニ對スル增收額ノ價ヨリ肥料價額ヲ差引タル即チ純利益ハ第二區三拾三錢六厘第三區九拾三錢、第四區貳拾三錢八厘、第六區貳圓三拾壹錢、第七區七拾貳錢、第八區六拾八錢六厘、第九區五拾三錢貳厘ニシテ第五區ハ九拾四錢四厘ノ不足即チ損失トナレリ之ニ由テ觀ルルキハ單ニ練粕ノミヲ施スキハ七貫二百目ヲ適量トシ之ヨリ多ク施スモ利益ナキカ如シ然レモ第六區以下ノ如ク之ニ磷酸肥料ヲ配合スルキハ概シテ收量多ク加之磷酸肥料ヲ配合シタルモノハ熟期早キヲ以テ夏作物ノ爲ニ大ニ利益アルナリ肥料配合ノ注意スヘキヲ之ヲ以テ知ルヘシ

其三 單一肥料試験

此試験ハ普通農家ノ施與スル各種肥料ヲ一定ノ價額ヲ以テ施與シ此地適當ナル肥料ヲ知ラント欲スルモノニシテ堆肥及ヒ水肥ハ通則ニ示ス量ヲ以テ各區一樣ニ施與シタリ  
特別肥料ハ一反歩當リ三圓ノ割ヲ以テ施シ大麥九畝拾俵種ヲ以テ此試験ヲ行ヘリ試験區別并ニ一反歩改算ノ收量等左表ノ如シ

試驗區別	施肥數量	重收		一升重量	稈重量
		量	容		
鱒 糞 粕	十一貫四百目	三五〇〇	一三六	二〇	二九〇〇
鱒 糞 粕	十貫八百目	三五〇〇	一三六	二〇	二九〇〇
燒 耐 粕	二十四貫目	三〇五〇	一三六	二〇	二六〇〇
油 粕	十八貫目	三四八〇	一三六	二〇	三三〇〇
味 噌 粕	百貫目	四〇〇〇	一三六	二〇	四二〇〇
米 糠	三十三貫目	四六二〇	一七六	二〇	三三〇〇
人 糞	二百四十貫目	五五六〇	二二四	二〇	四三〇〇
人 尿	五十荷	四二五〇	一七六	二〇	三五〇〇
雞 糞	六十貫目	五七〇〇	二二三	二〇	四二〇〇
蠶 糞	十三貫五百目	二五五〇	一〇三	二〇	三三〇〇
廐 肥	三百貫目	四二〇〇	一七六	二〇	三五〇〇
無 肥 料	—	一五〇〇	六〇	二〇	一三〇〇

以上ノ結果ニ據レハ鶏糞最モ優リ人糞之ニ亞キ廐肥、米糠、人尿、味噌粕等順次之ニ亞キ其他各區ノ收量ハ壹石三斗七升以下ニシテ孰レモ特別肥料ノ價額ヲ償フニ足レルノ增收アルモノナシ

其四 施肥期節試驗

此試驗ハ三區ニシテ每區五步ツ、トシ大麥穗摘種ヲ以テ之ニ充ツ試驗ノ目的ハ鱒粕チ一反歩ニ付十貫目ノ割ヲ以テ施與スルニ之ヲ施スノ時期如何ニ由テ收量ニ如何ナル關係アルヤヲ知ラント欲スルニアリ而シテ堆肥及ヒ水肥ハ通則ニ示ス量ヲ以テ播種前ニ施シタリ  
試驗ノ區別并ニ一反歩ニ改算シタル收穫ノ結果等左表ノ如シ

試 驗 區 別	重 收		一升重量	稈重量
	量	容		
鱒 粕 ノ 全 量 ナ 元 肥 ニ 施 ス	四二〇〇	一六八〇	二五〇	五二
鱒 粕 チ 元 肥 及 ヒ 補 肥 ノ 二 回 ニ 分 施 ス	三四七〇	一四〇〇	二四八	四七
鱒 粕 ノ 全 量 ナ 補 肥 ニ 施 ス	二五五〇	〇、九七五	二五〇	四〇

但シ補肥ハ十二月上旬ニ至テ施與シタリ

以上ノ結果ニ據レハ全量ヲ元肥ニ施シタルモノ最モ優リ二回ニ分施シタルモノハ之ヨリ二斗八升少ク補肥ニノミ施シタルモノハ七斗五合少シ之ニ由テ觀ルルハ水肥ノ如キ速効アルモノハ一時ニ多量ヲ施スヨリモ時々施與スルノ効多キハ明瞭ナレハ魚肥等ノ乾燥シタルモノニ至テハ元肥ニ施スニアラスンハ十分ノ効ヲ奏モシムルヲ能ハサルヘシ

第七目 播種期節試驗

此試驗ハ十二區ニシテ每區三步宛トシ大麥ゴルデンメロン種、小麥フルツ種ヲ以テ施行ス肥料ハ堆肥無カ  
 リシヲ以テ水肥及魚肥ノミヲ用ヰタリ試驗ノ區別、出穂、收穫期并一反歩ニ改算シタル收量等左表ノ如シ

種別	試驗區別	穂出揃	收穫	收量			一升重量	秤重量
				重量	容量	石量		
大麥	十月十七日播	四月廿九日	六月一日	四〇、五〇〇	一、四二	二、八五	四、四	
全	全 廿八日播	五月十五日	全 十二日	三、七〇〇	一、三〇〇	二、八五	四、四	
全	全 十一月七日播	全 十八日	全 十七日	三、七〇五	一、三三三	二、八〇	四、四	
全	全 十五日播	全 廿一日	全 二十日	三〇、〇〇〇	一、〇七	二、八〇	四、四	
全	全 廿九日播	全 廿八日	全 廿八日	一九、五〇〇	七、二	二、七〇	四、〇	
全	全 十二月十日播	全 廿九日	全 三十日	一九、二〇〇	七、二	二、七〇	四、〇	
小麥	十月十七日播	全 二十日	全 十八日	六〇、〇〇〇	一、五八〇	三、七五	三、九	
全	全 廿八日播	全 廿二日	全 廿二日	四九、五〇〇	一、三三八	三、七〇	三、九	
全	全 十一月七日播	全 廿四日	全 廿五日	四、七五〇	一、三三六	三、七〇	三、九	
全	全 十五日播	全 廿八日	全 日	三、四二〇〇	九、五〇	三、三〇	三、八	
全	全 廿九日播	六月一日	全 廿九日	三〇、〇〇〇	八、八二	三、四〇	三、七	
全	十二月十日播	全 三日	全 廿九日	一五、五〇〇	五、〇〇	三、三〇	三、七	

以上ノ結果ニ據レハ大小麥共二十一月月上旬マテニ播種スルニ利アルカ如シ本年ハ概シテ早播ノ結果良好  
 ナリシヲ以テ殊ニ以上ノ如キ結果ヲ呈シタルナランスル試驗ハ多年ノ成績ニ徴スルニアラスンハ當ニ一  
 兩年ノ結果ヲ以テ断定スルコト能ハサルナリ然レモ遲播ノ不利ナルハ言ヲ俟サル處ナレハ播種ノ適期ヲ  
 誤ラサランコト肝要ナルヘシ

● 林 業

八名郡内ニアル共有山林反別ハ貳千四百壹町步余ニシテ荒敗ノ個所不尠之レガ栽培保護ヲ加ヘ以テ林相  
 ナ爲サシメント當局者及有志者ノ常ニ獎勵勸誘シツ、アルモ未タ充分ノ効果ヲ見ス然ルニ恰モ廿九年度  
 ニ於テハ縣稅ヲ以テ山林獎勵費ヲ下付セラル、ノ氣運ニ際會セシヲ以テ八名郡會ハ郡立苗圃ヲ設ケ松、  
 杉、檜、樺等ノ苗樹ヲ栽培シテ共有山林ニ植樹スルモノニ限リ無代價下付スルノ良策ナルヲ認メ左ノ規則  
 ナ決議セラル

八名郡苗圃規則

第一條 郡内ノ共有山野(本縣地内)ニ植樹ヲ獎勵スル爲メ農事試驗場内ニ杉、檜、松、樺等ノ苗圃ヲ設  
 ケ苗木ヲ栽培ス

第二條 苗木生育セシキハ左ノ二項ニヨリ下付ヲ請フモノニ無代價下付スルモノトス

一 郡内共有山野ニ植樹スルトキ

一 郡内小學校生徒ヲシテ共有山野ニ共同植樹ヲ行ハシムルトキ

第三條 前條苗木ノ請求不實ト認ムルトキ又ハ請求者多數ナルトキハ適宜歩合ヲ以テ下付スルモノトス

第四條 苗圃整理手續并ニ苗木請求手續等ハ別ニ定ムルモノトス

第五條 本圃ニ要スル經費ハ總テ郡費ヲ以テ支辨ス

茲ニ於テ苗圃六畝歩ヲ新設シテ之レヲ四區トシ四月上旬杉、檜ノ種子ハ奈良縣吉野郡川上村上平豊吉ヨリ松ノ種子ハ本縣中島郡稻澤町石黒清助ヨリ各壹斗ツ、ヲ購入シテ之レヲ水撰シ苗床ヲ設ケテ四月十三日ヨリ五月九日迄ニ全ク播種シ終レリ而シテ下種ヨリ概テ二周日ヲ經テ發芽シ以來生育良好ニシテ目下生育ノ苗樹ヲ概算スルニ凡ソ左記ノ如クナリトス

一杉 拾五萬五千三百本

一檜 八萬五千三百四十四本

一松 貳拾六萬七百五十本

櫟ノ播種期ハ晩秋ヲ最良トスルモノ、如シ依テ今準備中ニ係レリ

◎三河物産共進會顛末

三河物産共進會ハ本會報告第一號ニ報導セシ昨廿八年中決定セシ規則ニ仍リ出品物ヲ勸誘シ委員出品人物代ヲ定メ又審査委員ヲ選定シ七月廿一日ヨリ委員出品人物代交番ニテ共進會々場ナル寶飯郡豊川町妙嚴寺内へ出張シ搬入スル所ノ物品ヲ受領シ其他諸般ノ事務ニ從事シ同月廿六日ヨリ審査ニ着手ス依テ本郡委員ハ夫々擔當部へ出勤審査ニ從事シ八月十日結了同十一日開會同十八日褒賞授與式ヲ舉行ス此日大雨荒摸樣アリシニモ拘ラズ本縣知事閣下并ニ貴族院議員田中芳男氏ヲ始メ三河各郡長、縣屬、本縣農事試驗場員、三河各郡參事會員、郡會議員、各町村長、各町村農會會長等臨席三百餘名祝辭、答辭等アリテ盛會ナリシ同月三十日閉會期間ハ二十日間ナリト雖準備ヨリ引拂迄ニハ彼是五十日ヲ要ス此間所謂炎暑ノ候ニシテ殆ド堪へ難キ場合アリシニモ拘ラズ關係諸氏ノ熱心ナル流汗拭モ敢ヘズ孜々勉勵能ク從事シタルノ結果何ノ支障モナク此大業ヲシテ和氣藹々ノ内ニ終リシハ幸福ニテアリシ我郡ハ可ナリノ成績ヲ顯ハシ大ニ面目ヲ施スヲ得タリ是眞ニ喜ビ安ンズベキカ否熟慮スルニ今回ハ我郡當業者ニ一鞭ヲ加ヘラレタルモノナレバ當業者タル者小康ニ安ンゼズ益々研磨ノ効ヲ積ミ後回ニ敗ル、コトナキナ期スベキナリ此舉三河開闢未曾有ノ企業ニシテ其益蓋シ大ナリ却說本郡出品陳列場ハ場末ニ屬シタルト裝飾ノ至ツテ質素ナルトニ依リ縱覽者ノ何氣ナク觀過センコトヲ氣遣ヒシニ依リ我郡ト渥美郡トニ與ヘラレタル參考室ノ中央ニ喫茶店ヲ設ケ麥湯ヲ呈スルコト、ナシタルハ炎暑ノ候加フルニ第一室ヨリ數室ヲ隔テ居ル故縱覽者

ハ數次ヲ要シ來ルヲ以テ喜ンテ之ヲ喫スル者多ク開會中多量ヲ要シ頗ル好評ヲ得シハ勞シテ効アル企ニ  
テアリシ惣出品受賞者郡別表役員姓名等左ノ如シ

役員撰定

委員

出品委員

西郷村大字萩平

鈴木平五郎

山吉田村大字下吉田

鈴木傳治

玉川村

加藤桂

日吉村大字日吉

原彌三郎

三上村

赤川要助

牛川村

平尾閑一郎

日吉村大字吉川

山口喜助

玉川村

近田文次郎

計八名

審査委員之部

一米ノ部

長部村

奥平貞次郎

一麥ノ部

豊津村

田中三郎兵衛

一蕪ノ部

富岡村

中川致知

一炭ノ部

山吉田村

馬場清三郎

一茶ノ部

大野町

生田福三郎

一香蕈ノ部

山吉田村

丸山常吉

一紙ノ部

全

馬場清三郎

受賞者ノ部

大麥

壹等

山吉田村

生田仙次郎

蕪

壹等

富岡村

中川致知

大麥

貳等

西郷村

白井春藏

全

全

山吉田村

生田琴次

米

三等

富岡村

安形熊五郎

麥

全

西郷村

小林徳松

全

全

全

時野芳治

小麥

全

日吉村

山口喜助

炭

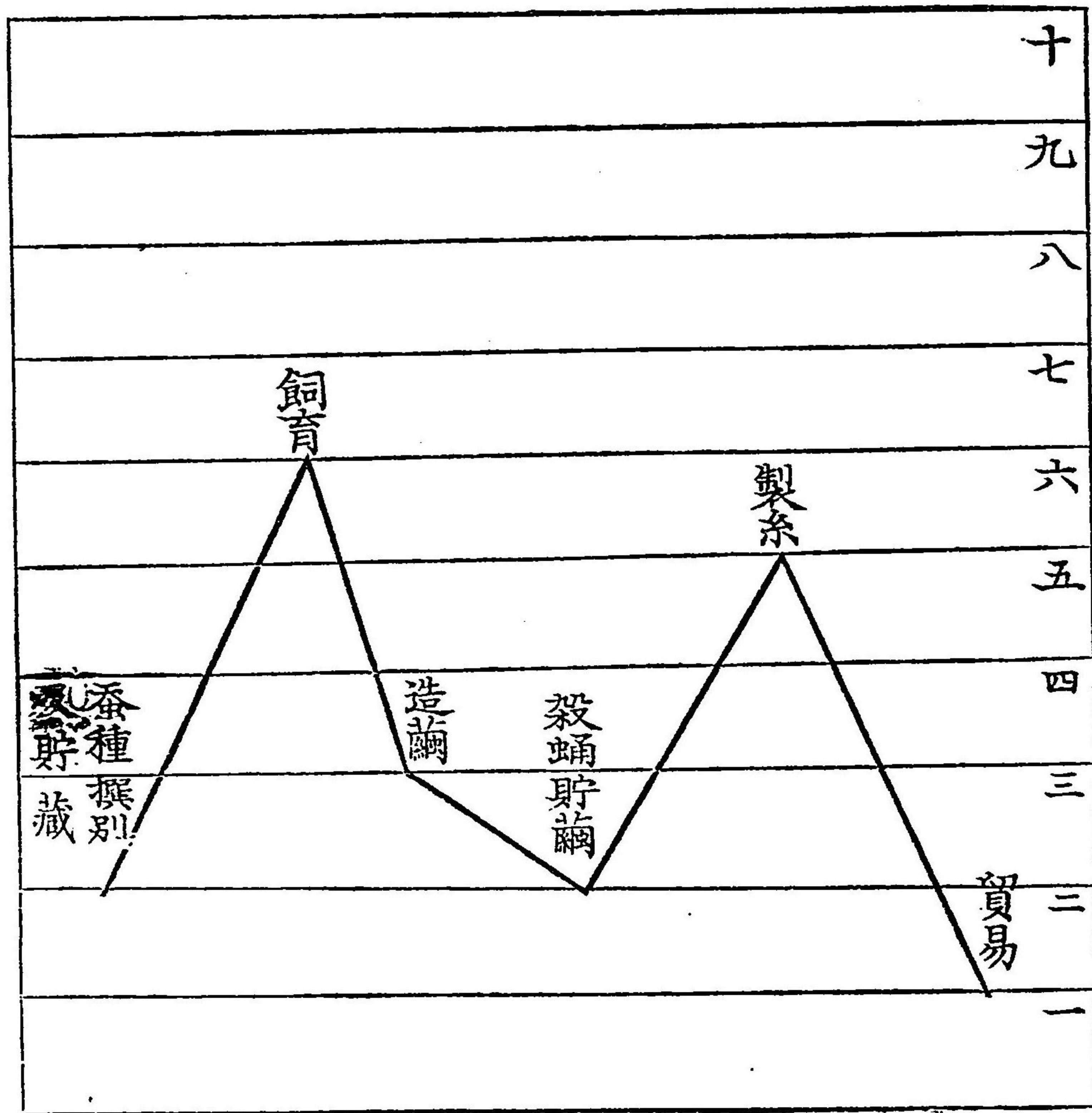
全

山吉田村

織田源松



蠶業現況



水平線

四等 三十三人  
五等 四十四人 (姓名畧ス)

三河物産共進會出品一覽表

(明治二十九年八月十九日調)

郡名目	米	麥	藍	茶	實綿	菜種	織物	生糸	繭	蠶種	紙	炭	椎茸	綿糸	計	受賞者	部合
八名郡	1228	1555	1654	334	48	133	333	4	653	133	26	106	47	84	653	1653	239
渥美郡	36	27	101	20	3	2	3	4	33	13	1	2	5	1	347	171	357
北設樂郡	36	103	124	22	1	1	1	2	36	2	2	6	36	1	410	48	114
南設樂郡	6	26	125	25	8	1	2	2	26	8	1	3	4	1	490	66	134
寶飯郡	39	22	307	10	27	16	109	7	36	13	1	39	2	105	259	296	
東加茂郡	23	23	25	3	5	5	1	5	14	1	19	39	2	239	49	162	
西加茂郡	13	13	4	2	23	5	10	1	5	20	6	1	1	400	83	203	
額田郡	259	148	144	122	96	14	64	3	127	14	1	1	1	591089	334	297	
幡豆郡	25	200	580	5	105	49	64	4	114	34	1	1	1	31124	362	290	
碧海郡	26	146	206	6	33	27	40	5	166	13	1	1	1	4	744	176	240
計	1228	1555	1654	334	48	133	333	4	653	133	26	106	47	84	653	1653	239

◎八田達也君蠶業ニ關スル演說大意

筆記者 本多種次郎

本編ハ明治廿九年八月十一日豊川妙嚴寺内ニ開設セシ三河物産共進會開會式ノ當日豫テ三河農會長ノ請求ヲ容レ出張セラレタル山梨縣技師八田達也君ノ演說セラレタル大意ヲ筆記シ技師ノ校閲ヲ得タルモノナリ

私ハ山梨縣ノ八田達也デゴザリマス此度三河物産共進會ヲ御開ニ付拜見旁罷出マシタ處本日ハ開會式御舉行ニ付私ニ蠶業ノ咄シヲセヨト會長ヨリノ御請求ガアリマシタ實ハ各郡ノ情況ヲ一見シタ上卑見ヲ述ヘル積リノ處山梨縣ヨリ返ヘントノ通知ニヨリ不得止各郡ヲ回ル事モ出來マセン故只今ヨリ簡單ニ意見ヲ述マスルモノ、蠶業ニ付直接ノ利害ハ地形風土及蠶室蠶具等ヲ見タ上デナケレハ容易ニオハナシハ出來マセンガ試ニ聊平素懷イテ居ル處ノ意見ヲ申述ヘヨウト思ヒ升然シナカラ養蠶ノ全体ヲ咄スニハ頗ル長時間ヲ要シマスカラ大体ニ就キオ咄シシマス目下ノ蠶業現況ハ茲ニ畧圖ガ掲ケテアリマスガ此圖ハ私シノ腦髓ニ感シ居ル所ヲ頃日中蒲郡滯在中畫タモノナレハ或ハ多少違ノナイトモ保證ハ出來マセン宜シク諸君ノ校正ヲ請ヒマス而シテ此畧圖ニ示ス現況ハ強テ本縣ノ有様ト云フデハナク凡ソ全國ヲ通觀シタルモノナレハ左様御承知アリタシ第一蠶種ノ撰別貯藏ハ僅ニ水平線ヨリ二段飼育ハ凡六段ノ位置ニ上リシ故蠶種ノ撰擇等ハ未タ八段階ノ餘地ヲ有シ飼育モ亦四段階ノ餘地ガアル造繭ハ三段下リテナリ殺蛹貯

繭ハ尙一段下リテナル製糸ハ僅ニ五段階此生糸ヲシテ貿易ノ仕方ハ最下級僅ニ一段登リシノミデアル實ニ未開ト云テモヨカロウト思フ然レハ一社若クハ一個人トシテハ或ハ遙ニ進歩シテナルモノモ有ナランガ全体ヨリ云ヘハ如斯有様デアルト云テ差支ナイ

蠶種撰別何故ケ様ニ低イカト云フニ當地ハイザ知ラス我地方デハ蠶種家ノ云フガ儘ニ一任シテ多クハ奸商輩ニ瞞着セラレツ、アルモノ、如ク當共進會ノ結果ハ褒賞授與式ノ后デナケレハ分ランガ若シ本會ガ赤引ニ優等賞ヲ與フレハ蠶種家ハ必ス赤引ヲ持込ムベシ三河ハ赤引静岡ハ青熟何縣ハ何々ト蠶種家ガ趨勢ヲ察シテ猥リニ名稱ヲ付シ甚シキニ至リテハ他人ノ製造セシ種ヲ無印ニテ持込ミ宿屋ニテ思イ思イニ印ヲ捺シ賣リ歩クモノアリ養蠶家ハ居ナガラ右ノ蠶種ヲ買フニ安心シテ居リ敢テ蠶種製造家ノ實況ヲ視察シテ製造セシムルモノハ至テ少イシテ見レハ蠶種ノ撰別ニハ頓ト注意シナイト云ハチバナラン又次ニ種類撰擇ノ事ハ本會ノ出品ニ就テ見ルモ雜駁ニシテ良種ト見ルヘキモノハ甚タ少イ之ニ依リ今回種類毎ニ纖維ノ細大及初緒中心末線ノ均否類節ノ多少其他ヲ檢査シ種類ノ良否ヲ鑑別セントシテ又昔、小石丸、赤引、青熟、薄赤等數種ヲ撰別シテ檢査セシニ纖維ノ初中末ノ不均一甚シキモノハ薄赤デ此薄赤ハ石ノ如キ堅キ繭ニテ產地ハ能ト明言セヌガ凡糸長五百回トシテ初緒ノ糸ノ太サハ中心百回ノ太サニ比シ二割五六分細ク末線ノ中心ヨリ殆ント六割細ク赤引ハ初緒ハ中心ニ比シ四割許リ細ク末線ハ半分ニ足ラス小石丸ハ初緒ノ中心ヨリ細キ事僅ニ六分五厘ニシテ一割ニ至ラズ末線モ亦三割位細キニ過キヌ又昔モ稍小石

丸ニ均クシテ赤引、薄赤等ハ前後非常ニコケテナル一回ノ試験ナレハ完全ト云フ事ヲ得スト雖亦引若クハ薄赤ハ中太ニシテ又昔、小石丸ハ稍々差ノ少キヲ知ル私ガ常ニ考ヘ居ル處ト違ハヌガ實ニ妙デシマ小石丸、又昔ハ不均一ニシテ赤引ハ均一ナリト云フ事ハ決シテ無イモノト信ズ是レニ依リテ見レハ又昔、小石丸ハ製糸ニ適シ赤引ハ不適當ナリト云フ事ハ間違ナイ如斯細太不均一ナル繭ヲ造リテ製糸家ニ賣リテ置テ日本生糸ノ聲價ガ低イ製糸家ガ不勉強ダナドト云フ事ハ隨分無理ナ話シテハアリマスマイカ開ク處ニ依レハ伊勢ノ伊藤小左衛門氏ガ繭ヲ買テ之ヲ逸々撰別シテ其不良ト認ムルモノ凡五割ヲ他ヘ賣拂フテ全ク纖維ノ均一ト認ムルモノノミヲ以テ自家製糸ノ料ニ充ルト云フ事デアアルガ伊藤氏ノ製糸ノ聲價ノ高キハ偶然デナイ是ヲ以テスルモ種類ノ撰擇ハ實ニ必要デアアル今後此地ノ蠶業カ一層進歩シテ他府縣ヨリ陸續製糸家ガ入り込ミ來リ三河ノ繭ハ雜駁ナリト云レタキハ如何デシヨウ若シ共同一致シテ種類ノ一定ヲ圖リ其實ヲ擧ゲキハ目下百萬圓ノ繭ハ百五萬圓乃至百拾萬圓ニモ賣レルナラン然ルチ今ノ儘改良ニ意ヲ用ヒサランカ他國ノ繭ヲ買盡シテ後漸ク三河ヘ入込ミテ買フト云フガ如キ有様ニ至ルハ明デアアル如斯ハ實ニ残念ノ次第デ是レハ獨リ三河ノミデナク各國皆同シ事デアアリ升

次ニ蠶種ノ貯藏ハ最モ重キヲ置チハナラヌ養蠶事業中蠶種ノ貯藏ガ五步掃下シヨリ收繭迄ガ五步ト云フ位イデアアリ升此頃ハ追々進歩シテ埼玉縣ニテハ歐洲風ノ蠶種貯藏會社ガ出來テ一枚何程ト云テ手數料ヲ取リ完全ニ貯藏スル便利ナル方法ガアルト聞キマシタ全体蠶種ノ貯藏ニ重キヲ置カチハナラヌト云フハ

卵ハ呼吸チシテ居ル然シナカラ氣候ノ寒暖ニ依リテ自然緩急ノ差ガアリテ彌寒キ氣候ニ逢ヒテ后暖氣ニ觸ルレハ發生スル天性デアアリ升カラ華氏寒暖計四十度以下ノ寒氣ニ凡三十日逢テ后六十度以上ノ温度ニ逢ハハ何時チ間ハス發生シマス幸ヒ無事ニ冬ヲ通り越シ漸々暖氣ニ逢フキハ順序正シク發生ノ支度チナスモ若シ再ヒ寒氣ニ後戻リナスル等ノ一アレハ發育ノ準備チ中止スル事ハ恰モ巢籠リノ鶏ニ卵チ抱カセ十日若クハ十五日チ經テ后親鶏チ離シ數日チ經テ再ヒ抱カスルト同様此卵ハ必ス完全ナル孵化ハセサルヘク若シ孵化スルモ發育充分ナラサルト一般ナルカ故ニ冬ヨリ春ニ至ル間ノ氣候ハ如何ニ變化アルモ之レチ蠶種ニ感セシメサル事肝要デアアル果シテ然ラハ如何シテ可ナルヤト云フニ完全ナル貯藏器ヲ造リ之ニ貯フヨリ外アリマセン故ニ十月ノ末ヨリ十一月半頃ニ至レハ蠶種チ二三時間清水ニ浸シ羽根ニテ蛾尿及塵ホコリ等ヲ洗滌シ日ノ遠キ處(北ノ日陰)ニ乾シ置キ充分乾燥シテ元量ニ復シタルキチ俟チ桐ニテ造リタル二重箱即チ箱ト箱トノ空隙ニハ鋸屑ヲ詰メタル恰モ金庫ノ如キ箱ニ貯藏スベシ尤モ蠶紙ト蠶紙トノ距離ハ凡ソ一寸ツ、ニテ足ル其故ハ冬ハ蠶卵ノ呼吸至テ少ナキモノ故卵チ五萬粒ニ要スル空氣ハ一リットル即我五合五勺許リアレハ試ニ蠶ニ入レテ土中ニ置クモ差支ナイト云フ位イデアアリ升カラ可成貯藏函チ寒キ處ニ置キ三月ノ中旬若クハ下旬函ヨリ出シテ蠶室ニ移シ追々發生ノ準備チナサシメルガ適當ノ處置チ有升若シ貯藏不完全ナレハ逆モ豊作チ期スル事ハ出來ント斷言スルニ憚リマセン故ニ前ニモ申述ヲ通り養蠶ハ蠶種ノ貯藏ガ半ハチ占ムルト云フノデ有升然ルニモ係ハラズ貯藏箱ノ設ケ少ナキハ實ニ


不注意ト云ハチバナラン

又飼育ハ追々進歩シテ今回ノ共進會ノ出品チ一見スルモ實ニ立派デ我山梨縣ノ如キ十年前ニハ中々今回見ルカ如キ繭ハナカリシト覺ユ明治十年ニ静岡縣ニテ開キシ共進會ニ出品セシ繭ヲ近頃見ルニ是デモ共進會ヘ出品ノ繭カト思フ様デアアル今年ハ氣候不順ノ爲ニ本會ノ出品モ大ニ減シタト聞キマシタ其不順序ノ氣候ナルニモ不拘美事ノ繭ノ多々出品シアルニハ感服シマシタ乍併今年氣候不順ノ爲ニ大ニ出品チ減シタト云フ一事ニ至リテハ些感服シマセン如何トナレハ若其々熟練チナシタ曉ハ強チ氣候ニ左右セラル、事モナカラシ今飼育ノ要點チ簡單ニオ咄シスレハ彼ノ春繭ハ早リニ當リテ降り年ハ不作ト云フ故ニ濕氣ノ多キ年ニ出逢ハ之レチ乾燥セシムル手段チ執ルヘク即チ今年ノ如キ降り年又ハ宅地低地ニシテ濕氣多キトカ霧ガ深イトカ云フ年柄ニハ其心シテ取扱チナス故早リ年ト大差ハアリマセン更ニ之チ詳言スレハ桑ハ勿論蠶具粉穀ニ至ル迄充分乾燥ニ力メ尙炭糠(粉穀チ燒キタルモノ)チ用ユル迄ニ注意シ寧ロ干シ殺スト云フ位ノ覺悟カ肝要デアリ升本年上作セシモノニ付キテ聞キマシタニ粉糠平年ヨリ三倍チ用ヒマシタト云ヒ又一人ハ桑賣リチ目的トシ其賣レル迄ノ間飼育スル積リニテ極メテ少シツ、給桑シテ幸ニ上作チ得タト云フ人アリマシタ又早リ年ニハ濕氣チ厭ハヌト云テ給桑チ多量ニ與ヘテ不作チ招イタ例ガ往々アリマシタ以前ハ兎角蠶兒チ肥大ニ育ツルガ手柄ノ様デアリシガ今ハ反對ニテ虫チ堅ク育ルチ上手ト云フ則チ適度ニ給桑チナシ蠶座蠶下チ乾シ彼ノ脂肪チアツク膨レテ居ル虫ヨリハ反テ體格ノ締々虫ガ立派チ繭チ

造ルモノデアアル加之濕氣チ排除シテ養フタ蠶ハ體色ガ冴ヘテ美クシイ然ルニ桑チ安リニ澤山與ヘテ飼育スル等濕氣ノ多キ中ニ育ツタ蠶ハ其色ガ濁リテ繭ノ色モ濁リ隨テ生糸ヨリ蠶種迄モ其色ガ冴ヘヌモノデアアル現ニ昨年博覽會ノ試ニ蠶種ニ就テ其飼育ノ乾濕チ評シテ見タニ果シテ當ツタ冴ヘテ居ル種ハ必ス繭モ冴ヘテ居ル總テ蠶ハ締テ飼フト云フガ秘傳奧儀ト云テ可ナリデアアル而シテ病毒ノ恐ルヘキハ微粒子ナレト其他ノバクテリアノ寄生モ實ニ恐ルヘキモノデアアル少シニテモ濕氣ノアルトハ忽チ桑葉蠶具等ニ寄生シテ蠶兒ノ生育チ害シ到底充分ノ結果チ見ルコトハ出來ン此微ハ多ク濕氣ノ媒介ニ依ルモノナレハ濕氣チ排除スル事ニ注意スルガ肝要ナリ濕氣チ排除スルニハ第一給桑チ減スヘク若シ降り年ニアリテハ寧ロ桑ヨリ粉穀チ與フト云フノ方針チ取ルチ宜シト思ヒ升

蠶具ニ付テ一言センニ頃日蒲郡又ハ豊橋間チ往復スルニ丸籠ニ廷チ搔付タモノチ見受ケタレト彼レハ福島縣ニテ用ユル蠶座チ摸造シタルモノト考ラル全体丸キモノハ長方形ノモノニ比シ場席チ要スル事ガ多クテ不利益デアアル然レト福島縣ノ如ク寒氣ニ強キ地方ニテハ蠶座ニテ飼育スルトキハ幾分暖キ爲メ必要ナレヘケレト當地方ナドノ如キ暖氣ノ所ニテ直チニ執テ似テハオカシイ話デアアル兎角福島縣ハ他府縣ニ先チ蠶業ニ熱心シタル爲メ世間目シテ熟練ナルハ福島縣ノミノ如ク妄信シ一カラ十迄福島ノ似チナル事トシテ奥羽寒地ニ適當ナル火力飼育チ其儘九州ニ移シ年々失敗チ執リテ願サルカ如キハ實ニ笑止千萬ト云フヘキナリ开ハ暫ク措キ丸籠ニ廷チ搔付五年モ七年モ其儘使用スルニ至リテハ言語同斷ナリ蠶座

ノ如キハ日々必ス取替へ若シ雨天ノ如キハ日ニ何回モ替へテ濕氣ハ勿論臭氣等ヲモ發セシメサル事  
 ナカムヘキナリ要スルニ籠ト庭トハ離シテ庭ナキテ庭ナ自在ニ代ラル、様スヘキナリ抑モ蠶兒ノ衛生ハ人間  
 ト一般極メテ蠶室ハ清潔ニ蠶具ハ可成年々新ニスルヲ必要ト認ム然ルニ眞黒ノ庭ヲ掃付テ籠ヲ用ヒテ願  
 ミサルハ恐入リタル次第ナリ須ク御注意ヲ願フ今適當ト認ムル蠶具ハ縦三尺五寸横二尺五寸ノ長方形ノ  
 籠ニシテ庭ト籠トハ分離シ置キ除沙ノ時或ハ乾カサントスル時ナドニ輕便ニ取扱ヒノ出來得ル様ニシマ  
 イト思ヒ升

造繭ノ事ハ飼育中ノ熱心ニ引換へ甚メ注意ノ行届カサルカ如ク上簇スルト最早收繭シタルガ如ク思フテ  
 豊作祝チスル向ガアル様ナレハ造繭ニ意ヲ用ヒズ放任シテ願サルトキハ飼育中如何ニ健全ノ蠶兒ナリト  
 雖ハ決シテ良繭ヲ多量ニ收ムル事ハ難イ蠶兒ハ上簇シテ四十七八時間ニ糸ヲ吐キ終リ又四十七八時間ヲ  
 過クレハ蛹トナリ尙四十七八時間ヲ過クレハ蛹能ク硬化スルモノナレハ上簇シテ後二晝夜間快晴ニシテ  
 暖ナレハ糸腺ニ有ル丈ノ糸ヲ吐キ盡シ其糸縷ハ片端ヨリ乾クニ依リ繭層厚クシテ且解舒容易ナルモ若シ  
 雨天ニシテ且寒ク濕氣多キ時ハ充分糸ヲ吐カサル爲メ繭層薄ク加之解舒頗ル難ク類モ多キ事ハ實驗上明  
 ナル事デアアル糸ハ素ト体内左右ニアル二個ノ糸腺ヨリ二筋ノ糸ヲ出シ護膜質ニヨリテ合シテ一本トナレ  
 凡濕氣多キ時ハ此糸ガ乾カヌ内ニ又其上ニ糸ヲ吐キ着ケルヲ以テ互ニ糊着シテ仕舞ヒ遂ニ解舒惡シクナ  
 ルモノナリ又其掛ケ方ハ  如斯ニシテ暖氣ナレハ糸ヲ吐ク事速ニ寒冷ナレハ中止スル事アル故其

中止スル場合ニ於テ輪類ヲ造リ製糸ニ不適當トナル此注意ト不注意トニヨリ一割位イノ得失ハ實ニ容易  
 デアルサレハ此絶食ノ間殊ニ營繭ノ際ハ給桑シテ飼育スルキヨリハ一層注意シテ冷氣ナレハ火力ヲ用ヒ  
 テ温度ヲ補ヒ又温氣ニ過クレハ空氣ノ流通ヲ圓滑ニシテ陽氣ヲ平和ニシ一分時一秒時タリトモ油斷セズ  
 蠶ヲシテ休ミナク吐糸セシムル様注意セテハナラヌ蠶ハ老熟スレハ自然ニ繭ヲ造ルモノデアルト云フ考  
 ヘヨリハ人工ヲ加ヘテ繭ヲ造ラシムルト云フ考ガ第一デアアル而シテ其造繭ノ場所ハ昔ハ暗イ處ガ宜イ片  
 明リハ宜シクナイト云ヒシガ全体彼ノ蟲ハ安全ニシテ一生ヲ全フセヨウトイフ考ヲ懷テ居ルニ違イナイ  
 カラ明ルケレハ其方ハ厚ク糸ヲ吐テ外來ノ被害ヲ防ク用意ヲナスモノ、如シ一部明ルケレハ其部分丈ケ  
 特ニ繭層厚ク暗ケレハ其部分丈ケ繭層薄キト同一理ニシテ暗室ノモノヨリハ明室ノモノ糸量多キ事ハ經  
 験上動カスヘカラサルノ處ナリ去リ乍ラ若シ日光ガ直接ニ差シ込ムナドノ事アルトキハ蕙ヲ掛ケテ日光  
 丈ケハ防カチハナラヌ斯ク明ルキ室ニ上簇スルトキハ蠶ハイクラ糸ヲ吐キ出シテ厚ク掛ケテモ未タ薄イ  
 カラト思フテ体中ニアル丈ケノ糸ハ残りナク吐キ出シテ仕舞フ故ニ上簇ハ明室ヲ可トスルト御承知アリ  
 タシ

殺蛹貯繭ハ實ニ幼稚ノ域ニアルト云テ宜シイ何トナレハアレ程立派ナ繭ヲ收穫シタノニ數月ヲ經過セサ  
 ル今日既ニ微害ニ罹リテ腐敗物トナリシモノアリ實ニ残念至極デアアル然ラハドウスレハ宜イカト云フニ  
 蠶ハ上簇シテ繭ヲ營ミ蛹ニ化スル迄ニハ一周間ノ日子ニシテ充分足ル事ナレハ七八日目ニハ搔落シテ繭

ヲ收メ直ニ殺蟪シテ仕舞フガ肝要ナル其日ヲ經過スルニ從ヒ漸次蛾ニ化スルノ準備ヲナス故ニ蟪ハ益々發育シテ脂肪ハ益々減シテ來ル斯クスルト殺蟪ニ別段多クノ手數ヲ要スルノミナラス蟪ノ發育スル其間呼吸スル爲メ繭ノ光澤ヲ損シ糸質ヲ害スル等一々枚擧スル事能ハサル程ノ害ガアル而シテ殺蟪スルニハ種々ナ方法ガアルナレバ就中火ヲ殺スガ尤モ宜シイ其焙爐ノ構造ハ高五尺ニテ下部ノ貳尺五寸ハ板ヲ張リ上部ノ貳尺五寸ハ紙ヲ幾重モ張リテ造ル斯クスルキハ水氣ハ此紙ニ吸收セラル、故ニ至極宜シイ火力ハ百七十八度ニテ二時間モ經レハ全ク蟪ハ死スヘシ夫ヨリ二日間許リハ低温ニテ乾カシ生繭量ノ三分一ノ量目ニナレハ宜イ然ルトキハ蟪ハ達摩狀ヲナスモノナリ而シテ其貯藏法ハ私ノ著書ヲ採萃シテ愛知縣農會ノ報告書ニ載セラル、趣ニ付キ自然御覽ニナルデアロウト思ヒ升蛆ガ出ルカラト云テ殺蟪スルハ最早手後レデアアル殊ニ明年ハ五縣聯合共進會ノ開設モアル事ナレハ充分御試驗ノ上優品ヲ出陳スル様今ヨリ御注意アリタシ

製糸ハ蠶系業中尤モ進歩ノ度ガ低イナセナレハ此系ハ歐米ニ持チ行キテ織物ニナルカ又其他ノ裝飾品等雜用ニ供セラル、カ織物用ニシテモ縱系ニナルカ横系ニナルカト云フ事ヲ知ラス且ツ日本ノ糸ノ繰リ方ハ艱節ガ多クテ表方ガ若イ爲メ光澤ヲ損シタリ品位ガ揃ハナイ等實ニ困ツタモノナリ全体養蠶家ハ製糸家ノ需メニ應スル目的ニテ養蠶ヲスルト云フ様ニ相待テ爲サチバナランノニ養蠶家ハ蠶種商ノ云フガ儘ニ任セテ種類ノ撰別モ爲サス畢竟蠶種商ノ爲ニ養蠶ヲスルト云フ様ナ有様デアアル製糸家ハ將來宜シク奨

勵法ヲ設ケテ小石丸ガヨイ又昔ガ宜イト云テ一等ニハ五拾圓上ケヤス二等ニハ三拾圓上ケヤスト云フ様ニシタナラハ仲買人ノ爲ニ沮遏セラル、事ナク益進歩スルデアロウト思フ又養蠶家ハ之ニ應シテ製糸家ノ爲ニスルト云フ覺悟ヲ持タナケレハナラヌ或ル狡猾ナ仲買人ガ蛆ヲ袂ニシテ養蠶家ニ行キ繭ノ中ニ放チテ是レデハ溜ラント云テ肝ヲ潰サセ其處ヘ付ケ込テ安ク買イ集メタト云フ咄シガ有升カラ養蠶家ハ種屋ヤ仲買人ニ籠絡セラレヌ様ニシテ可成製糸家ト密着シテ行カチバナラン

貿易之レハ蠶系業ノ最終ノ結果デアアルガ一番劣等デアアル極簡單ニ云ハハ横濱デ賣ルガ目的デナク亞米利加佛蘭西ノ機屋ノ好ム處ノ糸ヲ造ラチバナラヌノニ横濱外商ハ單ニ白イ糸デナケレハイカンナド云フ肝心ノ本尊様ノ好ムモノヲ作ラスニ仲買外商ノ爲ニ造ルト云フ有様デアアルドウカ三河ハ勿論全國ノ製糸家タルモノハ能ク海外ノ情況ヲ審カニシテ佛蘭西ノ「リチン」ノ某機屋デハ如何ナル糸ヲ使フカ亞米利加ノ機家ハ何デニールノ糸ヲ好ムカト云フ處ヲ明ニシテ開ガ好ム所ニ應スルモノヲ造リ出ス様ニ歩ヲ進マセチバナラン而シテ右ノ機屋カラ適否利害ヲ云テ來レハ宜シク改ムヘキモノハ改メ若シ其注文ガ不當デアレハ宜シク排斥スルト云フ様ニシテ何デモ蚊デモ仲買商人ノ鼻息ヲ窺フト云様ナ見當違ノ事ナク一ト見識立テ、行キ度モノデアアル眼前鳴海絞ヲ賣リ出スニモ時好即チ衣ル人ノ嗜好ニ適スルモノヲ造ルガ肝心デ其處ニ利益ハアルモノデアアルト信シマス

終リニ臨ミ一言センニ蠶種ノ購入貯藏等ハ個人ヲ銘々ニセス之ヲ多人數共同シテスレハ經費ハ少クシテ

充分ノ事ヲナシ得ラレ其利益ハ甚々大ナルモノデアリ升カラ一村ナリ數村ナリ隣接地ノ當業家ハ互ニ申合セテ實行シマスレハ蓋シ思ヒ半ハニ過クルモノガアリマス現ニ共同シテ貯藏箱ヲ造リ冬園ヲ實施シテ居ル處ハ各府縣ニ往々見ル處デアリマス共同シテスレハ目的ノ外ニ當業者各自競争ノ念慮ヲ興シ研究ニモナリ斯業ノ上進ヲ圖ルニモ大ナル利益アルコト考ヘマス實ハ私ハ今回折角ノ御招聘ヲ受ケマシタ事故各郡村ニ出マシテ實地ノ情況ヲ照查シ篤ト利害ノアル處ヲ調ヘテオ話シスルトヨケレハ御用都合ニヨリ本日ハ是非トモ豊橋ニ出テ飯縣ズル筈ナレハ後日又時機ヲ得テ寛々御面話スルコト致シマス

○害蟲ノ爲メニ害セラル、農作物ノ損害ハ毎歲非常ノ巨額ニシテ之ガ驅除豫防ノ必要ヲ感ズル日アリ然レハ之ヲ實行スルノ難キヲ憾トセシニ政府ハ法律ヲ以テ害蟲驅除豫防法ヲ發布セラレシニ基キ縣令訓令ノ發布アリテ普ク之ヲ實行スルノ緒ニ就クヲ得ルハ農家ノ幸福多大ナリト云フベシ依テ參考トシテ法律縣令等ヲ左ニ録ス

法律第十七號

(明治二十九年三月二十四日)

害蟲驅除豫防法

- 第一條 此法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ云フ
- 第二條 驅除豫防スベキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルハ府縣知事ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スベシ

第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞レアルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムベシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防法ヲ行ハサルハ府縣知事市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條町制第百二條ヲ適用ス

第四條 害蟲蔓延シタルハ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若シハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲メニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得  
夫役ノ賦課反別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スベシ  
夫役ハ各別ノ率ニ依リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百廿三條及町村制第百廿七條ヲ適用セズ

第六條 府縣知事ハ驅除豫防ノ爲必要アリタルハ市町費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稗、刈株、雜

草ヲ拔棄若クハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者管理者又ハ使用者ハ官吏及ヒ其指揮ヲ承クルモノ、其地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條第四條第六條ノ費用ヲ補助シ若クハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條 蟲類以外ノ動物ト雖モ作物ヲ害スルモ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事又ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハザルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若クハ其指揮ヲ受クルモノ、行爲ヲ妨害スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 此法律ハ北海道、沖繩縣、其ノ他市制、町村制ヲ施行セザル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 此法律ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

愛知縣令第四十號

(明治廿九年七月廿日)

### 害蟲驅除豫防規則

第一條 明治廿九年三月法律第拾七號ニ依リ本縣ニ於テ驅除豫防スベキ害蟲左ノ如シ

蝗蟲	イナ	螟蟲	ズイ	葉捲蟲	ハマク	浮塵子	カウ	地蠶	ヨウト	蚯	クム
天牛蟲	カミキ	尺蠖	シヤクト	避債蟲	ミノ						

第二條 市町村長ハ市町村又ハ大字毎ニ田畑所有者管理者若クハ其使用者ヲシテ適宜組合ヲ設ケシムベシ

組合ハ驅除委員貳名以上ヲ選定シ害蟲驅除豫防ニ關スル事ヲ掌ラシムベシ

第三條 組合ニ於テ驅除委員ヲ撰定シタルトハ其都度郡市町村ヲ經テ當廳ニ届出ツベシ

第四條 害蟲田畑ニ發生シタル時又ハ發生ノ兆アル時ハ作人ヲシテ速ニ驅除豫防ヲ行ハシムルト同時ニ其顛末ヲ具シ町村長若シクハ市長ニ報告スベシ

第五條 驅除委員ハ常ニ害蟲ノ有無ヲ視察シ害蟲發生ノ報告ヲ受ケタル時田畑作人ヲシテ速ニ驅除豫防ヲ行ハシムルト同時ニ其顛末ヲ具シ町村長若シクハ市長ニ報告ズベシ



第六條 前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ町村長ハ郡長ヲ經テ市長ハ直ニ縣廳ニ急報スベシ  
 第七條 郡市長ニ於テ前條ノ報告ヲナス時ハ併セテ左ノ事項ヲ調査報告ズベシ

- 一、害虫ノ種類及方言
- 二、驅除豫防ヲ施行スベキ區域及時機
- 三、被害作物ノ種類及被害見積反別
- 四、被害ノ狀況

第十條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左式ニ依リ翌年四月十日限リ當廳ニ報告スベシ

害虫名

(各害虫ニ付區分スベシ)

町村名	被害農作物ノ種類	全見積反別	全年見積高	被害見積減收高	驅除豫防ニ係ル市町村費	全夫役ノ數	全上郡費補助額
何町 (字大)							
何村 (字大)							
計							

訓令第二十六號

害虫驅除豫防法

- 一 蝗蟲イナ (禾本科植物特ニ稻ヲ嗜好蝕害ス)
- 一 兼テ捕蟲網ヲ製シ置キ苗代田或ハ插秧後ノ稻田ニ於テ稻葉ノ上ヲ輕ク掬ヒ底ニ集リタルモノヲ壓殺スルヲ良シトス
- 一 田畔ヲ高クシ田内深ク水ヲ湛ユル時ハ自然田畔ニ漂ヒ來ルヲ以テ捕蟲網ヲ以テ掬ヒ取ルカ又ハ撲殺スルカ或ハ泥土ヲ以テ畔中ニ塗リ込ムベシ尤之ヲ行フニハ朝早キヲ良トス
- 一 農家常ニ田地ヲ巡檢シ手ヅカラ之ヲ捕殺シ集メテ肥料トナスベシ
- 一 乾草類ヲ適宜ノ場所ニ堆積スルキハ寒冷ナル夜ハ茲ニ集合スルヲ以テ早朝容易ニ捕殺シ得ベシ
- 一 被害地接近ノ路傍畦畔堤塘等ニ生ズル雜草等ヲ刈取り冬ハ之ヲ燒キ拂ヒ可成産卵地ヲ搜索シテ撲滅ノ方法ヲ圖ルベシ
- 一 螟蟲ズイ (主ニ稻、粟、黍、麥、藍等ヲ蝕害ス)
- 一 田圃ノ一隅又ハ各所ニ鹽ノ如キモノニ水ニ石油ヲ注ギタルモノヲ入レ中ニ臺ヲ置キ洋燈杯ノ如キ點火器ヲ備フルカ或ハ松明等ヲ以テ自然火光ヲ慕ヒ飛ビ來ル所ノ蛾ヲ撲殺スベシ尤之ニ供スルガ爲製造セラレタル誘蛾燈ヲ用ウル時ハ其効ヲ奏スル完全ナリ

- 一 苗代田又ハ本田ノ稻葉ニ産卵シタルモノヲ日々注意シテ採集スベシ尤是等ノ用ニ便セシガ爲苗代ハ幅四尺許リトナシ其長ハ適宜ニスベシ
- 一 枯糞セシ糞ハ必ず注意シテ之ヲ切り取り焼捨ツベシ又出穂ノ際白枯ノ穂ヲ見ルアラハ直ニ之ヲ抜キ取ルベシ
- 一 被害ノ藪稈ハ必ず灰トナスカ或ハ堆積肥料中ニ積ミ入ルベシ
- 一 稻ノ收穫後ト雖蟲ハ尙刈株中ニ蟄伏スルモノ少カラザルヲ以テ必ず之ヲ掘り取りテ焼クカ若クハ石灰ヲ混シテ堆肥トナシ幼蟲蛹等ノ蟄伏セルモノヲ蒸殺スベシ
- 一 田地ノ雜草ハ勿論畦畔等ニ至ル迄冬季枯稿ノ際十分ニ燒盡シ勉メテ圃地ノ清潔ヲ圖ルベシ
- 一 葉捲蟲リムシ (主ニ稻ヲ蝕害ス)
- 一 「ハナセ、リ」ト稱スル蝶ノ飛翔スルヲ認メハ必ず捕獲撲殺スベシ但シ之ヲ行フニハ手網ヲ用フルヲ便トス
- 一 此蟲ノ卵子ハ灰色ナルヲ以テ始終稻田ヲ巡視シ其葉面ニ付着スルモノヲ搜索シテ壓殺スベシ
- 一 稻ニ「アナムシ」ノ棲息スルモノヲ搜索シテ之ヲ採集シ撲殺スベシ
- 一 既ニ稻ノ葉ヲ引キ寄セテ巢ヲ作りタルハ恰モ羽子板様ノモノニ枚ヲ造リ之ヲ一人用トシ其一枚ノ前端ニ長サ二寸許リノ竹釘ヲ打置キ二枚ノ板ヲ以テ其巢ヲ挾撃シ後竹錐ヲ打チタル部分ヲ以テ其巢

ヲ開放スベシ尤之ヲ行フニハ前以テ田ニ水ヲ湛ヘ鯨油若クハ石炭油ヲ注ギ置クベシ

- 一 羽化蟲ハ田圃ノ畦畔其他路傍ノ雜草ニ産卵スルモノナレバ冬季ニ當リ是等ノ雜草ヲ燒キ盡スベシ
- 一 浮塵子カ (主ニ稻ヲ蝕害ス)
- 一 先ツ田面ニ水ヲ滿タシ魚油種油若クハ石炭油等ヲ一反歩凡三合ノ割ヲ以テ水面ニ注ギ更ニ草箒カ或ハ小竹竿ヲ以テ稻葉ヲ拂フ時ハ蟲ハ水中ニ落チテ死スルモノナリ由テ此時田ノ草取りヲ行ハハ最便利ナリ但シ蟲ノ多少ニ拘ラズ田ノ草取ノ際ニハ必ず前以テ油類ヲ注ギ凡テ害蟲ヲ拂ヒ落シ後チ田ノ草ヲ取ルベシ然スル時ハ管ニ浮塵子ノ驅除ニ功アルノミナラズ螟蟲葉捲蟲何レモ其成蟲ヲ驅除スルノ功有リ尤成蟲ハ所々ニ飛翔シ水中ニ落チザル場合アリ如斯トキハ朝露ノ未ダ乾カザルニ乗シ前法ヲ施スベシ
- 一 夜間誘蛾燈ヲ以テ殺スモ可ナリ
- 一 圃地畦畔ノ雜草ヲ燒棄シ勉テ圃場ノ清潔ヲ保チ大氣ノ流通ヲ能クスベシ
- 一 地蠶ヨトウ (主ニ豌豆、大小豆、蠶豆及蕎麥、棉、菜類、茄子、芋等ヲ嗜好ス)
- 一 日没ヨリ糶害圃ニ出テ燭火若クハ松明ノ明ニ由テ採集撲殺スベシ尤モ此法ハ拂曉ヨリ日出迄ノ間ニ行フモ可ナリ
- 一 圃地ノ周圍ハ勿論作物ノ間ニモ深サ一尺許ノ溝ヲ掘リ蟲ノ之ニ墮落スルモノヲ捕殺スベシ

- 一植物ノ根際ニ稿等ノ如キ塵芥ヲ布キ置キ該蟲ノ其下ニ潜伏スルモノヲ捕殺スベシ
- 一蛹蛾及ヒ卵ノ類ヲ發見セバ直ニ之ヲ捕殺スベシ
- 一該蟲ノ嗜好作物特ニ豌豆、蠶豆、菜類等ヲ圃地ノ一隅ニ播種シ蟲ノ之ニ群集スルヲ俟テ熱湯ヲ注ギ殺スベシ
- 一馬酔木、煙草莖等ノ煎汁ヲ注ギ若クハ生石灰、硫黃、煤等ヲ根際及葉上ニ散布スベシ
- 一冬期植物ノ莖葉枯死セル時ニ當リ田圃ノ周圍ハ勿論其他害蟲潜伏ノ場所ト認ムル所ハ出來得ル丈ケ撲滅ノ方法ヲ施スベシ
- 一蛄蠲シケム(主ニ桑、茶ヲ蝕害ス)
- 一蟲ノ稚クシテ廣ク散亂セザル前葉ト共ニ挾ミ取り撲殺スベシ
- 一硫黃石灰等ヲ水ニ和シテ蟲体ニ散布スルモ可ナリ
- 一蛹蛾卵ノ類ハ平常注意シテ捕殺スベシ
- 一夜间誘蛾燈ヲ點シ蛾ヲ誘殺スベシ又蛹ノ樹下ニ蟄伏スルモノヲ索メテ捕殺スベシ
- 一園内ハ落葉雜草等ヲ盡ク掃集シテ燒キ棄テ勉メテ清潔ニスルヲ良トス然ラザレバ其下ニ於テ蛹化スルノ虞アレハナリ
- 一天牛蟲カミキリムシ(主ニ華果、梨、桑等ヲ蝕害ス)

- 一針金ノ如キ細長線ヲ穴ノ中ニ挿入シ幼蟲ヲ刺殺スベシ
- 一蝕入シタル孔口ニ髮付油若クハ粘土等ヲ塗り付ケ其中ノ蟲ヲ窒息セシムベシ
- 一朝露ノアル中園内ヲ巡視シ拾ヒ取りテ殺スベシ又同時ニ卵子ヲモ壓殺スベシ
- 一六七月ノ交ニ當リ鯨油濃水、灰汁、若クハ石鹼ヲ水ニ溶カシタルモノニテ樹幹ヲ洗ヒ樹皮ヲ清潔ニシ勉メテ其潜伏所ヲ奪ヒ去ルベシ
- 一苦楝汁其他樟腦等ノ藥劑ヲ孔中ニ注入スルモ効アルヘシ
- 一尺蠖蟲シヤクトリムシ(主ニ茶樹、桑樹ヲ害ス)
- 一枝梢又ハ莖幹ニ附着スル蟲ヲ認メ缺ミテ直ニ其体ヲ剪斷スベシ
- 一俄カニ被害樹ヲ振搖スルキハ口ヨリ糸ヲ吐キ落チ來ルモノナレバ此時捕殺スベシ
- 一摘葉ノ際注意スル時ハ該蟲ヲ發見スルコト敢テ難カラザルヲ以テ此際捕殺スルヲ要ス
- 一枝幹ニ尺蠖蟲ヲ見ザルキハ即チ蟄蛹ノ期ナルヲ以テ幹枝ニ結ビタル繭ヲ取り除キ猶ホ根際ノ土中ヲ搜索シテ其蟄伏セルモノヲ捕殺スベシ
- 一避債蟲ミシ(主ニ茶及桑ヲ害ス)
- 一該蟲ハ自ラ巢ヲ造リ始終其中ニ潜伏シ朝夕人ノ居ラザルキ害ヲナスニ由リ該蟲ノ巢アルヲ見レバ注意シテ之ヲ捕殺スベシ

一該蟲ノ集餘リ多キ時ハ樹下ニ蓆ヲ布キ之ヲ叩キ下シ捕集シテ殺スベシ

昆蟲學者名和靖君來郡昆蟲ニ關スル適切ナル講話アリシカバ大ニ驅除ノ必要ヲ喚起セリ  
明治廿九年八月廿九日昆蟲學專門家名和靖君ヲ招待シテ八名郡富岡村洞雲寺ニ昆蟲ニ關スル講話會  
ヲ開廷セリ服部八名郡長ハ講話ニ先チ左ノ如ク口演セラレ

### 口 演

今日ハ昆蟲學專門家名和靖君ヲ聘シテ一場ノ講話ヲ乞フヲ以テ諸君ノ參聽ヲ促シタルニ多數ノ熱心家殊  
ニ遠方ヨリ參會ノ方モ勤カラズ斯道ノ爲感謝スル處デアリマス蓋シ諸君ニ於テモ害蟲驅除ノ必要ヨリ法  
律縣令ノ發布アリ着々實行ヲ要スルノ際ナレハ斯ク來會アリシ事ト信ス扱今日ハ五二會三河支部ノ發會  
式ヲ豊川町妙嚴寺ニ於テ舉行スルニ付拙者モ出席シタリシガ此講話會アルヲ以テ中頃辭シテ退席シタリ  
其際前田正名君ヨリ來會諸君ヘ傳言アルヲ以テ名和君ヲ紹介スルニ際シ併セテ陳述スベシ曰正名先年富  
岡村洞雲寺ニ於テ實業上ノ事ニ關シ一場ノ演說ヲナシ諸君ヲ喚起シタル因モアレハ小閑ヲ得ハ車ヲ飛シ  
テ共ニ有益ナル名和君ノ講話ヲ聞カント欲スルモ此會了ルヤ直ニ出發二三時間静岡ニ立寄り歸京セザル  
ヲ得ズ故ニ服部郡長ヲ介シテ一言ヲ呈セントス抑モ今日ハ如何ナル時ナルヤ戰後經營ニ關シ前古未曾有  
大切ナル時機ナリトハ萬口一齊ニ唱導スルノ際ナリ此時ニ方リ諸君ガ此有益ナル講話ヲ聞キ法律縣令ノ

實行ニ熱心從事セラレハ正名ガ國家ノ爲歡喜措ク能ワサル所ナリ借貴郡ニ聘セラレタル名和君ノ學業  
經歷ノアルハ諸君己ニ知悉セラレハ所特ニ贅辨ヲ要セザレハ昆蟲學專門家トシテハ我帝國ニ於テハ言フ  
ニ及バズ歐米ニ於テモ得易カラザル人ナレハ其心シテ靜聽アラントナ望ム又害蟲ノ事ニ付テ一言セン福  
岡縣ハ我帝國中米產多額ノ地方ナリ然ルニ螟蟲被害最モ甚シク統計ニヨレバ是迄蟲害ニ罹リタル  
額ハ年々參百萬圓ニ下ラズ故ニ當局者ヲ始メ有志者ガ盡力ニヨリ當廿九年度ニ於テ害蟲驅除費金壹萬圓  
ヲ支出スル事ヲ縣會ニテ決議セリ爾來實行ノ結果ヲ聞クニ或郡ニテ捕獲セシ害蟲ノ數實ニ六百萬匹ニ達  
セリト此六百萬匹ノ驅除ノミニテモ收穫ニ及ボス利益ノ巨額ナル幾許ゾヤ害蟲驅除ノ緊急ナル斯ノ如ク  
ナレハ因ニ御話シ致ス諸君幸ヒニ健康ヲ保チ國家ノ爲ニ盡碎セラレントナ希望スルトノコトデアリマシ  
タ拙者ニ於テモ前田君ノ傳言ノ如クニ希望イタシマス是ヨリ講話ヲ請フニ致シマスレハ吳々謹聽アラ  
ントナ請ヒマス

### ◎名和靖君昆蟲ニ關スル講話ノ大意

筆記者 特別會員 丸山方作

始メニ當郡ノ招聘ニ應シタルコト及農業ノ改良進歩ヲ圖ルノ好機會ナルコト等ヲ陳ベラレタル所ニ於  
テ今日ハ蟲ト謂フニ就テ大体ノ話ナシマス其蟲ト云フ内ニモ足ノ六本アル即六足蟲ノ話デアリマス昆蟲

トハ六足蟲ヲ意味シテアル昔ハ他ノ蟲類ヲモ雜ヘテ云ヒマシタガ今ハ全ク六足蟲ヲ昆蟲ト云フコトニナ  
 ツテ居リマス而シテ此類ノ蟲ハ其數最モ多ク今ヨリ少シ前ニ取調ラレタルモノニ由レバ世界中ノ動物ノ  
 數ガ貳拾五萬種アル其内昆蟲ガ五分ノ四以上ト云ヒマスカラ六足蟲ノ數ハ貳拾萬種以上モアリマス近年  
 ノ調査デハ之ヨリ一層増シテ居リマス扱昆蟲トハ如何ナル蟲カト云フニ蠶ノ如キモノ、蠅、蚤、蚊ノ如キ、  
 蟬、蜻蛉等ノ如キモノデアリマス斯ク申セバ必ズ間ハル、デアリマセウ蠶ノ足ハ十六本アル何チ以テ六  
 足蟲ト云フカト私ハ之ニ答ヘマス然リ蠶ト云フハ幼蟲ノ時代デアリマス成蟲トナリ所謂蛾ト云フモノニ  
 ナレバ六本足トナリマス然ラバ蛆ノ如キ足ノナキモノハ昆蟲デナキカト云フニ蛆ト云フハ矢張幼蟲ノ時  
 代デ成蟲トナレバ同ク六本足ノ蠅トナリマス斯様デ有升カラ昆蟲ノ數ハ最モ多イ先ツ私ノ想像スルト  
 コロ日本丈ケテ五萬種以上ハアルデアロウト思ヒマス目下私ノトコロニ五千種以上ハ確カニ標本トシテ  
 持ツテ居リマス之ハ主ニ岐阜近傍ニアル蟲デアリマス然スルト私ノ持ツテ居ルハ我國中ノ蟲ノ十分ノ一  
 程デアリマス斯ノ如ク昆蟲ノ數ハ夥クアルガ其中多クハ害蟲デ益蟲ト云フモノハ至テ少イ由テ何處デモ  
 蟲ノ爲メニ作物ヲ害セラル、コトハ甚カラヌトテ一割ニ割等ノ害ヲ被ルハ常ノトテ甚シキハ之ガ爲ニ  
 收穫皆無等ノ慘狀ヲ呈スルニ至ルモアリマス故ニ蟲ノ害ヲ防ク方法ハ勤メテ研究セテハナリマセヌ歐  
 米各國蟲ノ事ヲ研究スルハ實ニ行届イテ居リマス然ルニ蟲害ヲ被ルハ莫大ナルモノニテ西洋各國ハ統  
 計ガ精密ニ出來テ居ルカラ明カニ知ルコトガ出來ル米國ハ農産物ノ産額一ケ年ニ四拾億弗ヨリ少カラズ

而シテ其一割即チ四億弗ハ毎年害蟲ノ爲メニ損ナシテ居ルト云フ米國ハ蟲ノ事ヲ研究スルハ最行届キ政  
 府ハ農務省ノ下ニ昆蟲局ト云フヲ設ケテ専ラ之ニ當リ其他各洲至ル所専門ノ學者ガアツテ之ヲ研究シツ  
 、アルニ尙ホ以上ノ額ヲ害蟲ノ爲ニ損ナシテ居リマス我國デハ確實ナル統計ガアリマセヌカラ知レ難イ  
 ガ農産物ノ産額ハ少ク見積テ三億五千萬圓アル假リニ之ヲ米國ノ例チ以テスレバ年々害蟲ニ喰レテ居  
 ルモノ三千五百萬圓ト云フ額ニナル然ルニ逆モ米國ノ如キ驅除豫防ガ行レナイカラ實際ニ於テハ之ガ二  
 倍若クハ三倍ニ至ルカモ知レマセヌ今最少ク見積ツテ三千五百萬圓トシテモ之ニ五百萬圓ヲ加ヘ四千萬  
 圓トシテ見レバ全國ノ人平均一人ニ付壹圓ツ、禮モ云ハレザル蟲ニ献上シテ居ル譯デアリマス此郡ノ統  
 計ハ只今來タリテ聞ク間ガ無カツタカラ存ジマセヌガ渥美郡ハ田ノ反別六千町步其收穫ハ平均一反步  
 ニ付三俵ツ、ニ當ルソウデ有升カラ十八萬俵ノ收穫高デ有升此頃中見ルニ渥美郡ハ螟蟲ガ殊ニ多イ故ニ  
 其害ヲ被ルコトハ頗ル大ナルコト、思ハレマセヌガ之モ極少ク計算シテ一割ノ損害トスレバ一萬八千俵一  
 俵ノ價三圓トシテ五萬四千圓ハ明カニ蟲ニ喰ハレテ居ル然ルニ熱心ナル人々ノ盡力ニ由テ昨年カラ驅除  
 法ヲ行ハル、様ニナリ、シタ其方法ハ螟蟲ノ卵ヲ採ルノデ一人一日ニ八反步乃至一町步モ採リ得ル斯ク  
 シテ三四回モ採ル時ハ悉ク採レル此頃實地ニ就テ見マシタガ明カニ効ガアリマス實ニ僅カナ手間デ著シ  
 キ効ガアル折角骨折ツテ作ツタモノヲ蟲ノ爲ニ喰ハレルトハ残念ナコトデアリマス茲ニ熱心ニ改良シテ  
 立派ニ出來タ稻ト不熱心ナ人ニ作ラレテ瘠セタ稻トアルニ甲ハ螟蟲多ク乙ハ蟲害ガナイトガアリマス之

ハツウナケレバナラヌコトデ一方ハ肥ヘテ軟カデ實ニ良キ御馳走ノ様ニ甘味クアリマスガ一方ハ瘠セ飢ヘテ如何ニモ不味クアリ升カラ蟲ハ善ク其事ヲ知ツテ居ルカラ先ツ甘味イ方へ着クノデアリマス蟲ノ多ク附クハ即チ能ク出來タ證據デアリマス金満家トナレバ盜賊ガ這入カラテ金ノ溜ラヌコトヲ願フ様ナ卑屈ナ人ハ無イ譯デアアル金ガアレバ必ズ盜賊ニ這入ラレヌ手段ガアル害蟲ヲ恐レテ劣ツタ作チスルハ甚ダ卑劣ナ考デアアル必良ク作ツテ而シテ蟲ニ喰ハレナイ様ナ工夫ヲセチバ改良進歩ト云フコトハ出來ナイ然ルニ之ヲ驅除スルニハ蟲ノ性質ヲ詳シク知ラチバナラヌ醫師ガ病ヲ治スルニハ必ズ生理解剖等之ニ必要ナル術ヲ學ンデ後ニ意ノ如クナル若シモ之等ノ事ヲ知ラナンダナラバ大ナル間違ヲ生ズルコトハ明カデア

ル或ル庸醫ノ家ニ盜賊ガ這入ツタキ忽チ七チ以賊ヲ追ハントシタルニ細君其譯ヲ問ヒタル答テ曰此七チ以テ何程人ヲ殺シタカモ知レナイ賊モ之ニハ恐レテ逃ケルデアロウト云ヒマシタトカ農家ニシテ蟲ノ性質ガ判ラチバ金ト手間トヲ費シテモ更ニ効ハアリマセヌ及バズ乍ラ私ハ醫者ノ位置ニナツテ御話スル今ハ大体ノ方法ダケヲ御話シスルカラ諸君ノ方デ實際ニ適スル様能ク考ヘテ行ハチバナリマセヌ夫レニ就テモ第一肝要ナルハ蟲ガ湧クト云フ迷想ヲ止メルコトデアアル何處ニモ湧クト思フテ居ル人ハ澤山ニアル湧クトイヘバ水杯ガ不意ニ地カラ湧イテ出ルト云フ様ナ工合デ種モ卵モ無カッタモノガ偶然ト現レ出タト云フ様ナモノデアアルガ世ノ中ニ親ガ無クテ出來ルモノハ決シテ無イ兔モ角モ前ニ申ス通り廿萬種以上モアル多クノ蟲ガ悉ク卵カラ出來ル(中ニ胎生ノモノモアリ)其順序ハ卵ガ孵化シテ幼蟲トナリ幼蟲ガ變化シテ蛹トナ

リ蛹ガ又一度變化シテ成蟲トナル之チ人ニ譬フレバ少シ無理ナ譬デアアルガ卵ハ母ノ胎内ニアル間幼蟲トハ子供ノ時代蛹トハ青年ノ時成蟲トハ親トナツタ時ノ如ク蠶デ云ハバ卵ハ即チ蠶卵紙ノ時幼蟲ガ蠶ト云フ名ノ付クキ蛹ハ即蛹成蟲ハ蛾トナツタキチ云フノデ是非トモ以上ノ順序ヲ經テ變化スルモノデ此規則ヲ外レテ出來ル蟲トテハ無イ今二十萬モアルト云フ蟲ハ悉ク蠶ノ兄弟分デアリ升カラ皆蠶ノ通りノ順序デアアル世ノ中ニ蠶卵紙無クシテ蠶ヲ飼フ人ガ有升カ私ガ一ノ懸賞問題ヲ出シマセウ蠶卵紙無クシテ蠶ヲ飼フモノアラバ百萬圓ヲ與ヘント若シモ斯ル問題ヲ出シタナラバ一ツ考ヘテ見様ト云フ人ガアリ升カ其様ナ馬鹿ナ事ガ出來ルモノカト大ニ叱リチ蒙リ却テ問題ヲ出シタモノチ狂人ト評サル、デアラウ之レ人々實驗シテ更ニ疑フ處ガ無イカラデアリマス然ルニ尙ホ了解ガ出來ナクテ蠶ハソウデアアルガ多數ノ蟲ノ中デハ何カ湧テ出ハシナイカト思フ人ガ無イトモ云ヘマセヌ斯様ナ事ヲ充分ニ判ル様ニスルニハ僅カノ時間デハ到底出來マセヌ浮塵子杯ハ湧クト思フ人ガイクラモアリマス之モ稻ノ稔ノ中ニ卵ヲ産ム黒クナツテ一ヶ所ニ五六個ヅ、モ長キ卵ガアル以上陳フル通り何品ト雖モ悉ク卵ヨリ發生セザルモノハナイト云フコト判レバ一ツデモ取レバ取タダケ滅ルニ違イナイ然ルニ若シモ湧クモノトスレバ假令悉ク採タトテ氣候ノ變化等ニ由テ湧出ルト思ヘバ力メテ採ルモ駄目ナコトナル併シナガラ一人ヤ二人デハ驅除ノ効ガ少イ協同シテ多人數行ヘバ効ガアリマス成ルベク協同驅除ヲ行ハチバナリマセヌ西洋デハ主ナル蟲ハ小學校ノ教科書ニ入レテアル故ニ子供ノ時已ニ害蟲杯ハ能ク知ツテ見付クレバ直チニ殺ス然ルニ我國ハ

瑞穂國トテ古來最モ農ヲ重シテハ螟蟲ガ卵カラ出來ルト聞ケバオカシナ事ダ杯云フモノガアル定メシ  
 害蟲モ喜ブデアリマセウ日本人ハ親切ナモノダ何程我々が殖ヘテモ更ニ搆ハヌトテ嘸満足ニ思フデアリ  
 マセウ我國デモ教科書ノ内ニ加ヘテ子供ノ時カラ知ル位ニスレバ結構ダが目下ノ處左様ナリハ出來難イ  
 カラ掛圖ニナリトモシテ知ラセタイ將來ハ實業教育ヲ盛ニシテ廣ク之等ノ事ハ知ラセテバナリマセヌ  
 蟲ノ卵ハ $\square$ ノ如ク一所ニ百粒位モ産ミ付テアル葉ノ表ニアルカラ見ヘ易ク一反歩ニ三百個位ノ卵塊ハ  
 採レル之ヲ採レバ其所ハ螟蟲ニ罹ラヌ若シ又之ヲ疑フ人ガアルナレバ右ノ反對ニ區域ヲ定メテ其卵ヲ入  
 レ置ケバ其處ハ悉ク蟲ニ喰ハセルコトガ出來ル卵ノ經過ヲ試ミルニハ卵ヲ採ツテランブノホヤニ入レ兩口  
 ナ紙デ止メ置ケバ空氣モ通フカラ發生スル斯クシテ實際ニヤツテ見レバ大ニ了解スル然ルニ一ノ心得ベ  
 キハ實際ニ行テ見ルト意外ノ事ガアルモノデ均シク螟蟲ノ卵ヲ入レ置テモ一ツハ螟蟲トナリ一ツハ蜂ガ  
 出タト云フ様ナリガアル斯様ナ事ニナルト、ハテ變ナリデアアル螟蟲ノ卵ガ蜂ニ變化シタトテ忽チ道理ガ  
 判ラヌ様ニナツテ仕舞然ルニ深ク其理ヲ知レバ少シモ怪シキ事デナク當然ノコデアアル其譯ハ螟蟲其他蟲  
 類ニハ總テ寄生蟲ガアツテ蟲ノ体中ニ育ツ殊ニ寄生蜂ト云フハ螟蟲ノ卵ノ中ニ已レノ卵ヲ産ミ付ケテ置  
 キ升カラ螟蟲ノ卵ヲ喰ツテ其中デ生育ス故ニ螟蟲ガ死ンデ蜂ガ代ツテ出ル是實ニ明カナル道理デアリマ  
 ス更ニ寄生蜂ノ事ニ就テ少シ陳ベ置キマスガ軒ノ屋根下杯ニ巢ヲ懸ル足長蜂ハ巢ノ中ニ卵ヲ産ミ付ル之  
 ガ發生シテ幼蟲トナリ逆ニ懸ツテ下ニ口ガアル親蜂ハ螟蟲ヲ採ツテ來テ之ヲ細カニ調理シテ子ニ與ヘル

子ハ次第ニ成長シテ蛹トナル此時口ハ蓋ヲスル而スルト日ヲ經テ蜂トナル之ガ蜂ノ一代デアアル又德利蜂  
 ト云フテ土ヲ以テ德利ノ様ナ形ノ巢ヲ造ル蜂ガアル此蜂ハ巢ヲ造ル時中ニ卵ヲ産テ置ク此蜂ハ中々ズル  
 イ仕方デ足長蜂ノ様ニ細カニ調理シテ餌ヲ與ヘル事ヲセズ尺蠖<sup>シヤクトリムレ</sup>杯ヲ丸ノマ、巢ノ口カラ入レテ遣ル之  
 ハ能ク人ノ知レルコトデ尺蠖ヲ入レテモ日ヲ經テ出ルキニハ蜂トナツテ飛ヒ去ルカラ蜂ハ他ノ蟲ヲ取テ  
 己レノ子トスルト云フ故ニ他人ノ子ヲ養フナ蜂ノ子ト云フ去リナガラ尺蠖ガ蜂ニナル譯ハアリマセヌ蟲  
 ナ入レテ置クハ即チ子ニ餌ヲ與ヘルノデアアル然ルニ妙ナ事ハ小イ子ニ大ナル蟲ヲ生タ儘與ヘルキハ中デ  
 子ガ跳子殺サレル又之ヲ殺シテ與ヘルキハ子ガ蛹トナル迄ノ食料デアアルカラ腐敗ルト云フ憂ガアル由テ  
 雌蜂ガ尾端ノ劍ヲ以テズプト蟲ヲ刺ス然スルト蟲ハ毒ノ爲ニ痿レテ動キマセヌ斯シテ入レ置カラ跳モセ  
 ズ腐リモセズイツマデモヒリ $\sim$ シテ居ルカラ適宜ニ食フコトガ出來ル餌ノ終ル頃ニハ蛹ニ變化シ尋テ蜂  
 トナツテ飛去ル蜂類ハ皆肉食蟲デ右ノ如ク絶ヘズ害蟲ヲ捕テ與レルカラ有益蟲デアアル右ノ話ハ寄生蜂ノ  
 コトヲ説ク爲ニ一ノ例ヲ示シタノデアリマス足長蜂ヤ德利蜂ハ牀ガ大キイカラ蟲ヲ捕テ持テ來ルコトガ出來  
 マスガ寄生蜂ハ自分ノ牀ヨリ蟲ノ方ガ遙カ大イカラ運ブコトガ出來マセヌ恰モ人ガ鯨デモ捕タキハ其處  
 ヘ行テ腹ヲ穿チ油ヲ滓ル等ト均シク蟲ノ居ル處ヘ行テ其卵ノ中ヘ卵ヲ産ミ着ケテ置ク由テ螟蟲ノ卵カラ  
 蜂ガ出ルモ不思議ナコトハナイ如斯寄生蜂ハ澤山ニ螟蟲ノ卵ニ居ルカラ螟蟲ノ卵ヲ採テモ燒棄レバ有益  
 蟲モ共ニ殺スノデ甚不利益ノコト思ヒマス有益蟲ハ成ルベク愛護シテヤリタキモノデアアル故ニ之ヲ袋ニ

入レテ吊シ置ケバ螟蟲ノ方ガ先ヘ發生シマス然ルニ餌ガ無イカラ直ニ飢死スル其後寄生蜂ガ出マスカラ此時袋ノ口ヲ開ケテ出セバ有難ウト云フカ云ハヌカ知レマセヌガ忽チ飛ヒ去ツテ又螟蟲ノ卵ヲ探シマス兎モ角モ此蜂ガ殖ヘテ惡ヒ蟲ヲ喰ツテ仕舞フ様ニナレバ害蟲モ恐ル、コトハナイ之ヲ天然驅除ト云フ西洋デハ人ノ手間賃ガ高イカラ器械ヲ以テ大仕掛ノ驅除法ヲ行ヒマスガ我國デハ割合ニ人夫賃ガ安イカラ藥品等ニ金ヲ費スヨリモ人力ヲ以テ驅除スル方ガ益デアリマス

「次ニ捕蟲器ヲ示シテ圓形捕蟲器、半圓形捕蟲器、方形捕蟲器等ニ就テ説明セラレタリ」此等ノ器具ヲ以テ捕獲シタル蟲ハ如何ニスルカト云フニ燒棄ル人ガアルト聞キマシタガ薪ヲ費シ手間ヲ潰シテ甚タ損デアル又埋メルノモ損デアル腐ラシテ肥料トスレバ善キ餌ヲ育ツタモノデアルカラ尤モ効アル肥料トナル又害蟲ノ身ニナツテ考ヘテモ空シク捨テラレルヨリハ肥料トセラレタナレバ満足デアリマセウ若蟲ガ澤山居レバ之ヲ以テ手間賃ノ幾分ヲ補フコトモ出來最モ多ケレバ手間賃ヨリ多クノ肥料ヲ得ルコトモ出來マセウ上來陳アル所ヲ今一度簡單ニ申セバ第一蟲ノ性質ヲ知り天然驅除ヲ大体トシテ人工ヲ以テ補フニ善良ナル藥品ト簡單ナル器械トヲ用ウル事等デアリマス先ツ大体ニ就テ御話スルハ是迄ニ止メ一寸休ンデ尙ホ少シ陳マス

第二席

問、蚜蟲(方言コ、メ)驅除法如何

答、蚜蟲ノ驅除ハ甚タ難ク目下ノ處デハ良法ナシト云フノ外ナシ蚜蟲ハ其種類甚タ多クテ何百種アルカモ知レマセヌ最此蟲ガ保存ガ難イカラ私ノ標本トシテアルハ僅カニ五六種デアリマス吾人ノ目ニ觸レル植物中殆ト此蟲ノ着カヌモノハアリマセヌ植物ノ根ニモ水草ニマデモ附クモノデ世界中蔓延シテ居ルト云フテヨキ程デアル實ニ蚜蟲世界ト云フテ宜シ叔之ガ驅除ノ困難ナル理由ハ此蟲ノ多クノ種類ハ冬ハ卵デ經過シ春ニ至テ發生スルキハ悉ク雌ヲ胎生ヲ以テ繁殖スル其生ル、モノハ又悉ク雌ヲ幾世モ此通りニナリ秋ニ至ル迄ニハ十代以上モ経ル秋ニ至テ雄雌共ニ生レ而シテ始メテ卵ヲ産ム此蟲ガ春ニ至テ悉ク雌トナルコト前ノ通りデアル此ノ如キ蟲デアルカラ繁殖ニ適當ナル時ガ至レバ恰モ湧テ出ダ様ニ僅ノ間ニ非常ニ蔓延スル此レ驅除ニ難キ譯デアリマス此蟲ハ蟬坏ノ如クニ植物ノ汁ヲ吸フ由テ極軟ナ所デナケレバ吸フコトガ出來ナイカラ新芽ニ集ル此蟲ハ名ノ如ク油氣ガアツテ水氣ヲバ彈ク性ガアル故ニ水氣ノモノデ驅除スルコトハ出來ヌ石油ナレバ蟲ヲ殺スコトガ出來マスガ植物モ共ニ枯ス併シナガラ西洋デハ牛乳ノ腐敗シテ酢クナツタモノニ石油ヲ加ヘ器械ヲ以テ劇シク攪拌セバ眞ニ溶合フト云フ迄ニハナラヌガ極メテ細カナ分子トナル之ヲポンプデ被害ノ植物ニ灌グキハ植物ヲ痛メズシテ蟲ヲ殺スコトガ出來ル併我國ノ如ク牛乳ノ價貴クシテ病人デサヘモ意ノ如ク得難キ地方ガアル位ノ有様デハ到底右ノ方法ハ行フコトハ出來ナイ鯨油デ造ツタ石鹼水ヲ用ウレバ効ガアリマスガ是モ價ガ高キノミナラズ目下ノ處デハ其品サヘモ無イ位デアルカラ行ヒ難イ由テ天然驅除ニ注意スルガ得策デアル



其天然驅除トシテ最有効ナルモノハ、<sup>テントウムシ</sup>鱗蟲デアアル此蟲ノ幼蟲ハ最好ンデ蚜蟲ヲ食スルカラ此蟲ガ居レバ蚜蟲ガ皆畏レテ逃ル又クサカゲロウ、セラタアブ、蜂ノ類此四種ハ何レモ蚜蟲ヲ餌トスルモノデアアルカラ蚜蟲ノ繁殖ヲ妨ゲ夫レガ爲ニ漸クニシテ平均ヲ保ツテ居ル今ノ處デハ此等ノ有効蟲類ヲ以テ害蟲ヲ驅除スルコトヲ研究スルコト甚ダ肝要ナルコト思ヒマス今其一ツノ例ヲ申セバ米國ニ於テ密柑ノ樹ニ鱗蟲ガ繁殖シテ一年ニ三百萬圓モ産額ノ有タモノガ其害ノ爲ニ殆ト收穫ノ無イ様ニナリマシタソコデ之ガ驅除法ヲ取調ベルガ爲ニ世界各國ノ密柑ノアル處ヲ調ベタ所ガオーストラリアニ於テ之ト同シ害蟲ガ居ル然ルニ此國デハ更ニ害ヲ爲サヌト云フガ判リマシタソコデケールト云フ人ガ此人ハモト獨逸ノ人デ今ヨリ廿二年前ニ亞米利加ニ歸化シタ人デアアル此人ガ都合三度モオーストラリアニ行テ取調マシタ先ツ第一ニオーストラリアデハ鱗蟲ガ何故ニ害ヲ爲サヌカト云フコトヲ調テ見タ所此國ニハ鱗蟲ガ居テ絶ヘズ害蟲ヲ捕ツテ鱗蟲ガ殖ヘルト瓢蟲モ亦殖ヘ鱗蟲ガ減ルト瓢蟲モ同ク減ル此ノ如クニ常ニ平均ヲ保ツテ鱗蟲ガ繁殖ヲ呈スルコトガ出來ナイケール氏此處ニ氣ガ着テ米國ニハ此虫ガ居ナイカラ鱗蟲ガ害ヲナスルデアアルト云フガ判リマシタ由テ瓢蟲ノ産卵前ノモノヲ五萬匹モ集メテ本國ニ送り之ヲ被害ノ植物ニ放ツタ所ガ餌ガ澤山ニアリマスカラ甚シク繁殖シテ三年程經ツ間ニ大概鱗蟲ヲ喰盡シテ以前ノ如キ收穫ヲ得ラレル様ニナリマシタ此ケール氏昨年我國ニ來マシタ矢張り鱗蟲ノ事ヲ調ベニ來タノデアリマス私モ瓢蟲ヲ五百匹程モケール氏ノ許ニ送ツテヤリマシタ今頃ハ日本ノ瓢蟲ガ亞米利

加テ働テ居ルデアアリマセウ密柑ニ着クハ鱗蟲ト云フノデ蚜蟲ニ彷彿タルモノデアアリマス瓢蟲ハ鱗蟲ト蚜蟲トチ食物トスル之レ學問ヲ應用シタル結果斯ク著シタ効チ奏シタルノデアアリマス斯ノ通り天然驅除ノ効ハ大ナルモノデアアルカラ勤メテ天然驅除ヲ圖リ然ル後人工ヲ以テ驅除スルデアアルガ前ニ申ス通り蚜蟲トテモ種類ガ最モ多イコトデアアルカラ其害セラル、處ノ植物ニ就テ驅除ノ方法ヲ研究スルデアナケレバ効チキコト思ヒマス不充分ナガラ只今ノ處デハ驅除ノ良法ハ無シト答ヘルノ外アリマセウ

問、蚜蟲ハ蟻ガ産ムモノナリヤ

答、蚜蟲ト蟻トハ全ク種類ノ違フモノデアアル蟻ガ蚜蟲ヲ産ムト云フハ恰モ瓜ノ蔓ニ茄子ガナルト云フ様ナモノデアアル併シ乍ラ蟻ト蚜蟲トハ最モ親密ナルモノデアアル居ル所ニハ必蟻ガ居ル蟻ガ産ムト云フハソウアリソウナコトデ事實デアリマス全体蚜蟲ハ甘い液ヲ出ス昔ヨリ甘露ガ降ルト云フハ蚜蟲ノ分泌液デアアル現ニ此邊ニモ甘露ガアルデアロウト思ヒマス蚜蟲ハ体中ニ甘い汁ガ溜リ過テ氣分ガ悪ク困テ居ル其所ヘ蟻ガ行キ彼ノ鬚ヲ以テ腹部ヲ撫ル様ニスルト直ニ甘い液ヲ分泌シテ快クナル蟻ハ直ニ之ヲ餌トスル夫故他ヘ移ルキニハ巧ニ蟻ガ蚜蟲ヲ啜ヘテ運デヤル斯ク密接ノ關係ガアルカラ蟻ガ産ムト云フモ大ナル間違ナシ必竟蟻ニ由テ繁殖スルト云フテモ宜シキ事デアアル故ニ蟻モ亦憎ムベキ蟲デアリマス

蠶業講習會

本年郡費ヲ以テ農商務省西ヶ原試驗場卒業生山梨縣人古屋正氏ヲ講師ニ聘シ廿九年九月一日ヨリ廿二日ニ至ル廿二日間顯微鏡使用、桑樹栽培法、養蠶學大意、養蠶術大意ノ講習會ヲ開キ生徒ハ十五歳以上ノ男子ヲ郡内各町村役場部内ヨリ入場ヲ許シ生徒寄宿舎ヲ設ケ寄宿生ニハ寢具ヲ貸與シ其他便利ヲ與ヘシカバ生徒安心ノ模様アリ總數拾九名ナリ而シテ終期試驗ヲ行ヒ拾八名ニ全科習得證ヲ顯微鏡專門講習生一名ニ該習得證ヲ附與シタリ

證

何村之誰

一顯微鏡使用法

一桑樹栽培法

一養蠶學大意

一養蠶術大意

八名郡蠶業講習會ニ於テ習得セシ事ヲ證明ス

明治廿九年九月廿二日

愛知縣八名郡長

服部直衡

講師 山梨縣

古屋正

講習生ハ多ク壯年ノ男子概シテ相當ノ學識及資産ヲ有シ前途多望ノ輩ニシテ熱心從事セリ其生徒住所姓名左ノ如シ

富岡村 山本秀次	山吉田村 莊田九一	西鄉村 時野芳次
嵩山村 藤原新吉	賀茂村 林延太郎	富岡村 山本重助
富岡村 加藤竹三郎	西鄉村 白井文作	西鄉村 加藤義次
西鄉村 繁原忠次郎	日吉村 柿田國三郎	賀茂村 山本樊三郎
日吉村 原垣	西鄉村 瀧澤彌三郎	富岡村 岡本伊作
乘本村 柿原住太郎	三上村 豊田喜市	三上村 杉山高次
乘本村 伊藤七藏		

試驗問題

- (一) 植物生長ノ理由
- (二) 壹反歩ニ栽植スル桑樹ノ株數及早中晩ノ割合ヲ示セ
- (三) 蠶ノ体温ハ何ニ由テ生ズルヤ又其温度ハ定温ナリヤ否ヤ
- (四) 蠶量四匁掃立ツルトセハ之ニ要スル刈桑何貫ヲ用意セハ可ナルヤ
- (五) 蠶種貯藏法ヲ簡單ニ記述セヨ

- (六) 飼育中ノ温度ハ華氏ノ何度ヲ標準トシテ可ナリヤ又内外温度及乾濕ノ差如何
- (七) 就眠前後ノ取扱ヲ略述セヨ
- (八) 五齡中殊ニ要スベキ注意トハ何ゾ
- (九) 上簇中適當ナル温度及結繭ニ對スル注意ノ要點
- (十) 殺蛹ノ温度及貯繭法ヲ簡單ニ述ベヨ
- (十一) 蠶蛾ノ交尾時間ハ何時間ヲ適度トナスヤ

外顯微鏡ヲ以テ病毒ノ有無ヲ判定ス其問題十個トス

### 蠶業講習會筆記

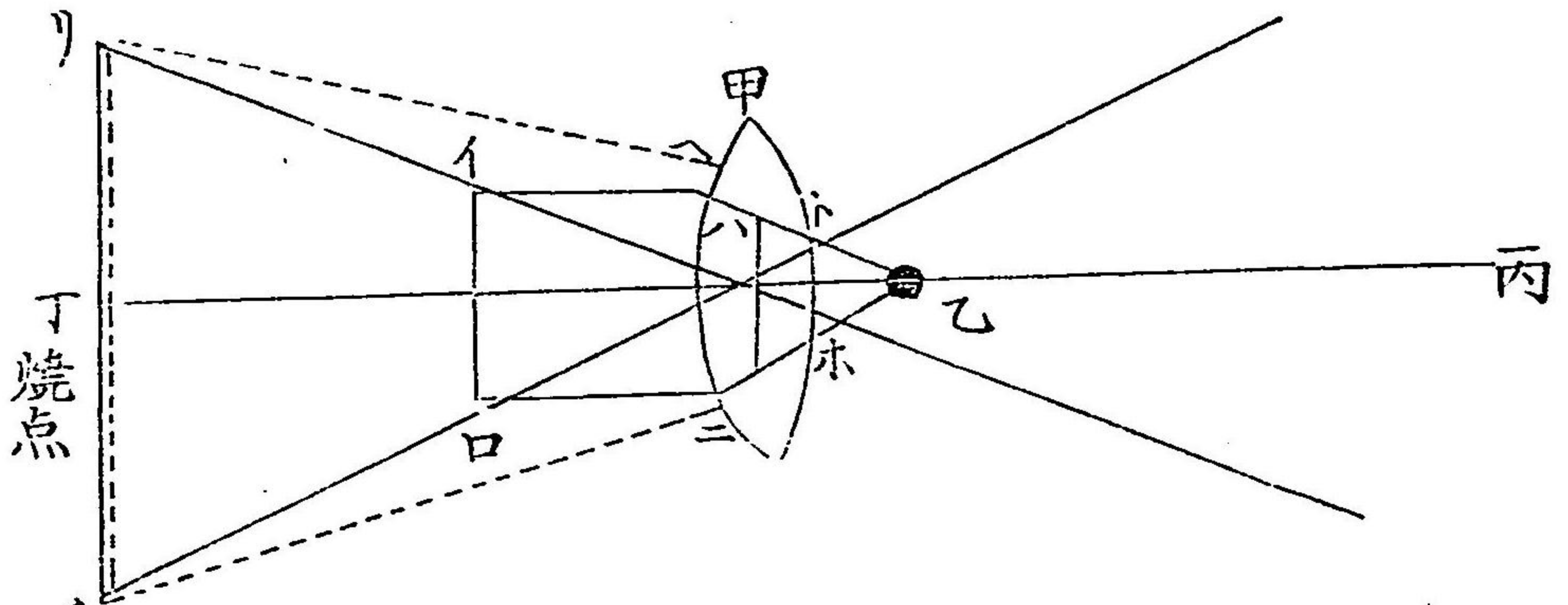
(前年講習會筆記會報第一號掲載ノ分ト類似セルモノハ省略ス)

### 顯微鏡諸法

#### 名稱

凡ソ人ノ眼球ハ一定ノ度アリテ此度ヲ越ユルキハ物体ヲ見ルコト能ハズ然ルノミナラズ各人ノ眼球ハ各自各々異ナルト雖大ナルモノハ遠キニ於テ見ルコトヲ得小ナルモノハ眼球ニ接近スルニアラザレバ見ルコト能ハザルモノアリ然レバ物体極メテ小ニシテ愈々眼球ニ接近シ遂ニ視點ヲ越ユルニ當リテハ又之ヲ認ルコト能ハズ故ニ他ノ力ヲ借リテ物形ヲ廓大ニセザルベカラズ此器械ヲ名ケテ顯微鏡ト云フ

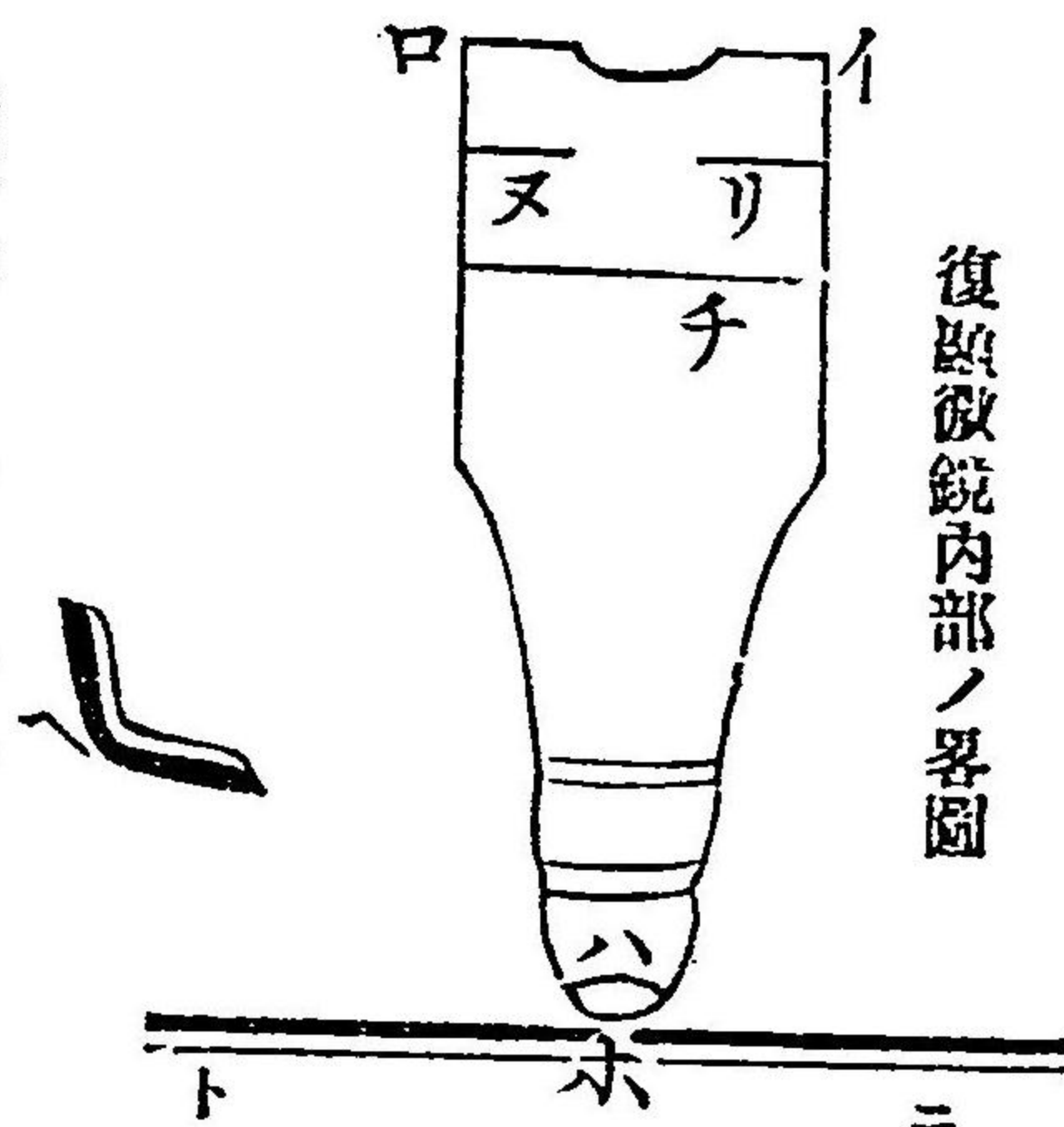
#### 種類及區別并ニ構造



顯微鏡ニ二種アリ一ツヲ單顯微鏡一ツヲ復顯微鏡ト云フ單顯微鏡ノ尤單ナルモノハ硝子ヲ以テ製造セル一ケノ凸鏡ヨリ成リタル廓大硝子ニシテ俗ニ虫眼鏡ト云フモノ之レナリ其廓大力多カラズ廿倍ヲ以テ最上トス其物影ヲ大ナラシムル左上ノ如シ圖中甲ハ凸鏡ニシテ燒點トレンストノ間ニ(イロ)ナル物体アリ丙丁ハレンスノ主軸ニシテ(ハロイ)ハ次軸ナリ(ハ)ヲレンス中心トシテ(ロ)ヨリ發スル所ノ光線ハ(ニ)點ニ於テ屈折シテ(ホ)ニ達シ二度屈折シテ眼球ニ達ス故ニ眼球ヨリ之ヲ見ルキハ其光線(チ)ヨリ來ルモノ、如シ依テ之ヲ延長スレバ(チ)點ニ下リテ(ハロ)ナル次軸ノ延長線ト合シ又(イ)點ヨリ出ツル所ノ光線ハ(ヘ)ニ至リテ曲折シテ(ト)ニ達シ再び曲折シテ眼球ニ入ルコト前ノ如シ故ニ之ヲ延長スレバ(リ)點ニ於テ(ハイ)ナル次軸ヲ折斷スベシ之レ即チ光線ノ屈折ヨリ物形ヲ廓大ナラシムルノ理ニシテ物体ノ位置燒點ニ近ツクニ從ヒ物影彌々大ナリ又鏡ノ凸面高キニ從ヒ廓大力ヲ増スト雖モ之レト同時ニ二ケノ障礙ヲ生ズルモノナリ即チ圓球の差迷色彩的差迷之レナリ圓球の差迷トハ光線屈折ノ有様ニ依リテ物影一點ニ集合セズ以テ之ヲ不明ナラシムルナリ又鏡ノ邊緣ヲ透射シタル光

線ハ各色ニ分解セラル、チ以テ物影又判然ナラズ此等ノ障礙アルチ以テ甚シク凸起スルレンスチ製スルチ能ハズ然レモ曲折力ノ異レル硝子チ以テ二ケノレンスチ作り之チ合一スルキハ此等ノ障礙チ除キ得ベシ此法ニ依リテ製スルレンスチ不迷レンスト云フ

復顯微鏡ハ單顯微鏡ニ一ツノ接眼鏡チ附ケ加ヘタルモノニテ其廓大カハ甚ダ強ク二千倍位ニ至ルモノアリ單顯微鏡ニアリテハ物体ノ正位置チ見レモ復顯微鏡ニアリテハ反對ノ位置チ顯ハスモノナリ復顯微鏡ハ臺チ以テ全体チ支ヘ之ニ一ケノ支柱チ立テ之ニヨリテ他ノ部分チ固定ス即支柱ノ上部ヨリ突出セル把挺ニ依リテ一ツノ圓筒チ固着シ別ニ(イ)ナル圓筒アリテ圓筒ノ内ニ上下ス圓筒ノ上端ニ接眼鏡(ロ)チ箝メ螺定ス下端ニハ對物鏡(ハ)チ箝シ之レ又螺定ス而シテ之等ノ諸部ハ柱ニ座置セハ螺旋機械ニヨリテ上下スルコトチ得テ物体トレンストノ距離チハ調整セシム



鏡直下ニ當レル(ホ)穴アリ之レ反射光線ノ通過スル所ナリ反射鏡(ヘ)ハ物体床ノ下方ニアリテ障光器(ト)ハ物体床ノ下部ニ附着ス對物鏡ハ二ツ或ハ三ツノレンスヨリ成レルモノニシテ甚ダ小ナルレンスチ用ヒ通常顯微鏡ニ付テ二ケ或ハ三ケノ對物鏡チ備ヘカノ強弱ニ應シテ之チ用ユルモノナリ接眼鏡ハ二ツノレンスヨリ成リ下方ノ物チ集光レンスト云ヒ上方ノ物チ接眼鏡レンスト云フ集光レンスハ對物鏡

ヨリ來ル光線チ集メ接眼鏡レンスト其燒點トノ間ニ物影チ現ハス接眼鏡レンスハ單ニ廓大硝子ノ効用アルモノナリ又接眼鏡レンス集光レンストノ間ニ障光環(リヌ)アリテ邊緣ノ光線チ遮ギリ差迷ノ憂チカラシム接眼鏡レンスモ亦各顯微鏡ニ二ツ或ハ三ツチ備ヘカニ應シテ之チ採用ス反射鏡ハ凹レンスヨリ成リ外方ヨリ來レル光線チ反射シテ物体チ照ラシ之チ鮮明ナラシムルノ要チナス其位置ハ隨意ニ變シ得ルチ以テ適當ナル光線チ集光シ取ルベシ除光器ハ一ケノ圓板ニ大小數ケノ穴チ穿チタルモノニテ自由ニ光線チ節スルチ得ベキモノナリ

顯微鏡購求ノ注意

顯微鏡チ購求スルニ當リテ最モ注意スベキハ主軸ノ一致セルチ之ナリ製造ハ緻密ニシテ良製ノレンスチ用ユルモノト雖主軸一致セザルキハ判然物影チ現ハスチ能ハズ之チ檢査スルニハ圓筒チ廻旋シテ視面常ニ同一ナレバ主軸一致セル証ナリ又色彩の差迷圓球の差迷モ亦驗査セザルベカラザルモノニシテ是又注意スベキノ所ナリ塵及埃ノレンスニ附着シテ除キ難キモノアリ而シテ常ニ物影チ防キ之ガ爲メニ大ナル誤認チ來スコトアリ之レ又注意スベキノ點ナリ凡テ顯微鏡チ購求スルニ當リテハ豫メ備ヘ置ケル良製顯微鏡ト見合スルチ良シトス若シ誤リテ不良ノ品チ購求スル如キアラハ觀察常ニ不充分ナルチ免レズ

顯微鏡使用法心得

顯微鏡検査ヲ行ハントスルニハ先強度ノレンスハ物影暗黒ニシテ其弱キモノハ鮮明ナル物影ヲ顯ハス  
 一ヲ忘ルベカラズ或ハ單ニ力ノ強大ナルヲ貴ビ眼力ヲ勞スルノミナラズ尙觀察ノ不充分ナルヲ思ハ  
 ザルコアリ之レ大ナル過マリニシテ顯微鏡ハ只物影ヲ大ナラシムルノ効用ノミナラズ視面暗黒又加フ  
 ルニ物体ノ全体ニ付キ觀察スルコト能ハザレバ全ク顯微鏡ノ効用ヲ盡セルモノニハアラザルナリ故ニ顯  
 微鏡ヲ以テ或検査ヲ行フキニハ始メハ成ルヘク弱度ノレンスヲ用ヒ其大体ニ付キ觀察ヲ終ラハ漸ク其  
 度ヲ高メ尙極メテ精密ナル検査ヲスルニ當リテハ尤モ強キレンスヲ用ユベシ通常ノ光線ハ其力微弱ニ  
 シテ顯微鏡的ノ物体ヲ鮮明ナラシムルコト能ハズ故ニ反射鏡ヲ以テ其力ヲ強ムルモノアリ其光線ハ強キ  
 ニ過ギ又弱キニ過グベカラズ殊ニ反射セル日光ハ甚ダ眼力ヲ損スルモノナリ亦餘リ暗黒ナルキハ物影  
 暗クシテ充分ニ認ムルコト能ハズ通常顯微鏡ノ位置ハ窓ヲ去ルコト凡二三尺ニシテ適宜ノ光線ヲ採ルベシ  
 若シ光線餘リ暗キキハ燈光ヲ用ユルコトアリ此場合ニ於テモ亦三尺位ヲ隔テ、反射セシムベシ試験スベ  
 キ物体ハ之ヲ一ケノ硝子板ニ載ス此板ハ長方形ニシテ長サ二寸餘幅五分位ニシテ甚薄ク透明無色ナル  
 ナ要ス之ヲ臺硝子ト云フ物体ヲ臺硝子ニ載セ後水或ハ液ヲ加ヘテ其上ニ蓋硝子ト稱スル板ヲ掩フ蓋硝  
 子ハ小ニシテ極メテ薄ク無色透明ナルヲ要ス其形ハ方板或ハ圓板ナリ蓋硝子ノ効用ハ水蒸氣レンス面  
 ナ掩フヲ防ギ或ハレンスノ腐敗ヲ防ギ又物体ヲ浸ス所ノ酸液或ハアルカリ液ニシテ硝子ヲ腐蝕スベ  
 キモノナルキハ極メテ緊要ナルモノナリ又臺硝子ノ物体ヲ壓低平均ナラシムルノ要ヲ以テ弱度ノ顯微

鏡ニモ亦必要ノモノナリ顯微鏡下ニ驗視セントスル物体若シ肉類又ハ植物莖葉ノ如キモノナレバ之ヲ  
 シテ且ツ極薄ナラシムルヲ要ス通常臘或ハヒス(山吹又ハハニハトコノ木)ノ心ノ間ニ箆メ剪テ以テ之ヲ截切スルモ  
 ノナリ其物体若シ粉末或ハ液体ナルトキ又々其多量ヲ用ヒズ只其二三粒或ハ一滴ヲ採ツテ臺硝子ノ上  
 ニ載スベシ通例ハ細小ノ硝挺ヲ以テ水ノ一滴ヲ附シ豫メ粉末狀ノ物体少許ヲ盛リタル臺硝子上ニ點滴  
 シ此硝挺ヲ以テ能ク攪拌シ蓋硝子ヲ掩ヒ對物鏡ノ下ニ置クベシ凡テ其他ノ液類ハ硝子ノ硝挺ヲ以テ臺  
 硝子ノ上ニ點滴スルカ或ハ臺硝子ノ近傍ニ滴ラシ之ヨリシテ蓋硝子ノ下ニ浸入セシムベシ斯ノ如ク調  
 製セルモノヲアレバラトト云フアレバラトトハ物体床ニ置キ物体ハ對物鏡ノ直下ニアラシムベシ而  
 シテ後眼ヲ接眼鏡ニ當テ靜ニ圓筒ヲ下シテ物影ノ現出スルニ至ツテ之ヲ止メ未ダ鮮明ナラザルキハ螺  
 旋機ヲ以テ少シツ、圓筒ヲ上下シ各自ノ眼力ニ應ツテ明視シ得ベキ點ニ迄至ラシム其最初ニ見ユルモ  
 ノハ脂肪ノ如ク輕クシテ水面ニ浮ブモノナリ之ヨリシテ漸々圓筒ヲ下セバ水底ニ沈ミ下セルモノヲ見  
 ルベシ或ハ液体流動シ物体モ亦之ニ從ツテ移動スルコトアリ是即チ液体ノ平均ヲ得ントシ或ハ移膜兩液  
 ノ混合ヨリ起ルモノナリ又時トシテハ微物小体踊躍跳動ノ狀ヲ呈スルコトアリ之レ物体ノ分子運動ニ依  
 リ起ルコトアリ或ハ下等ノ動植物アレバラトト中ニ存在スルニヨルナリ又空氣ヲ液体ニ混シテ細球狀  
 ナナス之ヲ他物ト誤認スルコトアレハ少シク顯微鏡ニ熟セルモノハ之ヲ判別スルコト難カラズ何トナレバ  
 周邊暗黒ニシテ中心ノミ透明ノ狀ヲナシ且水面ニ浮ブヲ以テナリ然レモアレバラトト製スルノキ空

氣ヲ混入セザルコトニ注意スベシ

### 植物分科法

植物分科法ニニアリ第一ヲ自然分科第二ヲ人工分科ト云フ自然分科ハ専ラ植物ノ性質、組織、生殖ノ凡テ天然ノ本性ヲ調査シ其大同ヲ總括シ小異ヲ分別スルモノニシテ現今専ラ世ニ行ハル、法ナリ人工分科ハ植物學ノ元祖ナル林娜氏ノ説ク所ニシテ單ニ花ノ構造ニ依リテ全植物界ヲ二十四項ニ分チ(雌雄ノ位置及ビ長短ニ從テ分ツ)各項毎ニ目ヲ附ス(此目ハ雌雄ノ數ニ從フ)但隱花植物ニ於テハ自然分科法ト粗ボ同シ自然分科ノ一般ヲ述レバ左ノ如シ

#### 第一部顯花植物

##### 第一門雙子葉植物

第一亞門被子(被子トハ身ノ被レテ出ルモノ)

第一類多瓣花

第二區萼花

荳科、菓豆屬、菜豆種、ツルナシエンドウ、變種、

##### 第一部顯花植物

花ト認メ易キ生殖器ヲ有スルモノヲ云フ分テ二トナス

第一門雙子葉植物(外長幹)發芽ノ際ニ二ツノ子葉ヲ生シ葉ノ脈絡ハ多クハ毛狀ヲ呈シ幹中ノ束管ハ年

#### 環ナナス

第一亞門分ツテ二トナス被子例ハ松杉ノ如シ

第二門單子葉植物(内長幹)發芽ノ際一子葉ヲ生ズ葉ノ脈絡ハ多ク並行シ幹中ノ束管ハ散在ス例ハ百合、株栂、蘭、稻、麥、芋ノ類

第二部隱花植物 生殖隱微ニシテ明カナラザルモノヲ云フ分テ二トナス

第一門ニ屬スルモノヲ束管植物ト云フ此植物ハ莖葉根ノ區別アリ又々莖ノ内ニハ束管ヲ備フ例ハ羊齒、木賊、門、荊、

第二門細胞植物此植物ハ全体細胞ノミヨリ成リ分テ二トナス

##### 第一亞門苔鮮

第二亞門無葉植物即チ莖葉根ノ區別ナク所謂無葉体ヨリ成ル分ツテ三トナス

第一類藻類例ハ水綿アツンドロ其他ワカメ、昆布、石花菜、赤菜、

第二類チ地衣類此類ハ岩石、古木ニ生ズルモノニシテ例ハ松蘿サルナギ

第三類芝類最下等ノモノ即チ松茸ヨリバクテリア微ノ類ニ至ル迄ノモノ此類ハ葉綠ヲ含有セズ

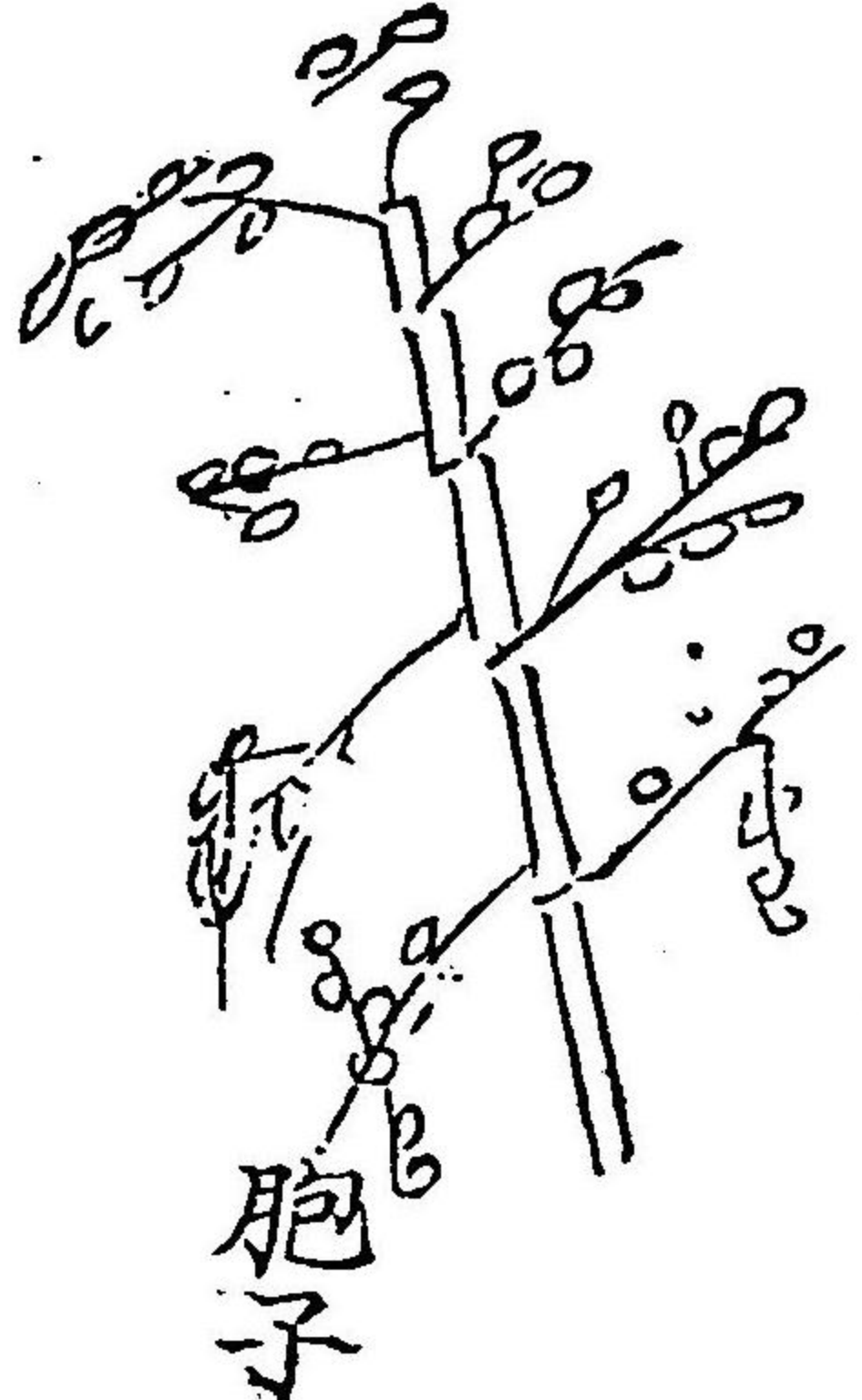
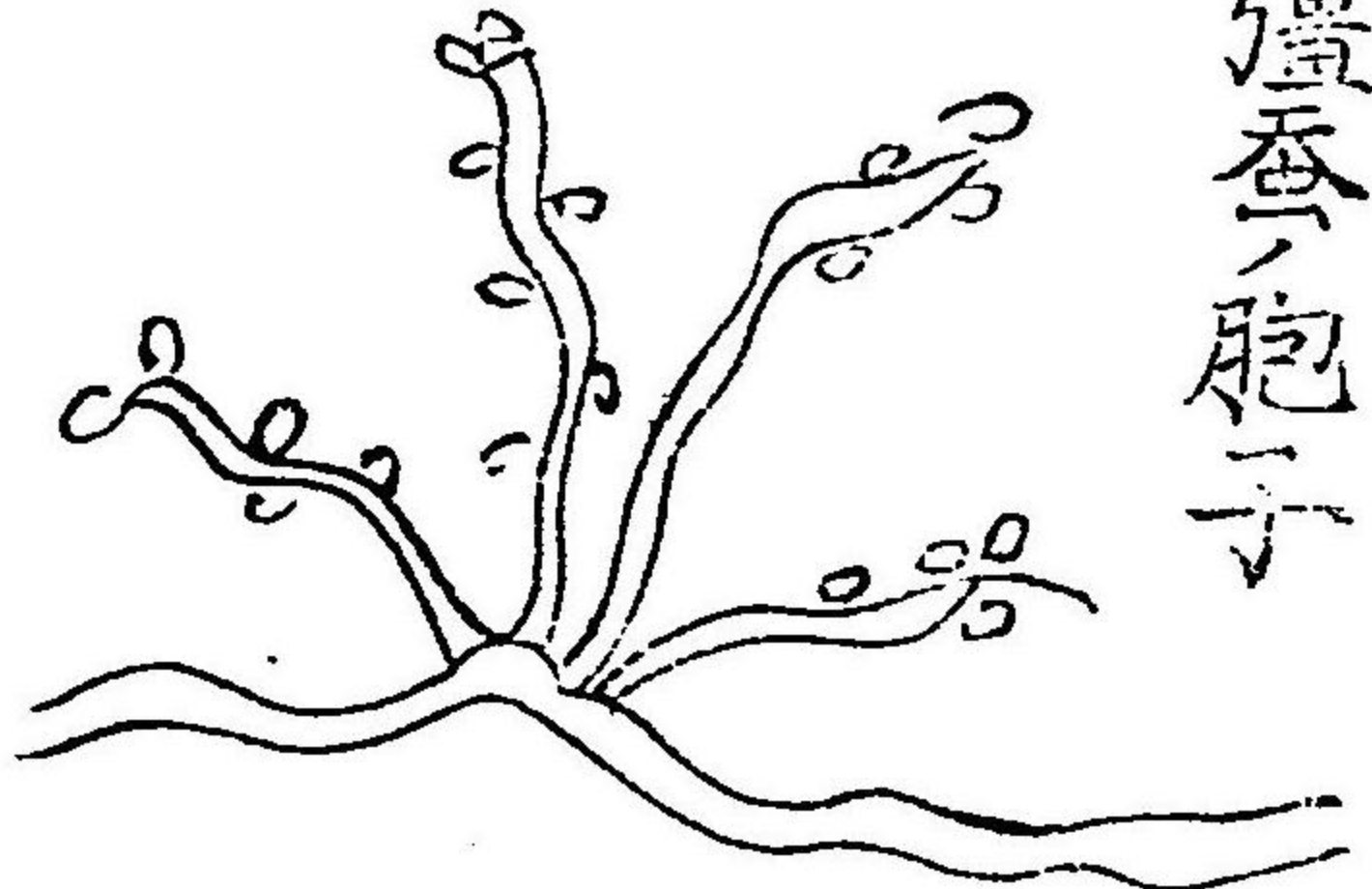
全植物ニ寄生シ或ハ其腐敗セル内ニ増殖ス分テ又五トナス

第一菌芽科、數多ノ分岐セル糸狀細胞ヨリナル

第二系微科  
第三粒微科

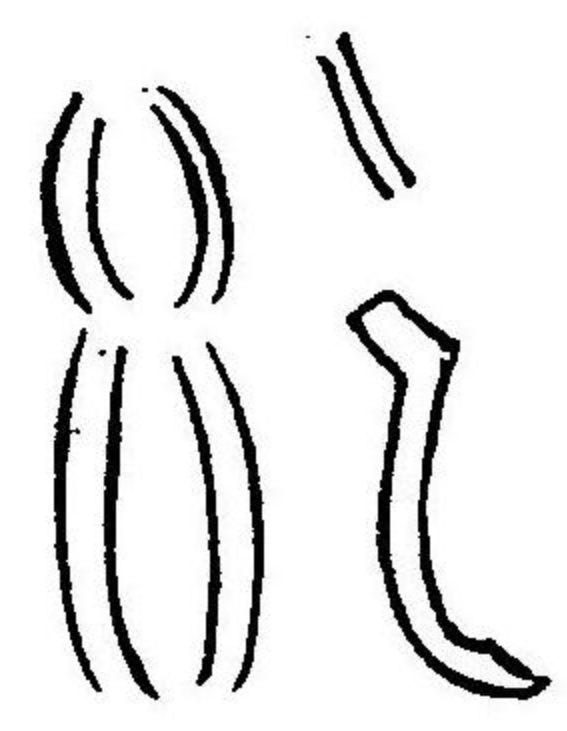
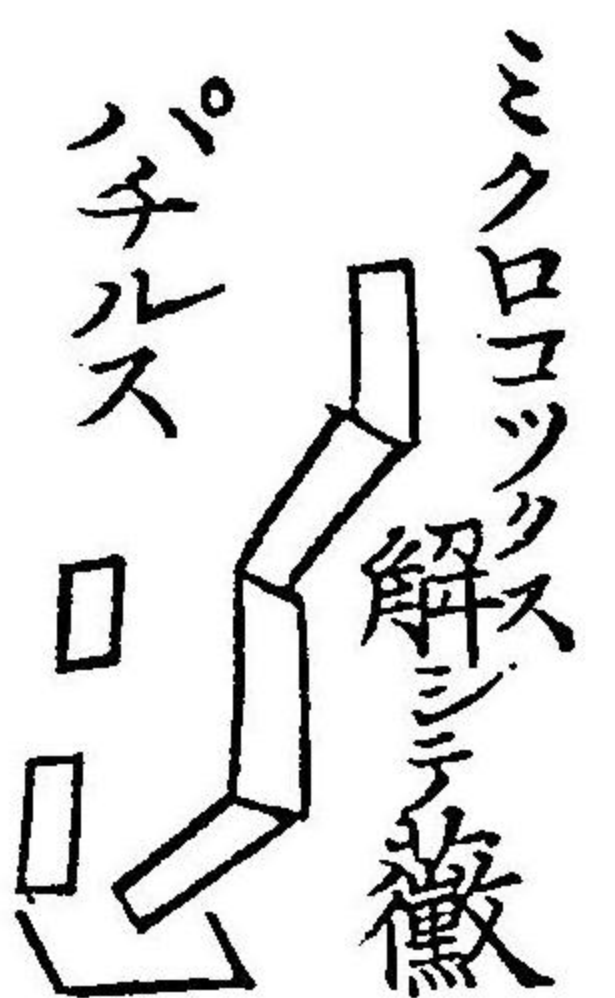
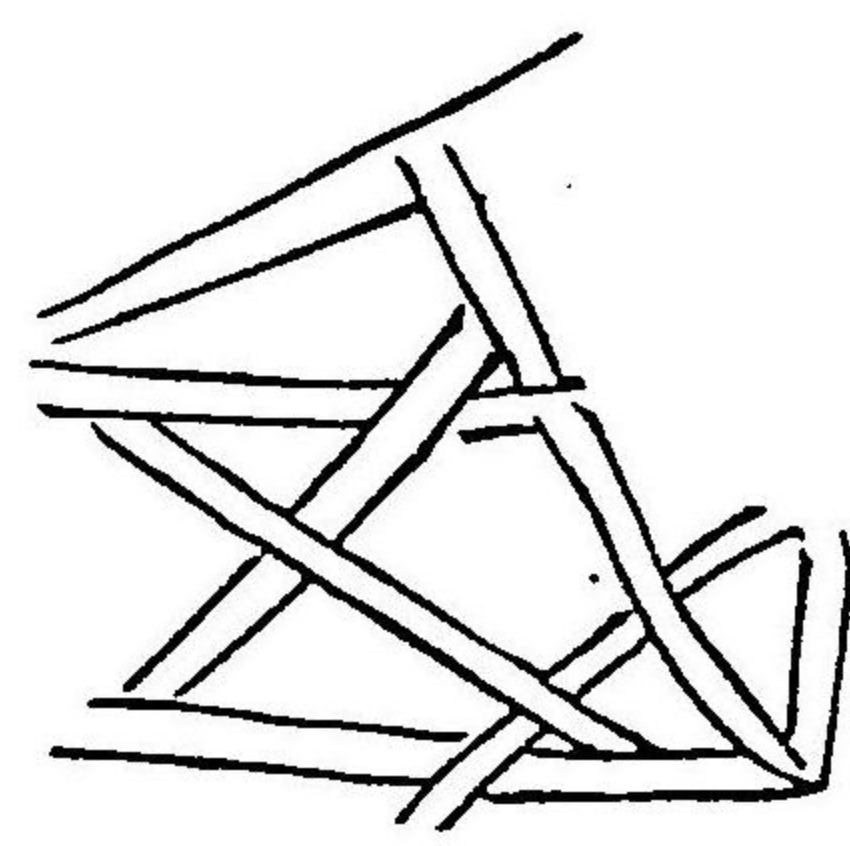
第四酒母科單細胞ヨリ成リ單生ス又數多連リテ存在スルコトアリ、麥酒、葡萄酒、酸、酸酵ヲ起ス  
微ナリ

白蘆香ノ孢子



第五分裂微科(バクテリア微科ト稱ス)性質ハ單一ノ細胞体ニシテ單生シ  
或ハ糸狀ニ連繫ス増殖ハ專ラ無性生殖ヲ行ヒ細胞分裂ニ依ル其体極メテ  
微細ニシテ最小ナルモノハ〇、〇〇〇〇五ミリメートルニ達セザルモノ  
アリ數多相集リテ無色或ハ帶地ノ粘液中ニ存スルモノアリ多ク纖毛ヲ備  
ヘテ運動ヲナス能ク蛋白質ヲ含有スル物体ヲ腐敗セシメ傳染病ノ原因ト  
ナル分科法ニニツアリ  
(甲)實用上分ツテ三トナス(一)色微科ト云フ其性質他ノ物体ニ變色セシムル  
ノカアリバンニ赤色ヲ附スル所ノ赤微ハ「ミクロコックス」乳汁ニ藍色、  
藍微ハ「バクテリユウム」トス(二)酸酵微科其性質有機物ノ酸酵ヲ起ス力ア  
リ例ハ「普通腐敗」「バクテリユウムテルモ」ノ如シ(三)病微科傳染病ノ原

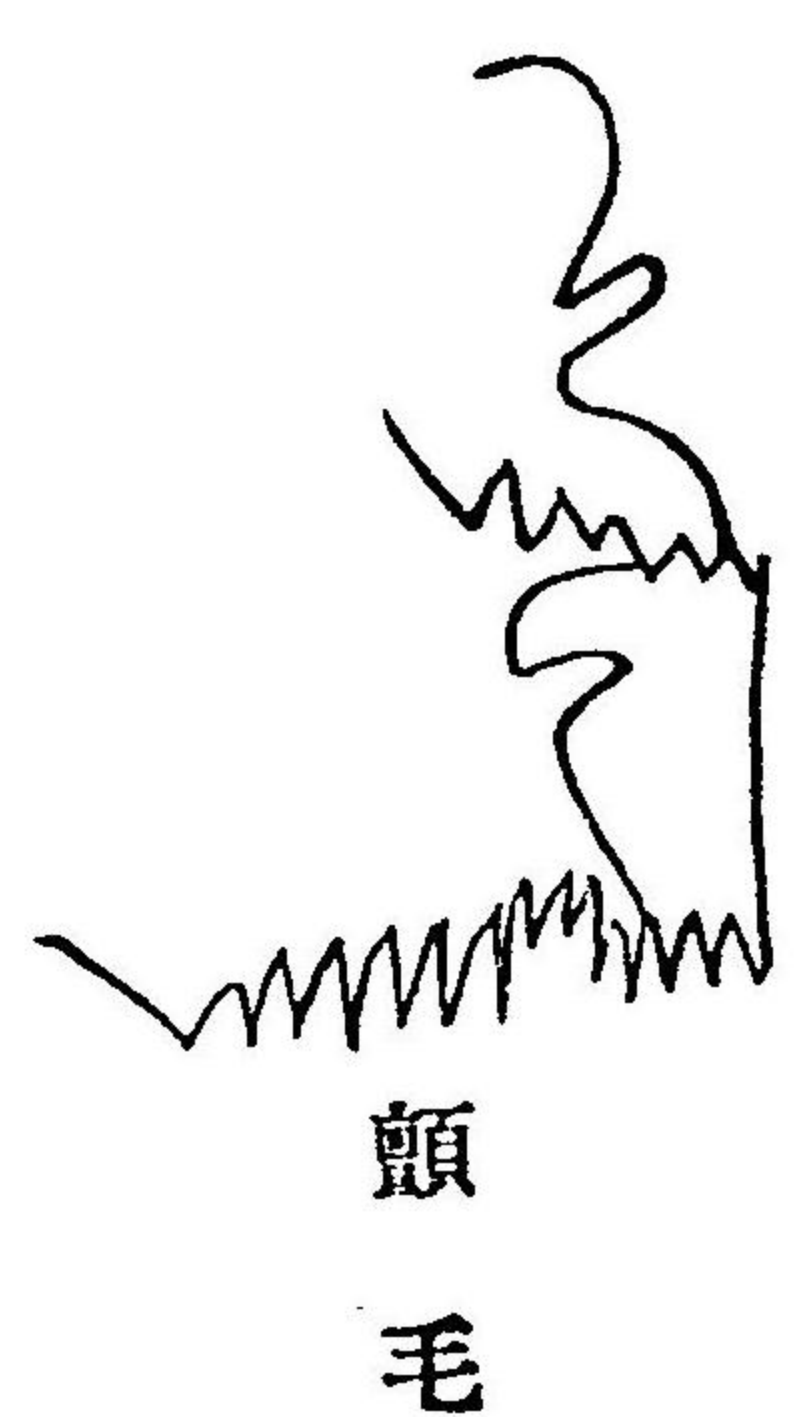
蠶体内部ノ糸條体



因ヲナス例ハ「ミクロコックス」屬ノ痘瘡微コフテリヤ微其他熱病等ノ原因  
ヲナス微類

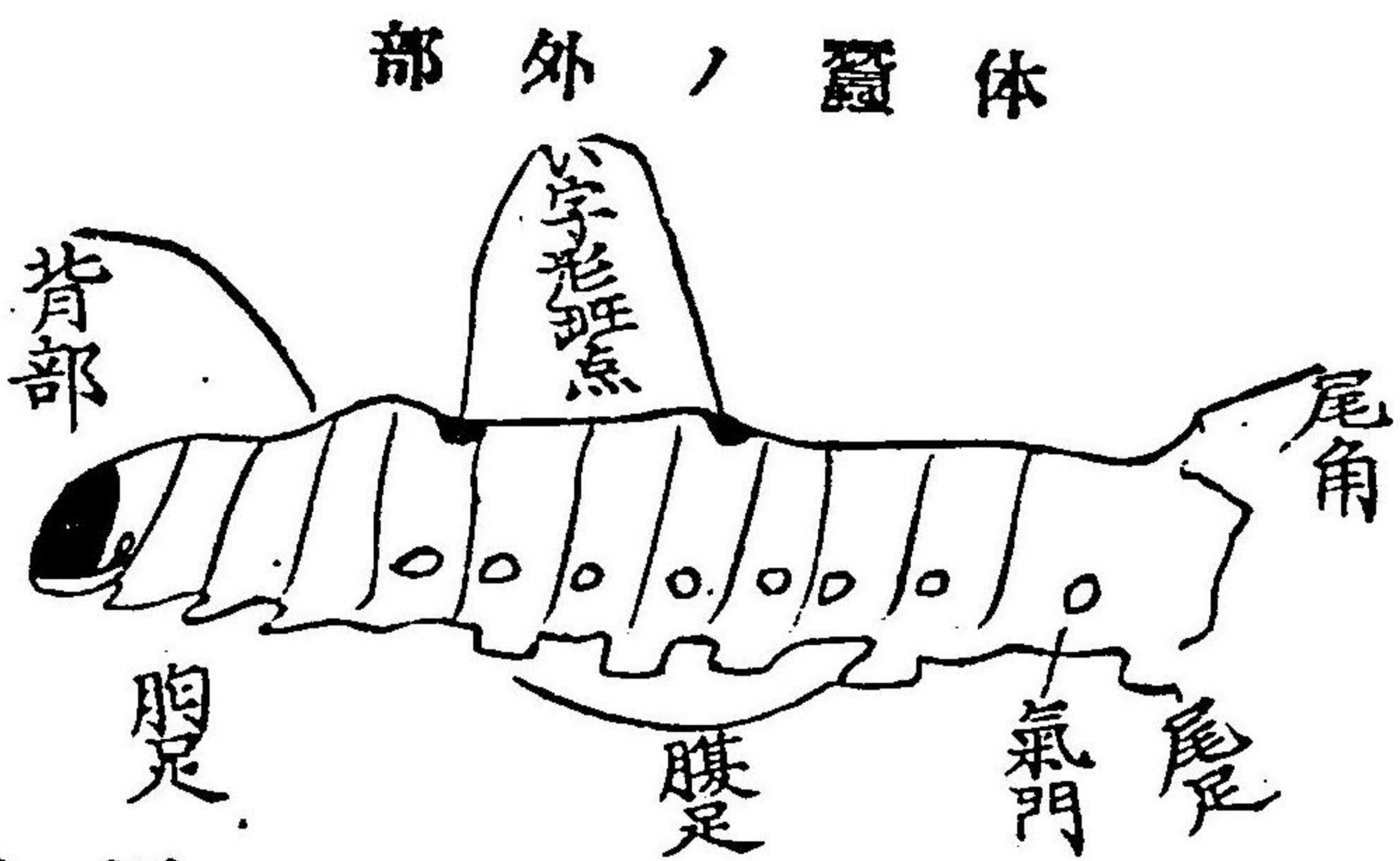
(七)植物學上分ツテ五トナス(一)圓微科即チ細胞彈丸狀ニシテ(ミクロコックス)  
例ハ「赤痘瘡微コフテリヤ微」「ミクロコックス」「ボンピチス」微短橢圓形ニシ  
テ經〇、〇〇〇五ミリメートルニアリ圓柱狀ヲ呈ス(二)ノゼマ屬ベアリチ「ノゼ  
マボンピチス」(蠶ノ病ノ一)(三)糸狀分微科(一)細胞糸狀ヲナシ數多相集リテ折線  
或ハ波狀ヲ呈シ「バチルス」コレラ病微ケツカク病微マテリヤ熱病微(二)ヒアリチ  
屬細胞多少變曲ス(四)螺旋微科細胞螺旋狀ニ回旋ス(五)十字微科細胞十字形ニ分  
列ス例ハ「胃腸ニ生スル微」ノ如シ

ボンピチス解シテ蠶



蠶 體 解 部

凡蠶ハ其種類ノ異ナルニ從ヒ大小及重量トモ均一ナル能ハズト雖其成長ノ極度ニ達シタルキハ孵化ノ際即蟻蠶ノ時ヨリ大ナルヲ四百倍重サ殆ド一萬倍ニ至ル蠶ハ種々其種類ヲ異ニシテ大ナルモノハ赤熟小ナルモノハ小石丸蠶トハ支那本草綱目ニ載セタル蠶ノ解説ニヨリテ附シタルモノニテ蠶ノ生ズルキハ恰モ其成長ノ極度ニ達シタルキハ其大サ殆ド四百倍ニ至リ其重量殆ド一萬倍ニ至ル其色澤同種ノモノト雖



又其齡ノ異ナルニ從テ同シカラズ其色蠶蠶ノ際ハ最モ濃クシテ熟蠶ノキハ最薄ク其色澤正ニ脱皮セントスルモノニテ其皮ノ厚薄ニ依ルモノナリ脱皮前ハ其皮二枚ニシテ脱皮後ハ一枚ナルガ故ナリ而シテ其腹部ト腹足トノ純白ナルモノハ白繭ヲ作り糞ナルモノハ黃繭ヲ作ル斑紋又タ全シカラズ然レモ多ク其背部ノ第五節及第八節ニイ字形ノ斑紋ヲ呈セリ皮膚ニ毛アリテ以テ外來ノ諸害ヲ避ケルニ便ス故ニ幼稚ノ際ニハ單ニ其毛ノ多キノミナラズ毎毛小枝ヲ生セリ蠶體ハ十二節ヨリ成リ頭部ハ扁球狀角質ヲ蒙リテ暗褐色ヲ呈セリ角質トハ性質ト同性ナリ而シテ其頂キト側面上唇トノ間ニ三角形ノ隆起部アリ之ヲ顎ト云フ上唇ノ下部下唇ノ上部大索手ノ間ニ口アリ口ノ左右ニ顎アリ其前端ニ齒ヲ有ス大索手ノ側ニ六ヶノ小點アリ之ヲ點眼又單眼ト云フ各半球狀ヲナセリ下唇ノ直下中索

手ノ間ニ一突起アリ其中央ニ一瘤アリ瘤上ニ一小口アリ瘤ハ之ヲ吐糸口ト云フ瘤ノ兩側ニ小索手アリ之ヲ成繭手ト云フ思フニ其大索手ハ聽感ヲ主ドリ中索手ハ觸感ヲ主ドルモノナラン單眼ハ其構造單一ニシテ近キヲ視ルニ適シ遠キヲ見ルヲ能ワズ角膜ノ中ニ水晶體ヲ存ス水晶體ノ周圍ヲ網膜ヲ以テ圍繞シ居ルモノアリ其網膜中ニ視神經アリ斯ノ如ク六ヶツ、左右ニアリ其數十二ヶアリ足ニ又二様アリ曰ク胸足曰ク腹足之ナリ又ハ眞足假足トモ云ヘリ甲ハ其數六、頭後ノ三節ヨリ成リ即チ第一第二第三節ノ下部即胸部ニアリ各々三節ヨリ成リテ其末端ニ一鈎爪ヲ有ス乙ハ第六第七第八第九及第十二節ノ下部即腹部ニアリ臀部ニ二ツアリ又各三節ヨリ成リ其末端ニ四十有余ノ鈎爪ヲ二列セリ但シ其臀部ニアルモノハ一名尾足ト云フ胸足ハ恰モ吾人ノ手ノ如キ働ナシ腹足ハ匍匐ト纏着トヲ兼ヌルモノナリ胸部ノ第一節并ニ第四五六七八九十及ビ第十一節ニ橢圓形ノ斑點アリ其周圍ハ黑色ニシテ内部ハ黃褐色ヲ呈シ中央ニ縱孔アリ之ヲ氣門ト云フ養氣ヲ呼吸スルモノナリ第十一節ノ背部ニ三ツノ突起アリ之ヲ尾ト云フ以テ体重ノ平均ヲ主ドルニ便ス其後部ニ三角形ノ肉辨アリ以テ肛門ノ開閉ニ便ス

内部

蠶體ノ背部ヲ縱截シテ其皮膚ヲ左右ニ開ケハ中央ニ一大管アリ全管綠色ヲ呈ス之ヲ營養管ト云フ其兩側ニ白色白繭種若クハ黃色黃繭種羊腸狀ノモノアリ其内方ニ稍ヤ又黃色ヲ帶ブル細管アリ第四及ヒ第五氣門ノ部位ヨリ屈折シテ之ニ附着セリ甲ハ所謂系腺乙ハ所謂尿管ナリ又營養管ノ兩側ニハ八束ノ黑管アリ



樹支狀ヲナシテ之ニ附着シ兼テ系腺ヲ連繫セリ之ヲ氣管支トナス系腺ノ後部即第十一節ノ間ニ白色綿狀ノモノアリ以テ其後部ヲ掩フ之レ脂肪組織ナリ營養管ハ其部分ト其作用ノ異ナルニ從ヒテ之ヲ大別シ五部トナス食道、胃層、小腸、盲腸、直腸之ナリ食道ハ口後部ニ始マリ軀幹ノ第一節及第二節ニ始マリテ第九節ト第十節トノ間ニ終ル小腸ハ胃層ノ終ル所ニ始マリ第十節ノ中央ニ達シ盲腸ハ第十節ノ中央ヨリ第十一節ノ中央ニ至リ夫ヨリ肛門ニ至ル間ヲ直腸トナス營養管ハ三層ヨリナレリ縱筋層、環筋層、細胞層之ナリ縱筋ハ其外面ニ環筋ハ内ニアリテ伸縮シテ運動ヲ主ドリ細胞層ハ其内面ヲ構成シ各部特異ノ形狀性質ヲ備ヘ消食補給及排泄作用ヲ主ドル胃層ノ細胞ハ壺狀若クハ壺狀又圓錐形ヲナシ密ニ平行シテアルカリ液即胃液ヲ分泌シテ桑葉ノ消化ヲ容易ナラシメ小腸ノ細胞ハ食道ノ細胞ト同シク扁平多角ナレ此部ニ於テハ殊ニ其接合部ニ細刺ヲ生ズ其胃層及盲腸ニ界スル所ノ一ツノ皺襞アリ

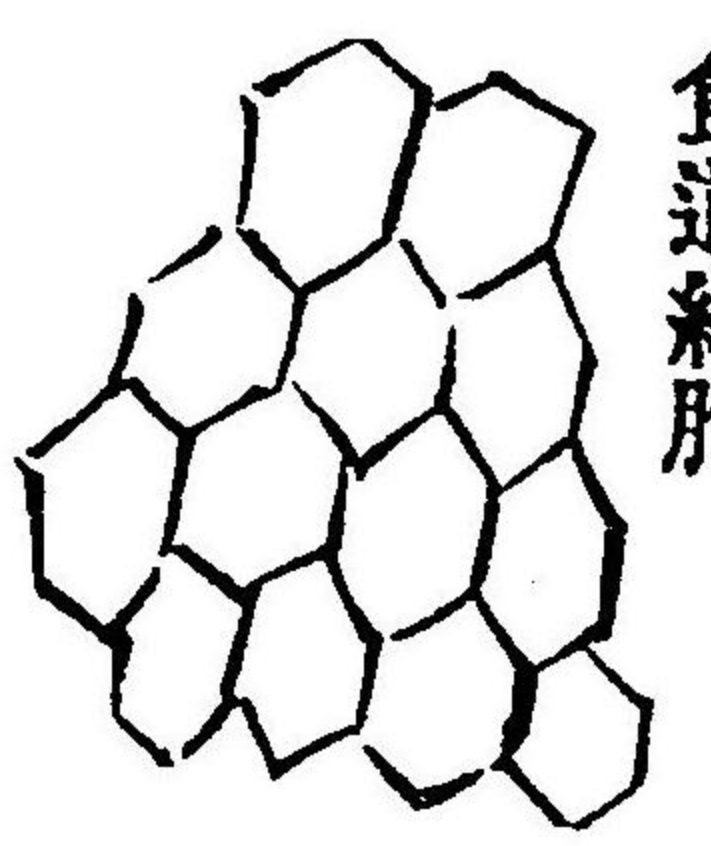
皺襞



諸組成胃腑ノ細胞

細胞ノ壺狀若クハ壺狀ノ細胞内面ニ口ヲ向ケテ胃液ヲ分泌スルノ狀

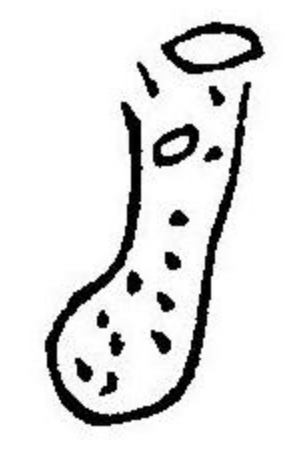
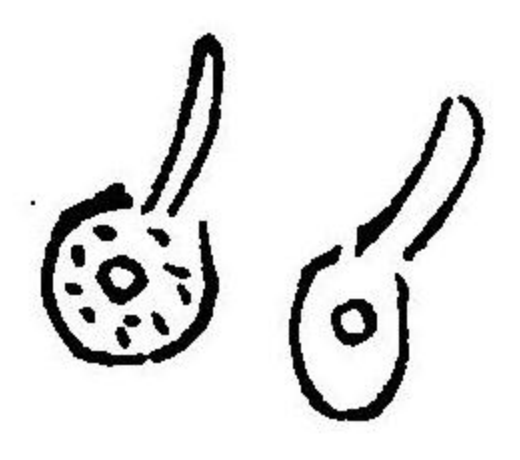
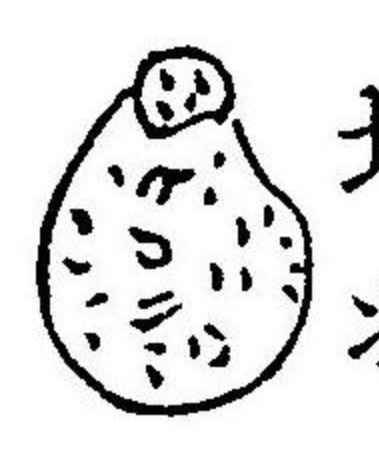
食道細胞



小腸細胞

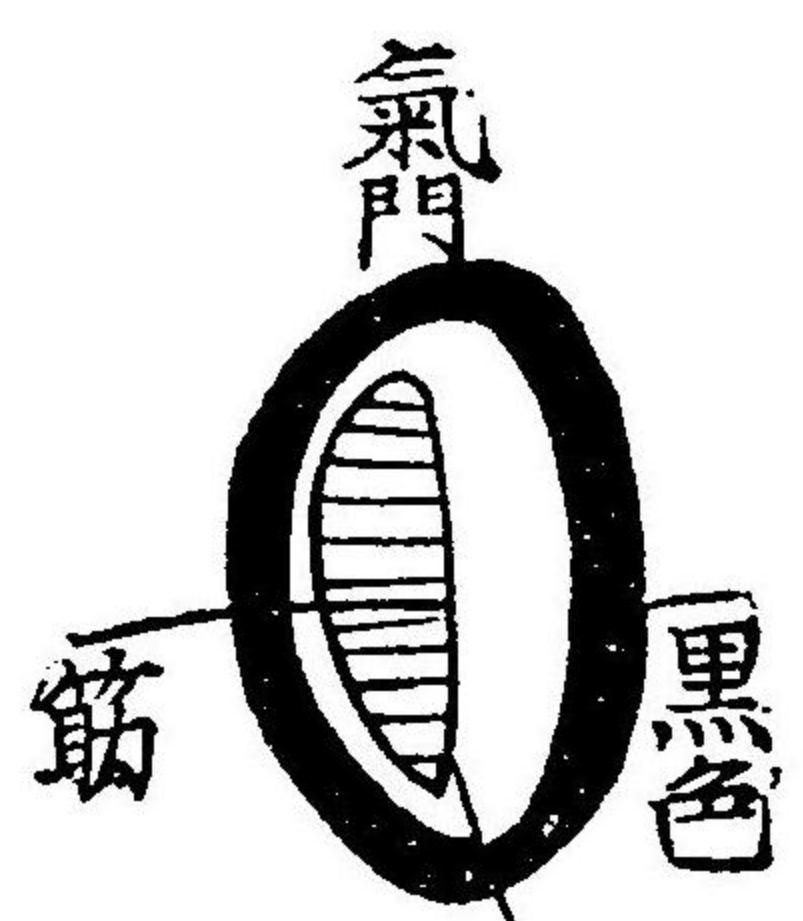


壺狀

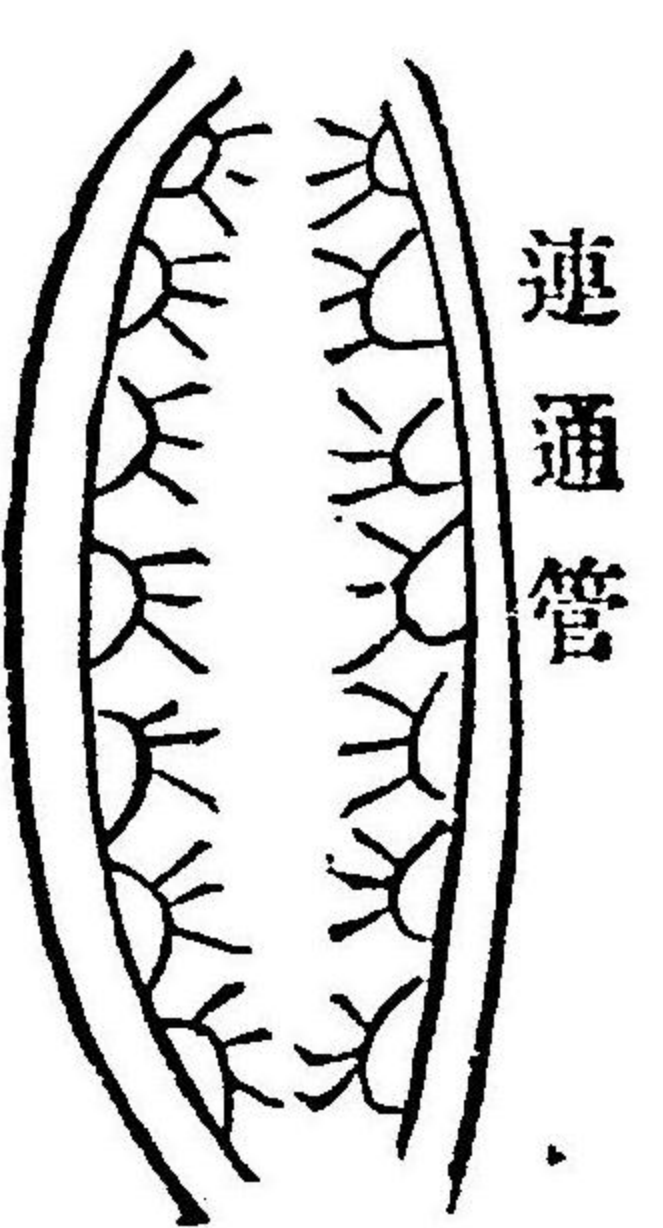
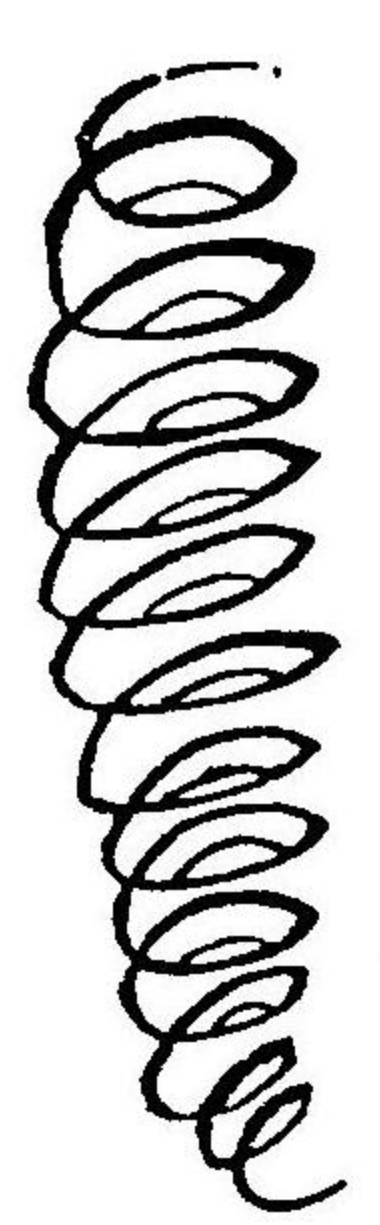


蠶ノ呼吸、蠶ノ呼吸器ハ軀幹ノ兩側ニアリテ氣門、氣臆氣室氣管ヲ以テナレリ氣管中兩氣門ノ間ニアリテ前後ノ氣室ヲ連通スルモノアリ之ヲ連通管ト云フ氣室ヨリ岐出シテ全体ニ蔓延セルモノヲ氣管支ト云フ連通管ハ其直徑〇、三五ミリメートルニ至リ氣管支ノ最大ナルモノハ〇、二ミリメートルニ至ル(一ミリメートル)氣室ノ周圍ハ角質ニシテ其右縁ヨリ一片ノ膜片ヲ生シ左縁又角質ニシテ其中央ヨリ一柄ヲ出シ柄端ニ一筋ノ附着スルモノアリテ之ガ開閉ニ便ス各連通管ニ一節アリ左ノ方凡ソ四分ノ一ノ所ニ位ス

呼吸器管ノ狀体



黄褐色



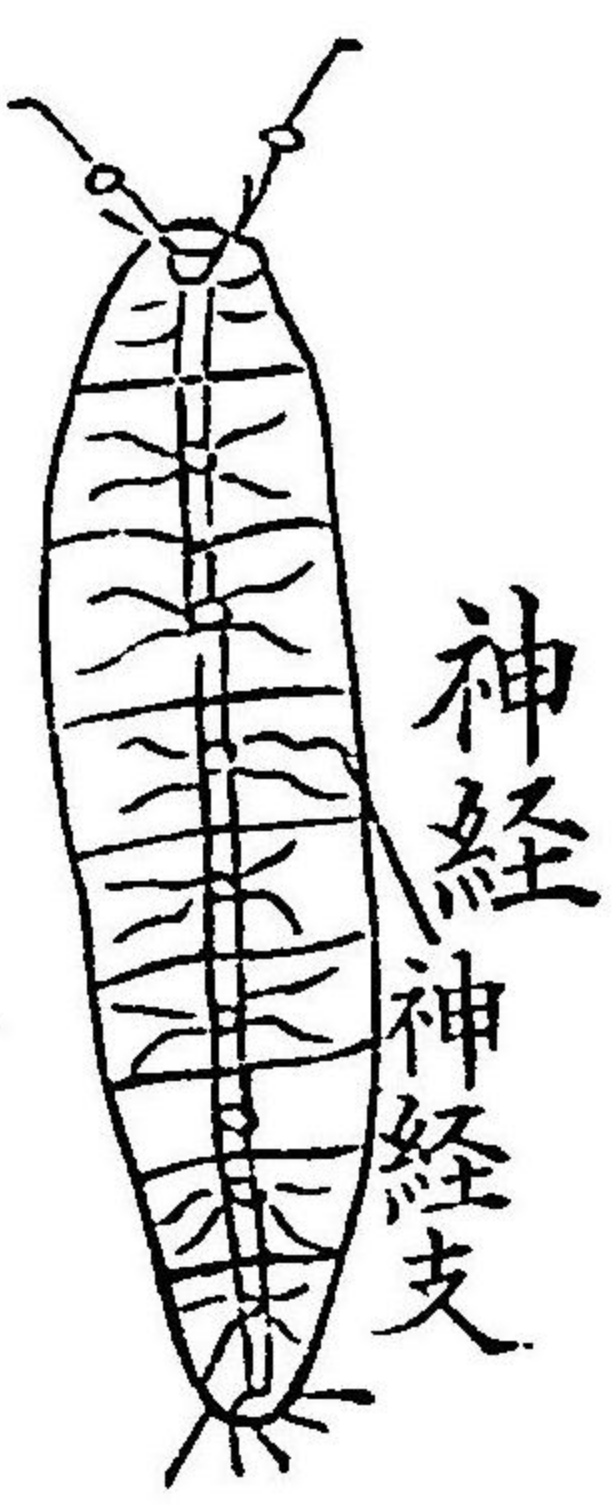
持ス

ハ彈丸狀ニシテ各一顆以上ノ核ヲ有シ以テ蕃殖ス核中ニ仁アリ即チ一ツノ細胞ニ外ナラズ一種固有ノ運動ヲ有シ時々其形ヲ變ズ高度高キニ從ヒ又最盛トナル  
 排泄器、蠶ノ排泄ニ二様アリ一ハ以テ老廢物ヲ体外ニ排泄シ一ツハ以テ營養及衛生生殖ニ必要ノ分質ヲ分泌シ其甲ニ屬スルモノハ即チ尿管乙ニ屬スルモノハ唾腺及系腺トス  
 尿管、尿管ハ体外ニ尿分ヲ排泄スルノ器ニシテ營養管左右ニアル細長軟弱ノ管ナリ其胃層ニ附着スル部分ハ直徑三分ノ二ミリメートルアル六回、胸部ニ四廻腹部ニ三廻屈折ナシ盲腸及直腸ニ附着セル部分ハ二分ノ一ミリメートルアル羊腸狀ノ屈折ヲナセリ口ヲ小腸ノ中央ニ開キ各部稍ヤ其構造ヲ異ニシアル  
 アチン礫酸石灰ノ結晶ヲ有セリ

唾腺、唾腺ハ食道ノ兩側ニアリ其形狀及構造共ニ粗ホ尿管ニ似テ淡黃色ヲ呈シ薄膜ト細胞トヲ以テ成ル腺ノ中央ニ一溝アリ以テ唾液ヲ口腔ニ注グ  
 絲腺、絲腺ハ繭ヲ作ルベキ糸ヲ生ズルノ機ニシテ又薄膜ト細胞トヲ以テ成リ營養管ノ兩側ニ位シ小腸ノ下部ニ始マリテ吐糸口ニ終ル其長サ一尺内外アリ其直徑前部ノ尤モ細キ部分ハ一厘以内アリ之ヲ輸系管ト云フ中部ノ最モ太キ部分ハ一分以内アリ之ヲ貯系兼膠腺トナス後部ノ最長部分ハ三厘余ナリ之ヲ生系部トス  
 輸系管、之ハ咽部ニ至リテ會合シ一管線トナリ吐糸口ト連絡ス其會合部ニ一對ノ腺アリ之ヲ臘腺ト云フ

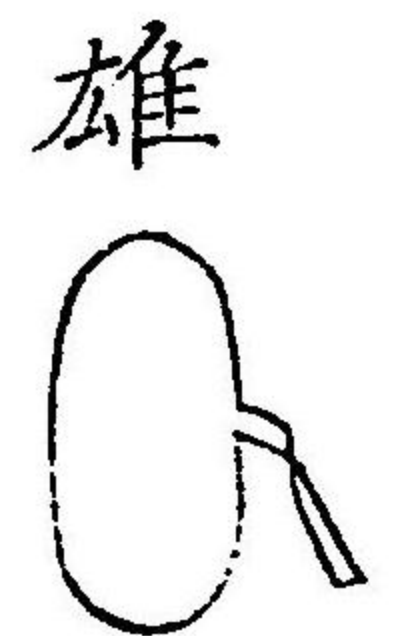
此部ト吐糸口トノ間ニ角質ノ管アリ以テ糸形ヲ調成スルニ便ス

神經、蠶體ノ神經ハ大小十七ヶノ神經節ト之ヲ連繫セル二條ノ神經幹トヲ以テ成リ節ハ概チ二對幹ハ稀ニ一對ノ神經支ヲ出シ其五節ハ頭部ニ第六節ハ咽下ニ第七節以後ハ腹部ノ中央ニ位シ第十七節ハ第十六節ト共ニ第十體節中ニアリテ九條ノ神經支ヲ出セリ  
 神經節ハ多數ノ神經細胞ヨリ成リ神經幹ト神經支トハ無數ノ細系ヲ以テ成リ共ニ外膜ヲ蒙ル此細系ハ即チ神經細胞ノ兩端ヨリ出ツルモノニシテ其微細ナルコト一毛髮大ニシテ一千條アリ

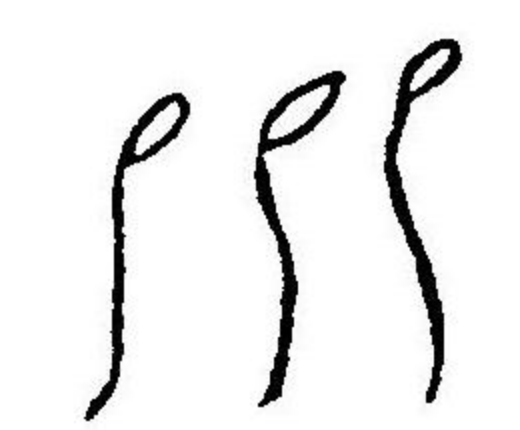
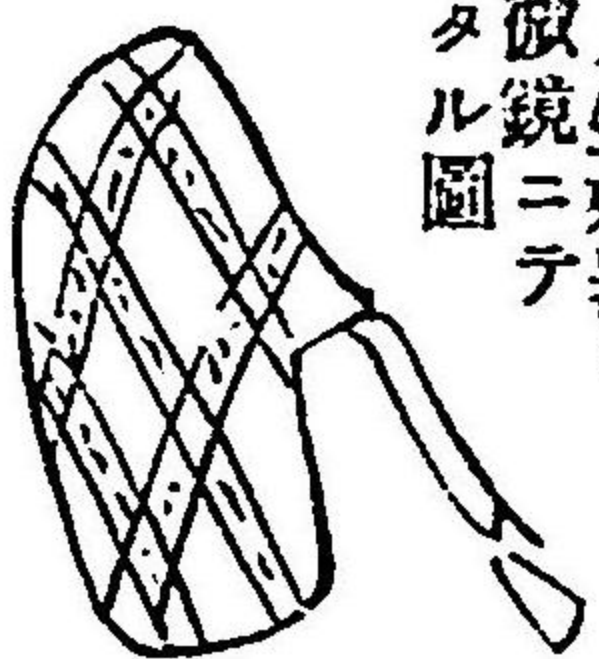


生殖器、蠶ノ生殖器ハ第八體節ノ背部即チ第二イ字形斑點ノ直下ニアリ其形雄ニアリテハ殆ト橢圓形雌ニアリテハ粗ボ三角形ヲナセリ

生殖器



雌ノ生殖器ヲ顯微鏡ニテ見タル圖



細胞精蟲即チ第二イ字形斑點ノ鮮明ナルハ雄否ラザレバ雌ナリ

脂肪組織、之ハ薄膜ト細胞トナリテ成リ細胞中ニ脂肪球ヲ含ミ筋内及内臓ノ間ヲ填充セリ而シテ諸機管固有ノ位置ヲ保タシメ且諸器管ノ軋轢ヲ防グ又休息時間ニアリテハ体内諸器管ノ營養ヲ補給スルモノナリ

筋、筋ニ二種アリ曰ク隨意筋曰ク不隨意筋之レナリ甲ハ皮下ニアリテ蠶体ノ運動ヲ主ドリ乙ハ内臓殊ニ營養管ノ外部ヲ組織セリ凡ソ筋ハ極メテ微細ノ原纖維ヲ以テ成ル各薄膜ヲ蒙ル之ヲ筋衣ト云フ原纖維束相集リテ筋束ヲナシ又薄膜ヲ蒙ル之ヲ内筋衣ト云フ筋束又集リテ一條ノ筋トナリ又薄膜ヲ蒙ル之ヲ外衣筋一名筋鞘トモ云フ

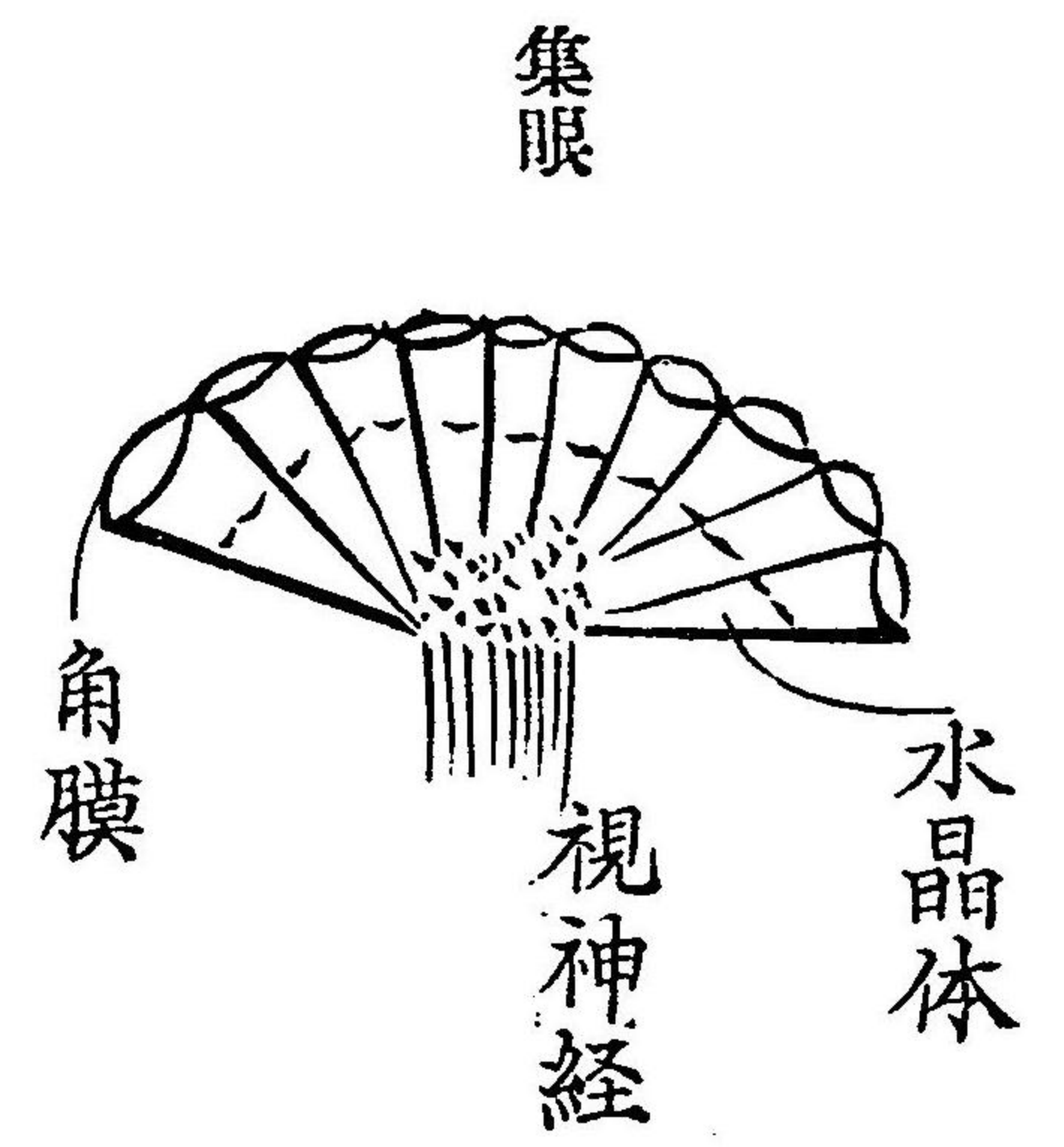
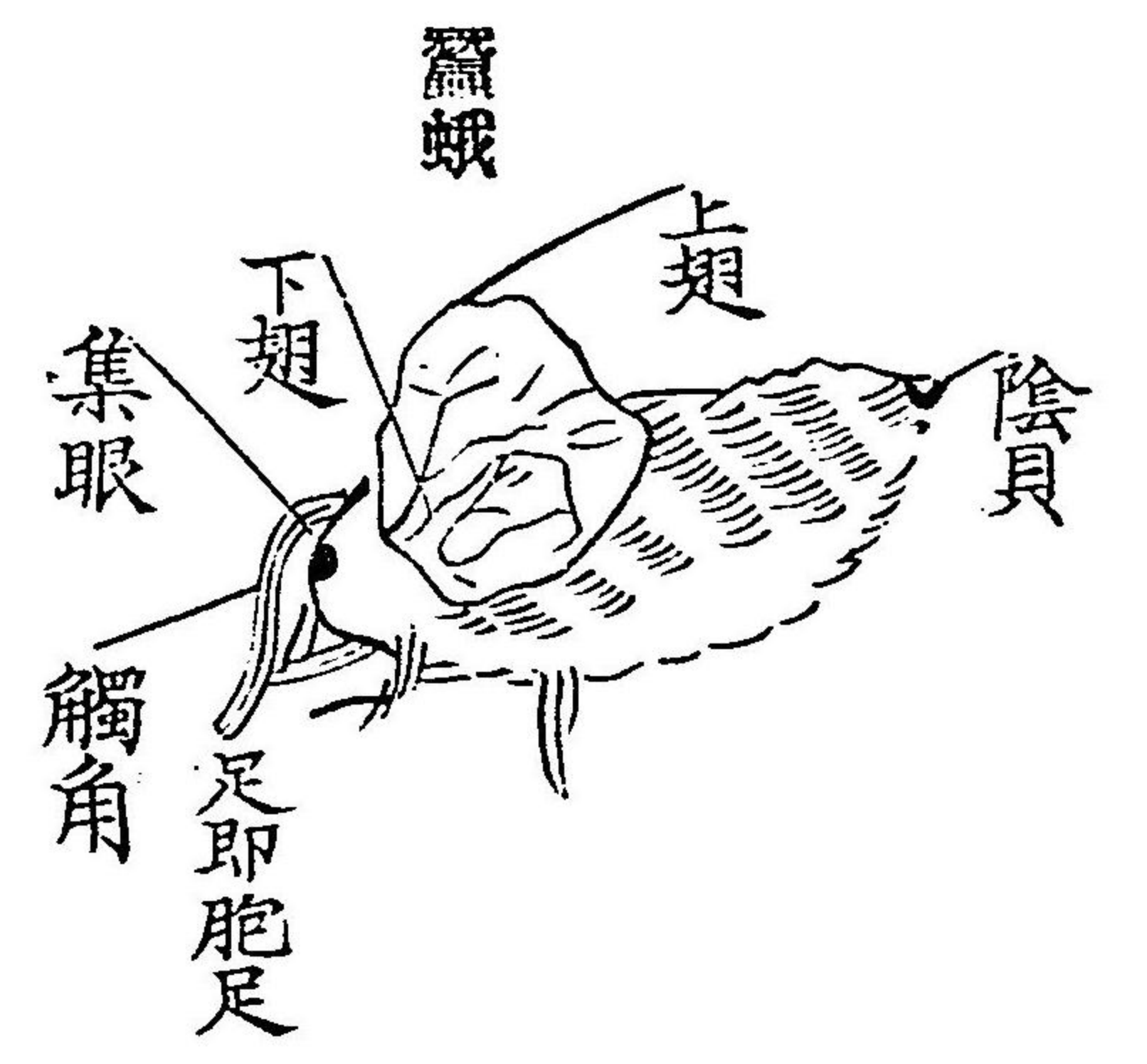
皮、皮下ニ三層ノ筋アリ所謂隨意筋之レナリ上層ノ筋ハ百十束アリテ縦ニ奔リ中層ノ筋ハ百六十八束アリテ内方ニ向テ斜ニ奔リ下層ノ筋ハ二百六十八束アリテ横ニ奔リ以テ体ノ運動ヲ主ドル其總數五百四十六束アリ各束六乃至十條ノ筋束ヲ以テナレリ

皮膚、蠶ノ皮膚ハ三層ヨリナレリ曰ク表皮曰クマルキビー一名粘液細胞層ト云フ真皮之レナリ

蠶ハ一生中六回ノ脱皮ヲナスモノニシテ其第五回ノ脱皮終リ其脱皮後ハ一變シテ蛹トナル此蛹トナリタル當時ハ甚ダ軟弱ニシテ少シク物ニ觸ルレバ皮膚ハ忽チ破ル、モノナリ而シテ脱皮後二日目ハ褐色ニシテ此時ニ當テハ己ニ其大体ノ形狀ヲ備ヘ且ツ皮膚モ稍ヤ強クナルモノナリ蠶体胸部ノ足ヲ眞足ト云ヒ腹部ハ假足ト云ヒタル如ク蛹トナリタル后ハ其胸部ノ眞足ノミニシテ腹部ニハ只跡ヲ殘スノミ蛹ノ脱皮シ

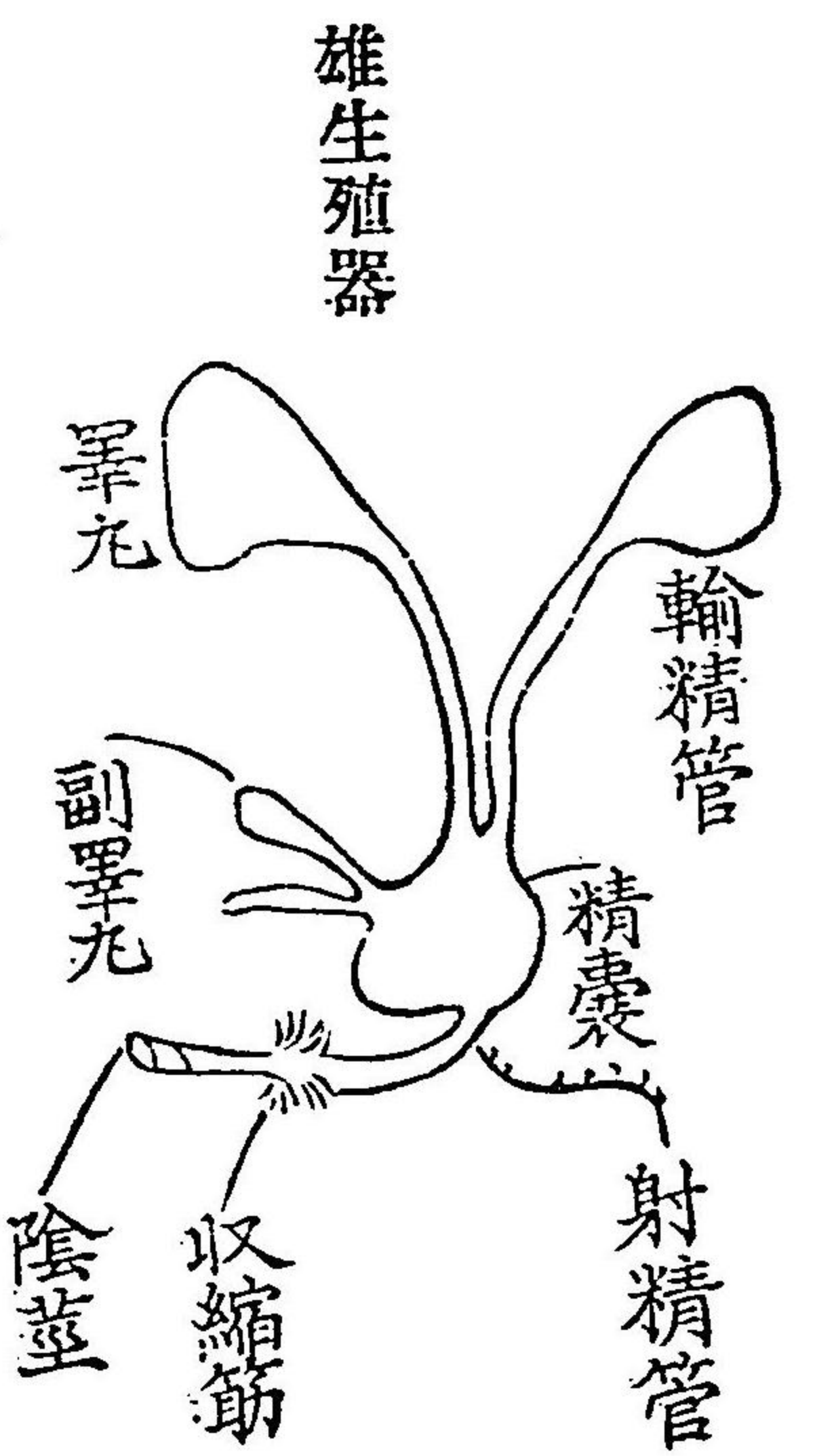
タルモノナリ蛾ト云フ之ヲ六回ノ脱皮トナス蠶ハ凡テ六回ノ脱皮ヲナスモノニシテ而シテ蠶蛾ト云フ文字ハ即チ蠶蛹ノ羽化シタルモノ、謂ニシテ其形狀性質皆他虫ノ羽化蛾ニ相似タルモノナルガ故單ニ之ヲ蠶蛾ト云フ吾國ノ方言ニテハ單ニ蛾ト云ヒ蝶ト稱スルアリ然レハ其蝶ト稱スルハ其名稱不當ニシテ大ニ過マレルモノナリ何トナレバ蝶ト云ヒ蛾ト云フモ其大体ノ形狀ニ至レバ粗ボ相似テ其類屬六脚蟲トイヘルモノ、内ノ鱗翅類ニ屬ス蛾蝶共ニ之ヲ鱗翅類ト云フ而シテ此蛾蝶ノ鱗翅類ニ屬スル以所ノモノハ其羽上ニ鱗ヲ生ズルヲ以テナリ其羽上ニ生スル鱗ノ如キモノハ多クハ軍柄ノ如キ有様ニシテ此鱗ハ最初細胞ノ發育スルモノニシテ蛹ノ時表被ノ下層ニアルモノ羽化ノ際鱗毛ニ變ズルナリ其肉眼上ノ觀察ニ於テ恰モ細粉ノ如キモノアリ一名之ヲ粉身トモ云フ而シテ蛾蝶ヲ何ニ依リテ區別スルカト云ハバ蝶ハ物ニ止マルノキ羽ヲ疊ムニ羽表ト羽裁トナ合セテ背上置クノミナラズ蝶ナルモノ日中ニノミ飛行スルコト多シ漢字ヲ以テ之ヲ區別スレバ單ニ蛾ト云ヒ蝶ト稱スレハ世界中其數殆ド二萬アリト云フ斯ノ如キ多數ノモノニ向テ只蛾蝶ノ二字アルノミ又之ヲ分別スレバ蛾ノ數ハ多ク蝶ノ數少シト云フ故ニ多數ノ蛾ヲ合セザラシムル爲メ之ヲ蠶蛾ト云フ唯ハ觸角小サク羽ハ細ク腹部ハ肥大ナリ雄ハ之ニ反シテ觸角翼共ニ大ナリ觸角ト稱スルモノハ蠶ノキ索手ト稱スルモノト同様ニシテ第一ニ觸感ヲ主ドリ第二ニ聽感ヲ主ドリ第三ニ臭感ヲ主ドル而シテ集眼ハ許多ノ單眼ノ集マリタルモノナリ

蠶蛾ノ内臓ニアリテハ蠶ノキト異ルト雖モ其數ニ至ツテハ粗ボ同シク其發育ニ至レバ彼我相異レリ即蛾



ニアリテハ其卵巢及ヒ生殖器常ニ發育セリ思フニ蛾ニアリテハ卵巢及生殖器ノ大ニ發育スル以所ノモノハ其要專テ蠶卵ヲ生成シ子孫ヲ蕃殖スルニ務ムルアリト雖モ蠶ノ時ハ營養管及交腺ノ發育大ナルト同シク蛹蛾トナリテ子孫蕃殖并ビニ營養管中斷食ノキ備フル爲メ營養管ヲ以テ脂肪ヲ貯ヘ蠶蛾ニ至レバ卵巢ノ形狀發育圖(集眼)ノ如シ而シテ卵巢ハ其數凡テ八本ニシテ其内ニ含有スル卵ハ五百以上六百五十ノ間ニシテ其間ニ位スルモノハ六百個アリ又受精囊ハ精蟲ヲ貯フル囊ニシテ始メハ陰門夫ヨリ腔又受精囊ニ入り後再ビ受精囊ヲ出デ、輸卵管ニ附着セル部分ヨリ卵内ニ浸入シテ膠質ヲ蒙リテ蠶卵門ニ出ツルモノナリ此精蟲多ク入ルモノハ強壯ニシテ少キハ弱ク又タ更ニ入ラザルモノハ白巢トナルモノナリ

雄蛾ノ生殖器モ大ニ發育シテ吾人ノ睪丸ニ比スベキモノアリ蠶蛾ノ交尾中最モ必要ナル精蟲ハ睪丸ノ内ニ始マリ且副睪丸ノ内ヨリ一種ノ液ヲ分泌シテ互ニ相中和シ彼交尾ニ際シ蛾莖ニ入りテ陰莖ヨリ受精囊ニ入ルモノナリ其精蟲ハ己ニ雌蛾ノ体中ニ入りテ久シキ間生命ヲ保ツモノナリ蛾



ハ死シテ尙精蟲ハ活動スルコトアリ而シテ蠶蛾ノ有スル生殖器ハ吾人生殖器ト相似タルノ作用ヲナスモノニシテ吾人ノ睪丸ハ外部ニ顯ハル、ト雖モ蠶蛾ノ生殖器ハ内方ニアリテ而シテ睪丸ノ外ニ顯ハルモノハ凡テ哺乳動物ナリト云フ鳥類ニアリテハ内方ニアリテ如キハ腹部ヨリ切開シ見レバ背骨ニ心臟ノ如キモノアリ之レ睪丸ナリト云フ動物ハ生殖器ノ如何ニ依リテ其等級ヲ區別スルコトヲ得或ハ兩性生殖又ハ單性生殖ヲ有ス例ヘバサンゴ蟲ノ蕃殖スルガ如キ單性生殖ナリト雖モ蝸牛ノ蕃殖ハ謂ユル兩性生殖ニヨルモノナリ雌雄ノ生殖器ヲ一体中ニ備ヘ一種特異ノ性質アリテ一体ノ兩性ヲ以テ交尾スルコト能ワズ他ノ蝸牛ト交尾セザレバ蕃殖スセズ彼ノ條蟲ノ如キ一節ノ中ニ雌雄生殖器ヲ備ヘテ蕃殖スルモノナリト云フ

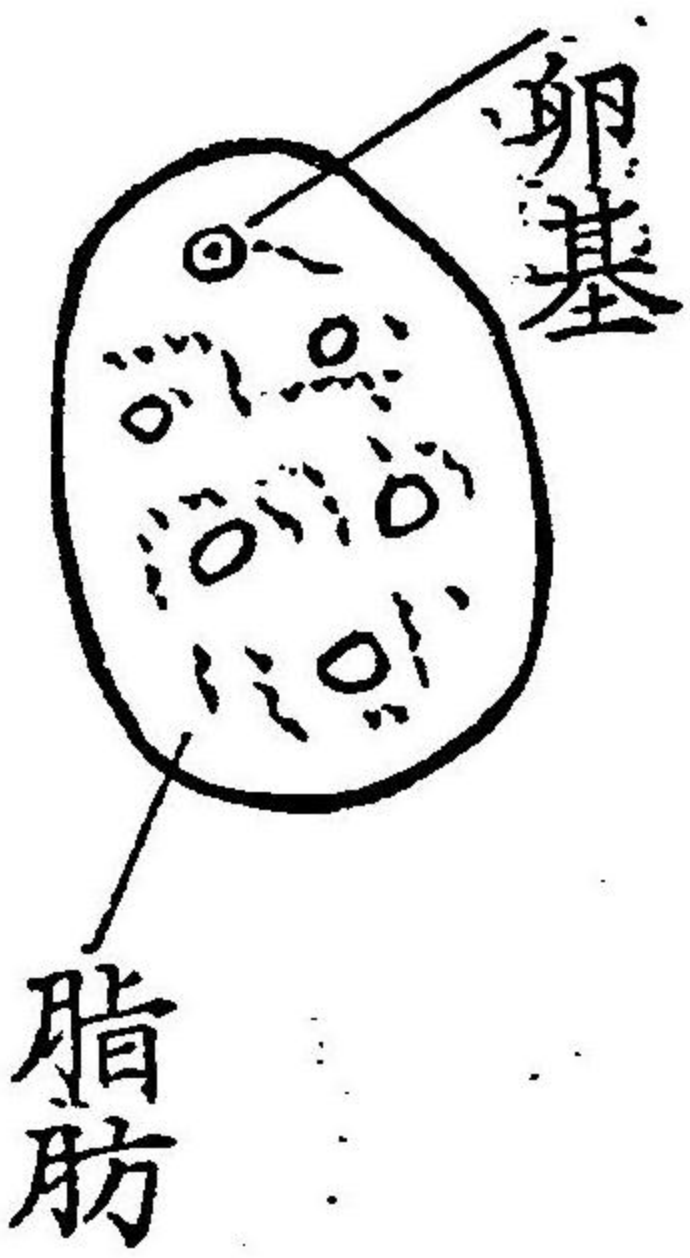
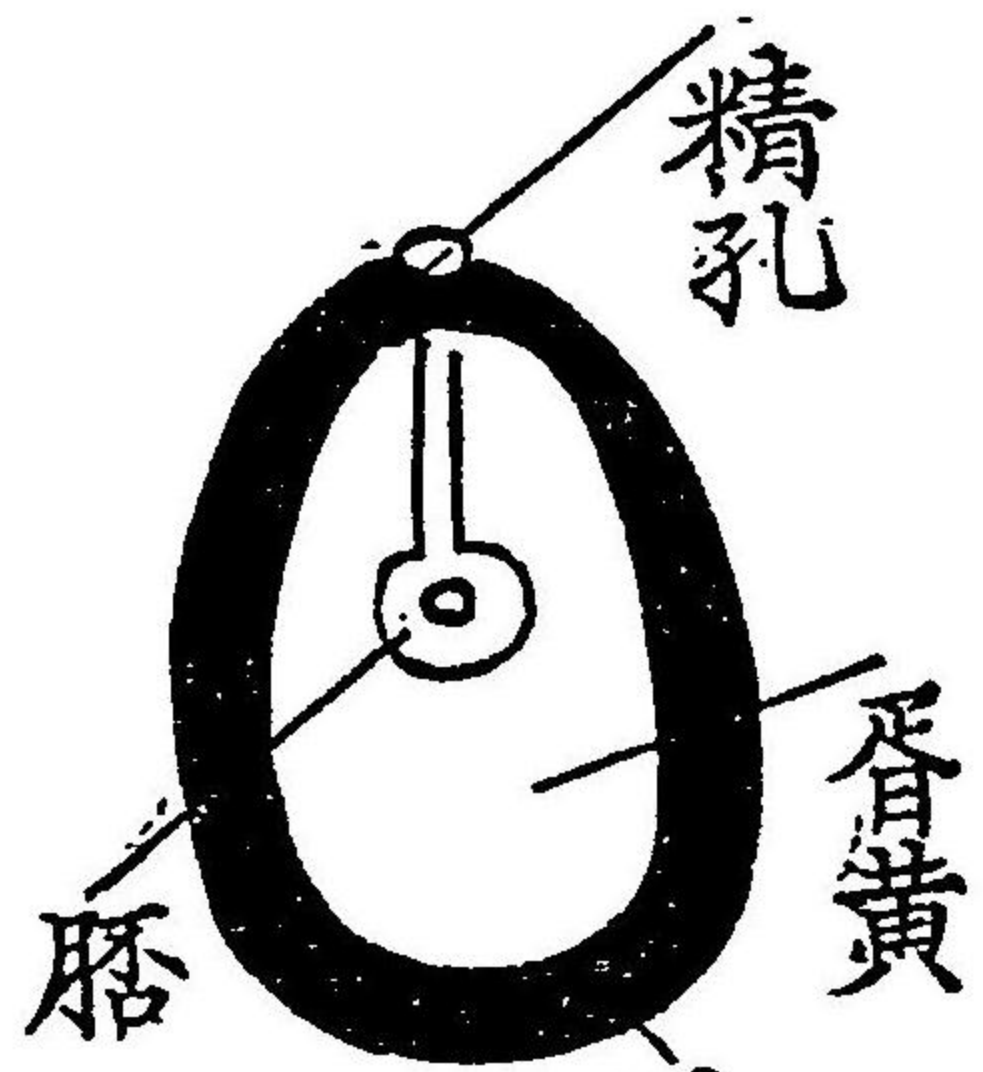
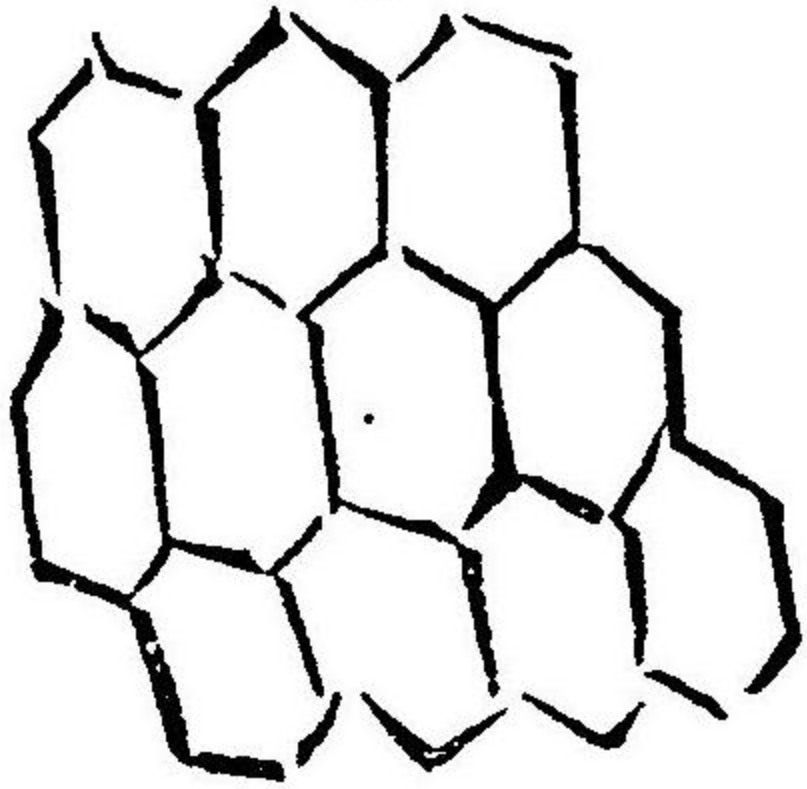
雄生殖器

蠶卵ノ外皮ヲ卵殼ト云フ卵殼ハ其質石灰ヨリ成リ扁平多角ノ細胞ヲ以テ構成シ而シテ無色透明ナリ然レ其其蠶卵ノ其色澤ヲ呈スルハ内皮即チ亞皮ノ色素ヲ呈スルモノニシテ之ハ蠶卵内容物ノ色素ト光線ノ作用ニ依テ生ズルモノナリ而シテ卵殼ニ濃淡アルハ即チ其色素ノ異ナルニ依ルモノニシテ色素多クレバ其色濃ク色素少ナケレバ其色薄シ彼黃繭ヲ作ルモノハ其卵殼多少黃色ヲ帶ビ其一種類ノ蠶ニシテ色澤ノ濃淡ヲ異ニスルハ多クハ其交尾時間ノ多少ニ關係セリ即チ交尾時間長ケレバ其色濃ク短ケレバ其色薄シ精

孔即チミクロピール卵ノ中心ニアルモノハ半流動体ニシテ之ヲ卵心ト名ツク若シ此卵心ヲ見ント欲セバ苛性加里ノ濃液ニ浸シ置キテ後チ之ヲ見ルキハ卵殼ノ溶解スルヲ以テ其形狀ヲ見ルコトヲ得彈丸狀卵粒ノ間ニ又玉ヲ入ル此大ナルモノハ蛋白質ニシテ之ヲ名ヅケテ卵基ト云フ其小ナルモノハ脂肪ナリ脂肪ハ即チ蠶ノ孵化スル際營養ニ取ルモノナリ斯クノ如ク一ケノ卵中ニ化シテ以テ蟲体ヲナスモノト蟲体ヲ養フモノトヲ備フルハ之レ即チ造化ノ妙用ナリ其蛋黃ノアル一部分ニ於テ一ケノ斑紋ヲ認ム之ヲ生計ノ卵基ト云フ又括點ト云フ他ノ部分ハ孵化ノ際營養分トナル故ニ營養卵基ト名ヅク而シテ蛋白質中ニハ多量ノ脂肪ヲ有スルモノナリ以上述ヘタル如ク其卵心中ノ一部化シテ動物トナリ一部分營養トナル故ニ一部分裂卵ト云フ其成形卵基蟲体ヲ形成スルキハ先ツ細胞分殖スルガ故ナリ

蠶卵ノ外部ヲ掩フモノ之ヲ卵殼ト云フ卵殼ハ石灰質ニ富ミ至テ微密ナルガ故外部ヨリ來ル所ノ諸害ヲ防セギテ卵心ニ害ヲ與ヘザルナリ浸水ノ如キハ古ヘヨリ行ハル、フニシテ其法ニ至ツテハ或ハ長クスルアリ或ハ短クスルアリ又純粹ノ水ニ非ズシテ諸種ノ藥劑等ヲ以テスルモ其害ヲ蒙ラザルハ此理ニ依テナリ又昔ヨリ惡臭ヲ忌ムト云フモノアリ今試ニ蠶卵ヲ瓶中ニ入レ又之ニ樟腦ヲ入レ外ニ一瓶ニ釘ヲ入レ以テ數月ノ後夫ヨリ取り出シテ養フニ尋常ノ蠶ト同様ナラン然ラバ假令ヒ劇臭ヲ與フルモ亦鐵ノ臭ヒヲ與フルモ蠶卵ノ發生ヲ妨グルコトナキヲ發明セリ

卵殼ノ細胞



蠶卵呼吸力	日
一	一三、八
二	二六、〇
三	一九、〇
四	八、九
五	七、〇
六	四、七
七	三、二
八	二、三
九	一、〇
一〇	一、〇
一一	一、〇
一二	一、〇
一三	一、〇
一四	一、〇
一五	一、〇
一六	一、〇
一七	一、〇
一八	一、〇
一九	一、〇
二〇	一、〇
二一	一、〇
二二	一、〇
二三	一、〇
二四	一、〇
二五	一、〇
二六	一、〇
二七	一、〇
二八	一、〇
二九	一、〇
三〇	一、〇
三一	一、〇
三二	一、〇
三三	一、〇
三四	一、〇
三五	一、〇
三六	一、〇
三七	一、〇
三八	一、〇
三九	一、〇
四〇	一、〇
四一	一、〇
四二	一、〇
四三	一、〇
四四	一、〇
四五	一、〇
四六	一、〇
四七	一、〇
四八	一、〇
四九	一、〇
五〇	一、〇
五一	一、〇
五二	一、〇
五三	一、〇
五四	一、〇
五五	一、〇
五六	一、〇
五七	一、〇
五八	一、〇
五九	一、〇
六〇	一、〇
六一	一、〇
六二	一、〇
六三	一、〇
六四	一、〇
六五	一、〇
六六	一、〇
六七	一、〇
六八	一、〇
六九	一、〇
七〇	一、〇
七一	一、〇
七二	一、〇
七三	一、〇
七四	一、〇
七五	一、〇
七六	一、〇
七七	一、〇
七八	一、〇
七九	一、〇
八〇	一、〇
八一	一、〇
八二	一、〇
八三	一、〇
八四	一、〇
八五	一、〇
八六	一、〇
八七	一、〇
八八	一、〇
八九	一、〇
九〇	一、〇
九一	一、〇
九二	一、〇
九三	一、〇
九四	一、〇
九五	一、〇
九六	一、〇
九七	一、〇
九八	一、〇
九九	一、〇
一〇〇	一、〇

蠶卵ハ上記ノ如ク幾分ノ呼吸ヲナス故ニ水ニ浸ス時ハ又幾分ノ害アレ其最モ極メテ呼吸力ノ僅少ナルキニ於テ之ヲ行ヘバ敢テ害ナキモノナリ斯ノ如ク寒氣ニハ發生力ヲ保ツコト僅カ十二時間ニシテ之ヲ失フ春蠶ハ其孵化一年中必ズ一回ナレバ若シ變色後四十日間氷窟中ニ入レ置キ漸次暖所ニ移セバ同一年中再度之ヲ發生セシムルコト得ベシ

蠶ハ孵化ニ一定ノ法アリ其夏秋冬ノ三期ヲ經ザレバ發生セズ然レバ此三期ノ候ニ遇ヘバ其期ノ長短ニ拘ラズ發生スルモノナリ之レヲ稱シテ人造越冬法ト云フ又一法アリ産卵后十二時以内ニ於テ靴刷毛ニテ非常ニ力ヲ込メ五分ヨリ六分間程卵面ヲ摩擦スルキハ三週以内ニ發生スルモノナリ又一法アリ産卵後十二時間以内ニ冷水ニ七分ヨリ八分間入レ置ケバ二十日以内ニ之レ又發生ス

二化蠶ハ春蠶再出ヨリ變シ來レルモノニシテ三化蠶ハ二化再出四化蠶ハ三化再出ヨリ順次生ズルモノナリ然レモ其蠶ノ本性ヲ尋ヌレバ一年中一回ノ孵化ヲ以テ其本性トス而シテ物ニハ前進後進變化ノモノアルナリ彼ノ夏秋蠶ノ如キ春蠶ノ再出ヨリ來ルモノト雖漸次永久ノ間飼育スルキハ遂ニハ固有ノ性質トナルモノナリ彼ノ姬蠶ノ如キハ前進變化ニシテ姬蠶ノ内ニ又斑紋ヲ顯ハスモノアリ之ヲ後進變化ト云フ蠶卵ヲ貯フルニハ常ニ新鮮ナル空氣ヲ與ヘ温度ニ大ナル變化ナカラシムベシ今屋外ニ生活スル所ノ蟲類其卵ヲ貯フルヲ見ルニ其越年スルモノハ用意周到ニシテ光線ノ直射ヲ防セギ又寒暖ノ劇變ヲ防グモノナレバ蠶卵ノ如キモ常ニ新鮮ノ空氣ヲ與ヘ其貯藏ニ注意スベシ蠶卵孵化ノ際ハ漸次温度ヲ高ムルト同時ニ適當ノ濕氣ヲ與フベシ春蠶ノ卵基ハ四週乃至六週日ヲ以テ成熟ス温度高ケレバ十四日乃至十六日トス夏秋蠶ノ卵ハ九日乃至十日ニ過ギズ蠶ノ發生前卵色ノ變ズルハ其亞皮蠶ノ皮トナリテ卵殼ヲ離ル、ニ依ルナリ發生近キニ至レバ精孔ノ傍ヲニ黑色ノ一點ヲ認ム之ヲ蟻蠶ノ頭部トナス蠶蠶ノ出ヅルヤ先ヅ其口ヨリアルカリ性ノ液ヲ吐キテ其部ヲ浸シ次イデ其部ヲ食破ス之レ其此位中ニ殼片ヲ見ハスノ證ナリ蠶ハ又桑ヲ變シテ糸トナスノ一機械ニ過ギズ只其構造及機能ノ人造器械ニ比シテ一層精巧ナルノミ人造機械ニ單複ノ別アリ天造機械即チ生物ニ於テモ亦然リ例ヘバ座操器械ノ製糸器械ニ於ケル糸車ノ紡績器械ニ於ケルガ如ク又微粒子ノ草木ニ於ケルガ如シ蠶ハ一動物ニシテ其働ニ至ツテハ一ツノ器械ニシテ桑ヲ變ワテ糸トナスノ天造機械ノ精巧ナルヲ人造器械ニ於ケルガ如クナラズ例ヘバ人造器械ノ眼ヲ驚ス程ノモ

ノト雖モ其形其物ノ働キヲ變ズルノミ其質ヲ變ズルヲ能ワザルナリ然ルニ蠶ハ桑葉ヲ變ワテ糸トナシ桑葉ノ形成ノミナラズ其質ヲ合セテ變化スルモノナリ蠶ハ蠢示タル一小蟲ニ過ギザレモ其内臟ノ具備ニ至ツテハ即チ人ヲ去ルヲ遠カラズ蠶ノ桑葉ヲ食シテ糸ヲ吐クハ尙紡績機械ニ燃料ヲ投シテ原料ヲ給スレバ各機一整ニ運轉シテ糸ヲ製出スル桑葉ニ可燃質(有機質)アリ無機質アリ薪炭又然リ薪炭ハ大氣中ノ酸素ヲ取り可燃質ハ燃化ニ依テ炭酸瓦斯ヲ生ズルト同時ニ温ヲ發ス蒸氣機械ノ運轉ハ即チ此力ニ依ルナリ蠶ノ桑葉ヲ食シ其内ニ合メル可燃質燃化スルノ際生ズル所ノ温ニ於テ活動ス蒸氣機ニ薪炭ヲ供スルニ不燃質ヲ去リ新鮮ノ空氣ヲ通セザレバ運轉立ドコロニ止ム蠶ニ桑葉ヲ與フルモ亦然リ新鮮ノ空氣ヲ與ヘズ老廢物ヲ廢除スル機能ヲ與ヘザレバ即チ立トコロニ死ス蠶ノ要スル養分ニ二種アリ一ハ有機質一ハ無機質ト云フ有機質ニ又二種アリ無窒素物一名呼吸質又發溫質(糖分、ゴム、澱粉、脂肪)曰窒素物一名成形質(蛋白)之ナリ有機質ハ專ラ營養ヲ主ドリ無機質ハ之ヲ助ク無窒素物ハ之ヲ呼吸質ト云フ燃化ノ作用ヲ主ドルガ故ナリ又發溫体ト云フモ燃化作用ニ依テ温ヲ發スルガ故ナリ蠶ノ要スル無機質中最必要ナルモノハ磷酸、加里、及苦土トス桑葉ハ殊ニ之ヲ含ムヲ多シ凡テ動物已レノ營養管ニ適スル食物ヲ採テ生活スルハ自然ノ理ニシテ蠶ノ蠶葉ヲ取ツテ營養分トスルハ其天然ノ理ニ基クモノニシテ桑葉成分ハ蠶ノ成分ニ比スル時ハ磷酸、加里、苦土ノ如キハ最モ必要ニシテ又桑ニハ此成分多シ之レ桑葉ノ外他ニ營養ニ適スルモノアルヲ知ラザルナリ桑葉イヨク軟カナレバ養分イヨク多シ高燥ニシテ大氣流通能ク地質鬆棘

ニシテ排水ノ宜シキ地ノ桑ハ特ニ良トス又培養桑ハ野生桑ニ憂レリ蠶体中葉桑ノ消化ヲ主ドルモノハ營養管ニシテ其滋養分ヲ体中ノ各組織ニ分與スルモノハ血液トス血液ハ單ニ此媒介ヲナスノミナラズ又其組織中老廢物ヲ攝取シテ之ヲ体外ニ導キ組織管ノ新陳代謝ヲ主ドリ兼テ体温ノ平均ヲ主ドル血液ノ媒介ニ依テ酸素ヲ吸收シ炭酸ヲ呼出スルヲ以テ組織ニ化學的變化即チ燃化作用ヲ起シ体温ヲ生ゼシムルモノハ何ゾヤ呼吸器即チ之レナリ尙ホ此外一ケノ温源アリ機械的運動即チ之ナリ大氣百分中動物ノ生活ニ必要ナル酸素ノ量ハ二〇、八ニシテ其餘ノ七九、二ハ皆窒素トス此外大氣中ニ合メルモノ尙ホ又二ツアリ曰炭酸瓦斯曰水蒸氣是ナリ甲ハ其量大氣萬分ノ四乃至六ニシテ乙ノ量ハ一定セズ蠶ノ十分成長セルモノハ一キログラム(吾二百六十六分六厘)蠶三百六十頭ニ付テ一時間毎ニ一、二二六グラム(吾三分二厘六毛)ノ炭酸瓦斯ヲ吐キ出ス之ヲ今七十七度半ノ温度ヲ以テ其容積ヲ計ルニ三尺三寸七分八厘七毛ノ炭酸瓦斯ヲ(蠶四萬頭ニ付テ)一時間内ニ生ズ依テ二間ニ二間半高一丈ノ蠶室中其容積一千八百尺今之ヲ三尺三寸七分八厘ノ立方ニ直シテ以テ除スレハ四十一分弱ニ當ル然ル時ハ四十六時間經過スル間密閉スル時ハ其蠶室ハ炭酸瓦斯ヲ以テ充滿スルモノナリ空氣ノ新陳代謝其宜シキヲ得ザルハ啻ニ炭酸瓦斯ノ増加スルノミナラズ水蒸氣アンモニヤ等ノ惡氣ヲ生シテ著シキ臭氣ヲ發ス炭酸瓦斯ノ量窒素萬分ノ七以上千分ノ一二至レハ即大害アリ蠶ノ絶食時間ノ營養ハ之ヲ脂肪ニ取ル蠶ノ呼吸作用ハ食スル所ノ營養分ヲ得テ始メテ生ズルモノナリ絶食時間此ノ如ク多クシテ能ク燃化作用ヲナスモノハ其体中ノ脂肪ヲ取リテ補

フコト恰モ吾人ノ備荒倉ノ如シ彼蠶ノ眼前ニ於テ目方ヲ計リ其眠起後ニ又之ヲ計ルニ眠前ヨリ大ニ之ヲ減ス之レ其脂肪ノ消費セラル、ガ故ナリ体温ハ變ツテ活力トナリ神經ノ指揮ニ從ツテ發動ス体温、活力、運動、ノ三ハ其期スル所一ツナリ神經ノ末端ト中樞トハ恰モ電信局ノ如シ其間ニアル線維ハ電信線ノ如シ而シテ之ヲ遠心性及來心性ト云フ

蠶 体 病 理

病理トハ病機ノ原由及定理ヲ論究シテ治療豫防其宜シキヲ得ルノ基礎ヲ與フルノ學科ナリ其生理ハ敢テ異ナルモノニアラズト雖只生理ハ健康体ノ現象ヲ論ズル學科ニシテ病理ハ不健康体ノ状態ニ付キテ論ズルノ學科ナリ而シテ病理ノ主眼トスル所ハ病機ノ原因定理ヲ論究シテ其豫防治療ヲ講究ス蠶体健康疾病異常虛弱ノ別アリ健康トハ体中ノ諸機械及其組織ニ毫モ變化ナク其營養發育機能悉皆平常ニ異ラザルモノナ云フ疾病トハ健康ノ反對ニシテ局部或ハ全身ノ組織常規ヲ失ヒ機能ニ障害ヲ來セルモノナ云フ以上ノ先天ニカ、ルチ畸形トナシ後天スルモノチ廢疾ト云フ異常トハ常ニ異リタルモノナ云フ之ニ先天ト後天トノ別アリ先天トハ父母ヨリ遺傳スルモノニシテ後天ハ發後ニカ、ルモノナリ先天チ畸形トス此畸形ト云フハ諸器械ノ缺乏ヨリ或ハ又体中ニ不具ナル所アリ例ハ蠶体中ニアル糸線ノ發育ニ其一法ハ甚ダ細ク一方ハ甚ダ太キモノナリ之レ皆先天ニカ、ルモノニシテ後天トハ其取扱ニ依テ或ハ其局部ヲ損傷シテ以テ不具トナシ疾病ニ陥ラシムル如キ之ナリ虛弱トハ先天後天ノ別ナク輕易ノ害ニ依テ忽チ疾病ヲ發

スルノ性ヲ云フ而シテ先天後天ノ別アリ例ヘハ父母其害ニ罹リ繭ヲ成シ蛹トナリ蛾トナリ卵ヲ産出シテ此性ヲ遺傳スルモノアリ又掃立ヨリ飼育中種々ノ害トナルヘキヲナシテ虚弱質ニ陥ラシムルコトアリ此虚弱性トハ体中ノ諸器械充實完全セサルガ故外來ノ輕害ニ逢フキハ之ニ抵抗スルコト能ワザルナリ病原ニ素原ト誘原ノ別アリ其甲ハ即チ遠原ニシテ乙ハ近原ナリ蠶ノ病ヲ發スルニ其原因アリ此原因ヲ名ヅケテ病原ト云フ病原ニ二種アリ素因誘因トナス其素因トハ或ハ之ヲ後天スルカ或ハ之ヲ先天スルカ彼微粒子ノ父母ヨリ遺傳シ又ハ虚弱性及ヒ蠶室ノ構造地質地形等之ガ素因ニシテ例ヘハ家ニ依テ年々養蠶ニ失敗スルモノアリ是等ハ蠶室及地形地質等之レガ失敗ノ素因ニシテ其濕氣多キコト知ルヘキナリ又ハ蠶室ノ三方ニ深林池沼アルカ又其家屋ノ構造南方ヲ塞ギ空氣ノ流通ヲ悪クスルガ如キ是レ素因ナリ誘因トハ或ハ氣候ノ劇變乾濕ノ度合或ハ其扱方ノ如キモノ之レガ誘因ナリ故ニ蠶病ヲ除カント欲セハ之レガ素因及誘因トナルベキ原因ヲ調査シテ之ヲ除去スルヲ最緊要トスル所ナリ

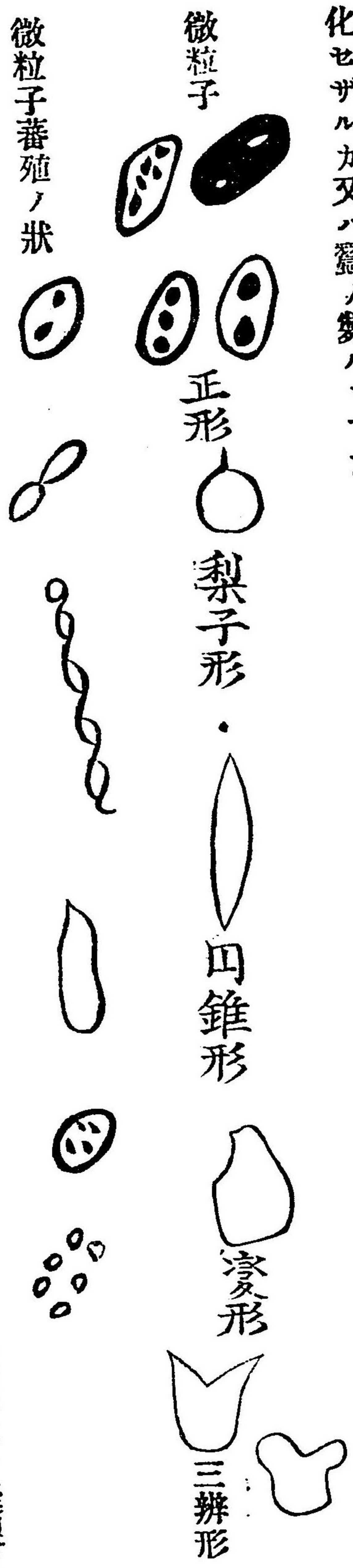
蠶、單食動物ノ小蟲ナレバ發病ノ後ハ治療スルコト甚ダ難シ故ニ未ダ發病前ニ於テ之レガ豫防ヲナスコト最得策ナリ養蠶家ハ恰モ舟ニ乗シテ大海ヲ渡ルト一般ナリ其船舶如何ニ堅牢ナルモ船長及其他ノ水夫ガ熟練ナラザレバ決シテ航海スルコト能ワズ又船長及船員ハ如何ニ熟練ナリト雖船舶堅牢ナラザレバ又航海スルコト能ハズ養蠶モ亦然リ如何ニ善良ナル蠶種ヲ撰ベバトテ其飼育法ニ熟練ナラザレバ決シテ良結果ヲ得ルコト能ハズ蠶病中最モ恐ルベキモノハ微粒子病毒トス此病ハ曾テ伊太利、佛蘭西等ニテ病勢ヲ逞シウセ

リ佛國ニテハ此病ヲペプリン伊國ニテハペブリナト云ヒ獨國ニテハフレツケンクラクハイト各名稱ヲ異ニスト雖之レ其國語ヲ異ニスルニ依テナリ然レモ其意同一ナリ之ヲ本邦國語ニテハ黑痣病ト云フ而シテ微粒子病ハ歐洲諸國ニアリテハ概チ其皮膚ニ黑キ痣ノ生ズルガ故ニ各國トモニ此名アリ其黑痣ノ生シ初メハ極テ小サク漸次大トナリ遂ニ痣ト痣ト相接シテ漆ヲ以テ塗抹シタルガ如クナルナリケルベルヘンクランカイト此名ハ獨逸語ニテニツノ文字ヲ合セテ病名トセリケルベルヘン譯シテ小体クランカイト譯シテ病ト云フ故ニ之ヲ小体病ト云フ吾國ニテハ微粒子病ト名命セリ此微粒子ノ蠶ヲ害スルノ有様ハ甚恐ルベキモノニシテ蠶卵ニシテ若其病ヲ遺傳セハ其數ニ依テ或ハ孵化セザルモノアリ或ハ漸クニシテ蠶体ヲ成スモ卵殼ヲ出テズ若シ出ツルモ其後ニ斃死スルモノアリ又ハ孵化シテ一眠ニ至ラザルニ斃レ二三四眠漸ク其齡ヲ重ヌルニ從ヒ斃死ス又ハ遲レ蠶細蠶等トナリテ遂ニ結繭セザルモノナリ又孵化スルノ力ヲ失フ蠶卵一粒ニシテ微粒子ハ六百粒ヲ含有スルモノナリ故ニ病毒歩合ノ多キ程收穫少ク從來此病ヲ恐レザルモノアリシハ其病毒ノ多キモノハ一二齡ノ間ニ於テ斃死スルニ依リ多ク眠ニ觸レズ只蠶兒ノ増殖セザルヲ覺ヘザルノミ其後ニ殘リタルモノハ漸ク日數ヲ多ク費シテ繭ヲ營ムモノニシテ悉無トナルコトナシ最傳染シテ病毒益々蔓延スレバ遂ニ結繭スルモノ甚ダ少ナク一枚ノ掃立ニテ四五升ノ收穫ニ過ギザルモノアリ而シテ微粒子病毒ナルモノハノセマボンビチス或ハミクロコックスボンビチストモ云フ是ハクテリヤニ屬スルヲ以テナリ



微粒子病、微粒子ハ其形橢圓若クハ卵形圓ニシテ其横断面ハ眞圓形ヲナスニケ角ヲ有シ稀ニハ無角ノモノ及ビ多角ノモノアリ又稀レニ種々ノ變形アリ其長サ〇、〇二乃至〇、〇〇四五其經ハ〇、〇〇二四ミリメートル(米突千分ノ一ミリメートル)ニ至ル但其變形セルモノハ皆大ナリト云フ又微粒子ノ核ト云フモノレンスノ上下ニ依テ透明或ハ暗黒トナル尋常細胞核ハ固形体ニシテ此核ハ外ニ比スレバ軟弱ナリ故ニ内容ハ軟弱ナルヲ以テ光線屈折ノ度ヲ異ニス未ダ充分ノ發育ニ至ラザルモノハ或ハ核ヲ有セザルモノアリ又其形ハ左圖ノ如キモノナリ其質血球脂肪等ヨリ光線ヲ屈曲スルノ力強ク其量ハ水及血球ヨリ重ク而シテ一種ノ運動ヲ有セリ故ニ産卵ヲ検査スルニ當リテハ成ルベクレンスヲ低ク置クヲ良トス光線ヲ屈折スルノ力強キ程鮮明ニ顯ハル、ヲ以テ螺旋機ヲ能ク回轉シテ光線屈曲ノ如何ニ注意スベシ其蕃殖ニ二種アリ一ツハ縊ビレヲ生ジテ分離シ一ツハ胞子ヲ産ス甲ハ非常ニ微粒子多キ卵中及ビ蠶ノ胃中乙ハ蠶蛹ノ區別ナク之ヲ見ル而シテ發育充分ナルモノハ彈丸狀ノ胞子ヲ産ス胞子ハ顯花植物ノ種子ト同シク隱花植物ノ種子ハ之ヲ胞子ト云フ病蛾ノ氣胞中ニ於テハ胞子發育ノ階級順序ヲ認ルコトヲ得ベシ但其未ダ充分發育セザルモノハ其外面尙ホ軟弱ナリトス微粒子ノ蕃殖最速カナル時ニアリテハ往々一核ヲ有シテ梨子狀ヲナス微粒子ヲ始メテ發見シタルハヒンツプ氏ニシテコルナリヤ氏之ニ次ギ其蠶体中ニアルヲ發見シタルハチンモ氏ニシテ分殖ノ事ハフレイ氏及ビレベルト氏視學的及化學的性質ヲ研究シタルハコラコウウヒ氏トス卵中ニ微粒子寄生セルハ恰モ澱粉ニ石灰粉ヲ混シタルガ如ク蠶、蛾、蛹等ニ寄生セルハ

人ノ食客ノ如ク然カモ機關ヲ除クノ外ハ處トシテ寄生セザルナシ之ガ寄生ヲ受クルノ度多ケレバ卵ノ孵化セザルカ又ハ蠶ノ斃ル、トアリ



微粒子寄生ノ素因アルモノハ輕易ノ誘因ニ依リ忽チ諸病ニ感染ス微粒子ノ遺傳ヲ除クハ框製及ビ囊製又蠶種検査ニ依リ之ヲ除キ傳染ハ消毒法ヲ行フテ之ヲ豫防スベシ傳染ヲ除クハ消毒法ヲ行フ室ハ疊敷ニ付ニ合入レノ器一ツマンガン二十目アルコール一合鹽酸八匁ヲ以テコロウルガスタ作リテ消毒スルナリ軟化病 佛名フラツセリ一獨名ファウルズト共ニ之レ腐敗病ト云フ此病ノ素因ハ同病及虛弱性ノ遺傳誘因ハ温度ノ劇變濕氣ノ過度空氣ノ不潔及ヒブリチ ミクロコックスノ寄生ニ依ル 此軟化病ハ名稱ノ如ク漸次ニ軟弱トナリ其極度ニ至レバ腐敗スルモノナリ故ニ之ヲタレ蠶ト云フ此病ノ素因ハ虛弱性ノ親戚ヨリ遺傳スルモノアリト雖誘因ニ屬スルコトアリ温度及濕氣ノ温度ハヒブリチ ミクロコックスノ如キ即軟化病ヲ生ズルモノニシテ其證ハ該病ニ罹ル蠶ノ胃中ヲ検査スルニヒブリチ ミクロコックスヲ見ル

故ニ之レ等諸種ノ原因ハ桑葉ノ不消化ヲ來シ血液酸化ノ不良ナルヨリ自然胃腐ノ消化力ヲ失ヒ桑葉消化セズシテ低滯腐敗スルニ乘シヒブリチミクロコックスハ浸入スルモノナレバ胃腐ノ消化力強キニ依テ桑葉ト共ニ消化スト雖胃腐己ニ消化力ヲ減ズルニ至レバ之ニ乘リテ蠶ノ營養ヲ取ツテ益々蕃殖スルナリヒブリチノ大サハ〇、〇〇一ミリメートルアリ而シテヒブリチ幼稚ノ時ハ核ヲ有ス發育スルニ從テ核ヲ分離ス其時間ハ凡ソ四五日間ナリ又ヒブリチ胃中ニ充滿スレバミクロコックスヲ生ズ其形珠數狀ヲナシテ寄生ス之ハ發氏始メテ發見セシチ以テハストルミクロコックスト云フ又此病ニ罹リタルモノハ血球變形シテ速ニ變色シ尿管中ニ數多ノ結晶ヲ生シ該管ノ抵抗ヲ失フモノナリ

硬化病 即白蠶蠶一名ボトリチス、バアレアナトモ云ヘリ之レハ一種ノ微ニ依テ寄生ス其胞子ノ大サ〇、〇〇三ミリメートル乃至二ミリメートルアリ此微ノ寄生ノ早キハ六日遅キハ十四日位ニシテ死ス濕氣ハ即此病ノ誘因ナリ吾方國ニテハ之ヲオシヤリコシヤリト云フ此微ハバクテリアノ稍ヤ上等ニ位スル微ニシテ此微ハバツシ氏ガ始メテ發見セシ故ニバツシアナト云フ此胞子ハ彈丸狀ヲナセリ之レ全ク傳染ヲ以テ蔓延スルモノニシテ其種子ノ善惡ニ依テ發スルモノニアラズ若蠶室中ニ此胞子寄生シ桑葉ト共ニ蠶ノ胃中ニ入りテ始メテ蕃殖ヲ營ミ遂ニ其蠶ヲ斃サレバ止マザルナリ此胞子ハ風力ニ從テ遠方又ハ近隣ヨリ齋ヲシ來ルコアリ而シテ此胞子ハ甚々輕キガ故ニ風力ニ依テ飛散スルノ際水分多キ蠶室又ハ桑園ニ至ツテ附着シ而シテ後蠶ニ寄生スルナリ先其始メハ糸狀体ヲ生シ又漸次枝ヲ増シテ遂ニ胃壁ヲ破リ外皮

ヲ犯シテ外ニ顯ハル、モノナリ此病ニ犯サル、蠶ハ死スル始メ紫色ヲ帶ビ硬堅トナル凡ソ十二時間ヲ經テ遂ニ体外ニ胞子ヲ結ビ始メテ白色ヲ呈ハスモノナリ此病ハ最モ傳染力ニ富ミ合セテ遺傳性ヲ兼ヌルモノナレバ一度此病ニ罹ルキハ能ク消毒法ヲ行フベシ其消毒法ハコロルガス即チ微粒子ノ消毒法ニ同シ又一法ニハ能ク蠶室ヲ密閉シ夫々蠶具ヲ陳列シ置キ炭粉一升ニ硫黃五合位ヲ混和シ五ケノ火鉢ニ入レテ蠶蒸シ二十四時間ノ後開放スルニ至レバ此胞子ハ悉ク死スルト云フ

膿瘻、節蠶、縮蠶、不眠蠶、光蠶之レ等ノ病ハ濕冷空氣ノ不潔及蛆害ニ依テ發ス名稱ハ各異ルト雖其病源ニ至ツテハ粗ボ同一ナリ唯其發スルキニ遲速アルノミ膿瘻ノ如キ節高ノ終末ニシテ其皮膚破レテ膿ヲ漏スモノナリ此病ニ罹ル時ハ血液中無數ノ脂肪球ヲ見ル其乳白色ヲ呈スルハ即チ之ガ爲ナリ此病ハ蛆害ニ依テ發スルコアレバ其他ハ皆誘因ニ依テ發病ス凡テ之等ノ諸病ヲ除カント欲セバ先ツ第一ニ蛆卵ノナキ桑葉ヲ與ヘ務メテ其誘因ヲ除去スベシ蠶ノ蛆害ニ罹ルモノハ凡テ氣門ノ兩側ニ黑點ヲ顯ハスヲ見テ知ルベシ又其蛆害ヲ避ケント欲セバ桑園ハナルベク高燥ニシテ風通シ良キ土地ヲ撰ンテ桑園トナシ又濕地及風通シ惡シキ桑園ノ桑葉ハ成ルベク三齡以前ニ拔伐ヲナシテ蠶ノ食料ニ供スベシ何トナレバ未ダ之等ノ蛆害ニハ蛆蠅ノ産卵ヲ始メザル前ニ於テ之ヲ拔伐リセバ蛆害ハ殆ド免ル、モノナリ微粒子病毒ノ多少ニ依リ其兆候ヲ異ニスト雖先ツ同一ナル温度ノ適度ヲ以テ蠶卵ヲ孵化セシムルキハ一齊ニ發生セズシテ二三日ニ渉ルモノアリ此最終ニ孵化スルモノハ必多少ノ該毒アルモノトシテ取り捨ツベシ又同一ナル飼育方

法ニ依リ蠶兒ノ生育中眠起ノ一齊ニ終ラザルモノハ之レ該毒ノ寄生スルガ爲メニ發育及眠起ヲ妨ゲラル、モノトシテ之ヲ捨ツヘシ該毒ニ感染セル蠶兒ハ其舉動不活潑ニシテ食慾不進恰モ眠ルガ如クシテ桑ヲ與フレバ少シク食シ其餘之ニ飽キ更ニ欲セザルモノ、如シ微粒子病毒ノ寄生セル蠶兒ハ掃立ヨリ上簇迄ノ日數ハ甚ダ多キヲ費シテ漸ク上簇スルモ其收獲ハ五斗内外ノ收繭ヲ得ルニ過ギズ之レ該毒ニ浸害セラレタルモノナリ蠶兒眠起ノ際遂ニ眠ルコト能ハズシテ轉倒匍匐スルモノ即チ不眠蠶之ナリ之等ハ最モ多ク微粒子ニ浸害セラレタルモノナリ又細蠶ト稱シテ他ノ蠶ノ蠶體ニ比シ細小ニシテ發育緩慢ナルモノ又光蠶等モ多少微粒子ノ害ヲ蒙レルモノナリ又一蠶座中ニ大小相混シテ恰モ一二齡蠶ヲ混合シタルガ如キ有様ヲ呈シ蠶病中ノ重ナル病狀及ヒ原因ニ付テ之ヲ左ノ如ク述ブ空頭蠶即チあたまつきト稱スル蠶病アリ其病原ノ如キハ主トシテ温熱ノ過度及濕氣ノ多量ナルニ起因スルモノニシテ彼ノ空頭トセルハ從來世人ガ蠶ノ頭部ハ胸部ト混シタルガ故ニ此空頭蠶ノ名アリ然レモ其實空頭トシテ透明ナル部分ハ蠶兒ノ胸部ニアリテ此透明ナル熱度高キニ苦痛ヲ感シ食慾不進トナリ爲メニ胃中ノ桑葉ヲ排泄シテ其餘ヲ補ハザルト又濕氣ノ多量ナルニ依リ胃中消化力ヲ鈍クシ之ニ乗シテヒブリナ及ミクロコックスノ寄生スルニ依リ益々消化力ヲ失フト同時ニ又尿管中ニ一種ノ變化ヲ來シテ管中ニ結晶ヲ生シ尿ノ排泄ヲ妨グ血液ヲ不良ナラシムルニ原因スルモノナリ空腸蠶ノ病原ハ主トシテ濕氣ノ多量ナルニ原因ス而シテ胃腸ノ終ル所ヨリ小腸部迄透明トナルモノニシテ之レ又濕氣ノ多量ナルヨリ消化力鈍キガ爲ニ桑葉ハ能ク胃中ニ於テ

消化セラレズシテ体外ニ排泄セラル、ガ故ナリ此病ハ始メテ胃ノ消化力ヲ失ヒ能ク消化セサルニ際シ瀉

蠶ニ變ズ即チチヨウカタル病ヲ起ス此病一層進ンデ痢病ノ如ク遂ニ肛門ヲ脱ス即チ之ヲ脱肛蠶ト云フ

起縮病 此病原ハ主トシテ就眠中絶食時間ノ長キト過度ノ温トニ起因スナントナレバ蠶兒ノ就眠時間中

絶食ニテ能ク生命ヲ保ツ以所ノモノハ其就眠前ニ於テ彼脂肪ヲ貯フルヲ以テ此絶食中脂肪組織ヨリ多ク

ノ養分ヲ取ルヲ以テ諸器械ノ營養ニ供スト雖若シ絶食ノ時間甚タ長クシテ体中ノ脂肪ハ將ニ消費シ盡ン

トスルガ如キニ至レバ彼諸機管ハ己ニ衰弱シテ又恢復スルノ機能ヲ失ヒ遂ニ萎縮シテ死ニ至ルモノアリ

又就眠ニ際シテ乾燥ニ過キルカ或ハ過度ノ温ニ遇フキハ体中ノ水分蒸發シテ遂ニ此病ヲ發スルモノナリ

不眠蠶、此病原ハ主トシテ微粒子ノ寄生ニヨリ或ハ蠶兒將ニ就眠セントスルニ際シ過度ノ温度ヲ與フル

ガ故ニ遂ニ其食慾ヲ斷チ切り而シテ就眠スルコト能ハザルモノナリ膿蠶即節高蠶ノ病原ハ重モニ血液酸化

ノ不良ナルヨリ其血液ハ漸次混濁不良トナリテ遂ニ体區ノ輸節ニ腫起ヲナシ此腫起セル部分ヲ破碎シテ

膿ヲ脱漏スルモノナリ之レ其飼育中重モニ寒冷濕氣ノ過度ナルヨリ起ルモノナリ

尾閉、此尾閉ナルモノハ彼就眠ノ際脱皮シテ舊皮ト新皮ノ間隙ニ一種ノ液ヲ生シテ脱皮スルニ便スルモ

ノナルガ其蠶室乾ニ過グレバ該液ハ忽チ消散シテ遂ニ腹部以下或ハ尾部ニ固着シテ發育ヲ妨グルモノナ

リ以上諸種ノ病原ヲ除カント欲セバ素因ヲ除クハ勿論其誘因タル温度又ハ濕氣過度及空氣ノ流通ヲ能ク

シ除沙ヲ怠ラズ給桑ノ度合ヲ程ヨクシ又分泊等ヲ能ク注意スベキナリ

附 録

檢尺器

檢尺器又ハ四百回器ハ單ニガラ等ノ名稱アレ之ハ生糸ノ細大ヲ驗センガ爲糸ノ長サヲ計ル器ナリ此器ノ周圍ノ長サチ一チムト稱ス一チムハ一メートル十九サンチメートルニシテ吾三尺九寸二分七厘ニ當リ通常四百チム即四百回四百七十六メートルノ長サノ重量ヲ檢シ其輕重ニ依リ糸ノ細大ヲ知ルモノナリ

檢位衡器

即チデニール衡ハ右檢尺器ニテ計リタル糸ノ重量ヲ檢スル衡器ニシテデニールヲ以テ之ヲ示ス抑モデニールナル語ハ佛國舊領ナチリユールノ分數ヨリ起リタル量目ニシテ一リユールハ四百八十九グラム五〇六ニ相當シ之ヲデニールニ換算スレバ九千二百十六デニールトナル故ニ一デニールハ五十三ミリグラム一三ニ當リ吾國ノ一厘四毛ニ當レリ茲ニ一ツノ注意スベキコトアリ他ナシ歐洲各國ニテ四百回ノ長サ及ビデニールノ重量一致セザルコトナリ今近年佛國リオン府及フレブエール商會議所ガ公告シタル歐洲各國ノ四百回及デニール表ヲ掲ケン

世界ノ重モニ用ユルモノ

國 名	四百回長サメートル	一デニールノ重サミリグラム
佛 國	四 七 六	五 三、一 三

氣候ノ事

氣候ハ二十四氣、七十二候ニシテ一年ヲ二十四期ニ配シ一期ヲ三項ニ分チタルモノナリ故ニ氣及候ハ常ニ同日月ニ相當ス然レモ四年ニ一回ノ潤年アルガ故ニ僅ニ一日ノ差アルコトアリ凡ソ潤年ヲ知ルニハ四ヲ以テ其年ノ紀年、年數ヲ除シテ分數ノ出デザルキハ即チ潤年ト知リテ可ナリ今左ニ氣候ノ日割ノ一般ヲ記サン

立春二月四日 東風解凍 蟄蟲始振  
 立夏五月六日 螻蟈鳴 蚯蚓出 玉 瓜  
奧涉負水

絹糸練方法

練ラント欲スル生糸ヲ緩ク束子疎布ノ囊ニ入レ左ニ記スル物質ヲ混入シタル液ニ投入シ煮ルコト三時間トス

マルセール石鹼糸量ノ一割九分炭酸曹達糸量三分ノ割此液ノ量ハ糸濕リ潤フテ度トシ其溫度ハ終始華

佛 國	新	五 〇 〇	五 三、一 三
伊 國	チユラン府	四 七 六	五 三、三 六
伊 國	國	四 五 〇	五 〇、〇 〇
瑞 國	國	四 五 〇	五 三、〇 〇

氏二百度乃至二百十度ナラシムベシ三時間ヲ經過セバ糸ヲ絞リ揚ゲ再ビ左ノ分量ヲ以テ煮ルコト四分乃至一時間トス此液ノ分量ハマルセル石鹼糸量ノ五分炭酸曹達糸量ノ二分

右終レバ炭酸曹達ノ少量ヲ入レタルハ温湯ニシテ洗ヒ後清温湯若クハ清水ヲ以テ洗除スルヲ四五回次ギニサクサ(梅酸ノ類)僅少量ヲ注入シタル水ニテ洗ヒ再ビ清水ニテ洗ヒ攪リテ乾燥ス右ハ丁寧ナル練リ法ナレバ粗糸ニ行フニハ通常一回ニシテ之ヲ用ユル石鹼曹達ハ二回分ヲ一度ニ用ヒ時間ハ三時間トス又凡テノ練糸用ニ供スル水ハ成ルベク石灰及マグチシヤチ含有セザルモノヲ撰ブベシ然ラザレバ之等ノ物質ハ石鹼ヲシテ摺リ固メテ練ラザレバ練糸ノ効能全カラザルモノナリ

煮繭温度

繭ヲ煮ル温度ハ繭質ト期節トニヨリテ自ラ異ラザルヲ得ス然ルニ若其度ヲ過ツ時ハ類節ヲ多カラシメ解除困難ニシテ糸質ヲ揖シ遂ニ良糸ヲ製スルヲ能ハザルナリ抑モ煮繭スル故ハ繭ノ上部ニアル屑糸ヲ除去シ固有ノゴム質ヲ溶解シテ解除ヲ容易ナラシムルニアレバ宜シク此點ニ注意スベシ即チゴム質多クシテ煮熟シ難キモノハ沸騰點二百十二度ノ湯ヲ用ユルモ普通ノ上等繭ニアリテハ概チ百八十度乃至二百度ヲ以テ適度トナスナリ而シテ之ヲ煮ル時間ハ普通ノ乾キ繭ニテ凡ソ十分内外或ハ十五分以上二十分ヲ要スルモノナリ之レ其大要ナレバ左ニ其蛹殺後ノ經過時日ノ長短ニヨリ煮ル湯ノ標準ヲ示スベシ生繭華氏百五十度乃至百六十五度、殺蛹後月ヲ經タルモノ百六十五度乃至百八十度、二三ヶ月ヲ經タルモノ百八十度乃至百八十五度、四五ヶ月ヲ經タル者百八十五度乃至百九十度、六七ヶ月ヲ經タルモノ百九十度乃至百九十五度、汚レ繭、同切繭、微付繭、殺蛹繭其他不適當ノ殺蛹ヲ行ヒテ解除困難ナルモノ百九十五度乃至二百十二度

操糸湯ノ温度

操糸ニ供用スルノ湯温ハ大切ナルモノニシテ一朝此度ヲ過ルキハ生糸ニ大害ヲ及ボスモノナレバ最モ此點ニ注意セザルベカラズ而シテ其温度ハ四季ノ氣候ト繭ノ性質及其新古ニヨリ自カラ差ヲ異ニスルモノナレバ現品ニ依リ之ヲ伸量スベカラザルヲナレバ先ツ左ノ標準ニ從フキハ大差ナキモノトス

生繭ノ儘ナルモノ 百二十度乃至百三十度

殺蛹後日ヲ經ザルモノ 百三十五度乃至百四十度

二三ヶ月ヲ經タルモノ 百四十五度乃至百五十度

四五ヶ月ヲ經タルモノ 百五十五度乃至百六十度

六七ヶ月ヲ經タルモノ 百六十五度乃至百七十度

凡テ解除ノ困難ナルモノ 百七十五度乃至百八十五度

◎製炭ニ關スル件

本會報告第一號ニ製炭改良ニ付田中長嶺氏ヲ聘シ本郡高岡村大字巢山、山吉田村大字下吉田トニ築窯ヲ  
ナシ傳習アリシモ限リアル日子ヲ以テ巡回教授セラレシ事ナレバ田中氏退村ノ後當業ハ熱心ニ從事シタ  
レトモ分結果宜シキヲ得ザリシニ依リ山吉田村大字竹ノ輪森下幸太郎織田源松ノ二氏苦心焦慮熱心從事  
シ粗其極ヲ探知シ頗ル佳品ヲ出スヲ得シカバ山吉田村ヨリ右二氏ヲ慰勞セリ左ニ掲グベシ

山吉田村大字竹ノ輪

一金壹圓

織田源松

一金壹圓

森下幸太郎

右田中長嶺氏改良炭ノ製法タル在來法ニ比シ非常ニ有利ノ良法タルモ日子ニ限リアル巡回教授ナリシヲ  
以テ築窯及燒方ノ大畧ヲ示スニ止リシニ依リ同志者苦心焦慮熱心ニ從事シタルモ結果宜シキヲ得ザリシ  
ヲ慨歎シ郷友森下幸太郎ト共ニ其實ヲ擧ゲズンバ止マント誓ヒ數晝夜寐食ヲ忘レ種々工夫ヲ凝ラシ攷々  
怠ラズ遂ニ其極秘ヲ發明シ良好ノ製炭ヲ出シ人ヲシテ望ヲ屬セシムルニ至ル其益蓋シ僅少ナラズ因テ頭  
書ノ金員ヲ贈リ聊カ勞苦ニ酬ヒントス冀クハ益奮勉他ヲ誘掖シ斯業ノ擴張ニ全力ヲ盡サレシト望ム  
明治二十九年五月五日 愛知縣八名郡山吉田村長 鈴木傳次  
田中長嶺氏ヨリ右二氏得業證書付與ニ付當郡長ヘ依頼越サレシ書面及得業證書ハ左ノ通りナリ

拜啓炎威難堪御座候處愈々御安康慶賀之至リニ奉存候陳ハ改良炭燒業者ノ儀ニ付毎度御報導ヲ蒙リ奉  
鳴謝候該兩人ヘ別紙得業證書送リ申候間甚ダ恐縮ニ存候得共便宜御渡シ被成下度希上候時下折角御加  
養御健全奉祈候謹言

明治二十九年八月七日

田中長嶺

八名郡農林會々長 服部直衡殿

(證書寫)

得業證

一菊炭燒法

右傳習得業ノ事ヲ證明スル者也

田中長嶺 印

明治二十九年八月一日

(各通)

織田源松殿

森下幸太郎殿

(參考)

炭ノ改良談

島根縣

黒川貞太郎

第一

炭窯築造法

一敷地造リノコ 敷地ハ成ベク平坦ニナシ上地ヲ取除ケヨク打チ固ムベシ形ハ粗ホ圓形ニ造リ其太サ縦ノ中經九尺横ノ中經八尺ヲ標準トスベシ而シテ位置ハ山林ニ接近シ岩石ナキ土地ニシテ成ルベク炭材ノ運搬ニ便利ナル所ヲ選ムベシ

一窯下地ノコ 窯下地ヲナスニハ先ツ左ノ材料ヲ要ス

一シゴ杭 凡ソ百本長サ三尺太サ七寸回り位之ハ雜木ヲ以テ造リ敷地周圍ニ立ツルニ用ウ

一親シゴ 六本長サ凡ソ一丈五尺太サ七八寸回り之レハ屈撓シ易キ木ニテ造リ窯ノ甲下地ニ用ユ

一子シゴ 凡ソ二百本長サ六尺太サ二寸回り位屈撓シ易キ木ニテ造リ窯ノ甲下地ニ用ウルコ親シゴニ同シ

一コド棒 一本長サ六尺太サ一尺三寸回り松或ハ杉ニテ造リ棒トナシ窯ノ背後ニアル烟孔ヲ穿ニ用ユ但シ此棒ニハ末端ヨリ五寸許リノ處ニ八九寸回りノ孔一ツ穿ツベシ是窯成功ノ時此孔ニ丸木ヲ入レテ此棒ヲ抜キ出スニ便利ノ爲メナリ

一藁藎 凡十枚之ハ窯ノ甲下地ニ爲シタルシゴノ上ヲ被フニ用ウ

一回シ縁 凡十二三本長サ凡一丈太サ四寸回り之ハシゴヲ押ヘルニ用ウ

一シゴ杭ノ回シ縁 凡十八本長及太サハ前項回シ縁ニ同シ

一藤 凡ソ二十貫目之レハシゴヲ結ヒ止ムルニ用ユ

一石 凡ソ十五六個之レハ窯口ヲ造ルニ用ユ

一渡リ石一個長サ一尺五寸巾厚之ニ準ス之ハ窯口左右ノ立テリノ渡シニ用ユ

一第一番立テリ石二個長サ一尺八寸巾一尺之ハ窯口ノ左右ニ立ツルニ用ユ

一同二番渡シ石一個長サ三尺巾一尺五寸

一同三番渡シ石一個長サ四尺五寸巾一尺五寸

但其他ノモノハ數個繼キ合ハシテ用ウルモ妨ケナシ

以上材料ノ準備了レバ下地ヲ造ルベシ次ギニ通常窯ヲ築ク如ク最初打土五寸次ギニ粘土ヲ以テ下地ノ周圍ヨリ頂迄一尺五寸位ノ厚サニ塗り固ムベシ塗様ハ先ツ晴天ヲ見定メ最初厚サ三寸許リニ塗り其乾クヲ待ツテ又三寸位ニ塗り重ヌベシカクスルコ都合五回位雨天ニハ藎ヲ被ヒテ土ノ流レサル様注意スベシ且又窯ヲ乾スニハ外面ハ太陽熱ニ晒ラシ内部ハ窯中ニ於テ枯木及生木各二三貫目辻又ハ小炭等ヲ以テ之ヲ燃ヤスコ一晝夜ニ二回位晴雨ニ關ラズ塗り終リタル日ヨリ一週間晝夜施スベシ此ノ如ク塗り終レバ其上ニ土ヲ置クコ一尺五寸總厚サ三尺五寸トス

一コド井ニ小コドノ事 クドハ窯口ノ眞後ニ穿テル孔ヲ云フ此クドヲ造ル法ハ最初窯下地ヲ造ル時彼コド棒ナルモノヲ窯口ノ眞後口ナル處ニ少シ斜ニ立テ置キ一旦之ヲ下地ト共ニ塗り込ミ窯ヲ塗り終リタル日再ビ此棒ヲ抜キ出シテ造ルナリ而シテ此クドノ功用ハ窯内ノ烟焰ヲ噴出スルニアリ則チ炭窯ノ烟

筒ナリ

小クドハクドノ口ヨリ六尺許リノ直下ニシテ窯口ノ正中ヨリ奥へ見通シタル處ニ穿テル孔ヲ云フ此小  
クドハ土ヲ三寸許リ掘込ミテ窯外へ突キ明ケルナリ孔口ハ巾五寸五分高三寸ニテ四角ニナシ周圍ヲ石  
ニテ疊ム此孔ノ功用ハ空氣ヲ流通セシムルニアリ即風孔ナリ

### 第二 炭材

一本種ノコ 炭材ニ最モ適スルハ柗樹(方言スキヤ楡)トス其他如何ナル種類ニテモ炭材トナス能ワザル  
ニアラザレバ別ニ山林等ニ養成セント欲セバ此柗樹ニ限ルベシ

但柗樹養成法ハ畧之

一用材伐採方ノコ 伐取レル柗樹其他何種類ヲ問ハズ炭材トナスニハ先鉈ニテ幹ト枝トヲ伐リ放シ其幹  
ト枝ノ太キ部分トヲ曲尺ニテ二尺三寸ニ鋸ニテ挽キ切り其小枝ハ同長ニ伐リ目方三四貫ノ束ニ結フベ  
シ斯クスルキハ如何ナル小枝及梢ト雖少シモ無用ニ屬スルモノナシ尙此外ニ焚付柴ヲ用意シ置クベシ  
以上炭ノ數量ハ凡東四百五十貫目枝木凡六七十束外ニ窯燒用意ノ雜木ヲ要ス

### 第三 燒方

一窯内へ炭材ヲ積ムコ 炭ヲ燒クニハ先窯内へ幹ヲ縱ニ積立テ其上ニ小枝ノ束ヲ縱或ハ横ニ透キ間ナク  
詰メ込ミ窯ノ入口ニ雜木ヲ立テ積ムナリ

一窯ノ焚様ノコ 前ノ如ク炭材ヲ詰メ込ムバ夫ヨリ窯口ニテ焚キ付柴ヲ以テ火ヲ焚キ込ムコ凡半日間ナ  
ルキハ其火氣窯内ノ上部ナル小枝ニ燃エ移ルナリ此時ヨリ粘土ト瓦石トニテ窯口ヲ塗り詰メ口ノ下部  
ニ風孔ヲ明ケ置クナリ又同時ニ窯ノ背後ニ穿テル煙孔ヲ開キテ窯内ノ煙ヲ噴出セシメテ締メ燒キニナ  
スコ凡ソ二晝夜間斯クテ煙孔ヨリ出ツル煙ノ殆ソド止マントスル時時刻ヲ見計ラヒ猶豫セズ直ニ窯内  
ノ風孔ト煙孔トヲ密閉スルナリ之ヲクド鎖シト云フ凡ソ木炭ヲ製スル秘訣ハ唯ダ最初ノ窯焚キ加減ト  
最後ノクド鎖シノ如何ニアルノミ故ニ炭燒ノ巧拙ハ此窯焚トクド鎖シノ呼吸ヲ知ルト否トニアルナリ

然レバ此呼吸ハ容易ニ知リ難シ只概シテ煙色ニ依リテ見分クルヲ目的トスルモノニシテ燃木ノ臭氣ナ  
ク煙氣ノ最モ青色ナルヨリ稍煙ノ止マントスル際ヲ度トス然レバ其熟否如何ニアリテハ多年此業ニ從  
事シ其注意ヲ密ニスルノ外他ニ方便ナキモノナルベシ

一炭出シノコ クド口ヲ閉鎖シタル後凡ソ五晝夜間窯内ニ蒸シ置クナリ但此蒸置時間ハ窯内ニ火氣ヲ含  
ムノ多少ニヨリ稍遅速ノ加減アリ即チ最初一二回焚ク間ハ一二晝夜ニテ窯ヲ開クコチ得ルモ數回焚キ  
込ムニ從テ窯中ノ暖氣熾ンニ其氣ノ消散遅クシテ急ニ開窯スルモ中へ入ルコ能ハザレバナリ却説開窯  
シテ炭ヲ出スニハ成ルベク炭ノ折レザル様叮嚀ニ取扱ヒ先ツ四五本ツ、竹節ニ載セテ出スベシ餘リ久  
シク窯中ニ居ルキハ氣絶スルコアリ故ニ五分間位ニ他人ト交替スベシ

### 第四 木炭ノ種類



一木炭階級ノ一 木炭ヲ分チテ最上上中下及枝炭ノ上下凡テ六等トナス  
 一炭ノ良否ヲ分ツ一 最上等ハ柵樹炭ニシテ炭ノ切口密ニシテ形狀八重菊花ノ如ク炭色ハ純黒ニシテ光澤アルヲ最上等トス其他雜木ヲ類別スル一以上以下各種ニ區別スト雖之レハ只木種ノ異ル迄ニシテ燒キ方ニ於テハ毫モ異ルナシモシ燒方未熟或ハ過燒ノ分アレバマトヘ木種ハ上等品ナルモ之レナ等外トスヘシ

一窯ノ炭量ノ一 竿炭(用材長サ二尺三寸宛ニ燒キ上凡二尺)凡百貫目枝凡ソ二十貫目乃至三十貫目都合百二三十貫目ナリ

第五 荷造法

一荷造仕様ノ一 竿炭枝炭各五貫目ヲ量リ竿炭ハ小木二本ヲ曲ケ藁繩ニテ結ヒ束トシ又枝炭ハ薄キ俵ヲ編ミテ之ニ入レ俵トス

第六 費用

一築窯費ノ一 窯築造ニ係ル費用ハ人夫凡三十人此價一人金拾五錢トシテ金四圓五拾錢又之レニ要スル木材及起共代價凡ソ金壹圓五拾錢都合金六圓ナリ

一燒炭費ノ一 一窯ニ要スル用材ノ伐リ出シヨリ燒キ方ヲ了リテ燒キ出シノ時迄ノ人夫凡十人ヲ要ス尤山林伐採所ヨリ窯場迄ノ遠近等ニヨリ差アレハ概テ如斯

●鈴木傳治君藍綬褒章ヲ受ク

本會幹事鈴木傳治君ハ多年公同ノ事務ニ勤勉セシ廉ヲ以テ本年十月三十日賞勳局ヨリ藍綬褒章ヲ下付セラレタリ左ノ如シ

愛知縣三河國八名郡山吉田村長 鈴木傳治

資性篤實夙ニ副戸長戸長ニ歴補セラレ町村制實施ノ際村長ニ舉ラレ任滿テ再ヒ膺選シ能ク地方制度ノ主旨ヲ體認シ專ラ自治ノ發達ヲ圖リ修齋ヲ誨ヘテ風化ヲ導キ道橋ヲ修メテ運輸ヲ便ニシ蓄積ヲ勸メテ凶荒ニ備ヘ山林ヲ殖シテ富源ヲ興シ會計宜キヲ得テ財用常ニ給キ教育土木等ノ費多キモ賦課スルヲ待タス村政整治衆民悅服ス公同ノ事務ニ勤勉スルコト二十餘年其勞効顯著ナリトス仍テ明治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

●特別會員入退會

入會者

- |     |        |      |        |      |        |
|-----|--------|------|--------|------|--------|
| 富岡村 | 中村 藤助  | 山吉田村 | 峰野 米作  | 山吉田村 | 莊田 董一郎 |
| 乘本村 | 柿原 隅太郎 | 乘本村  | 阿部 安太郎 | 乘本村  | 伊藤 七藏  |

豐津村 杉江秀吉	豐津村 白井奧三郎	豐津村 內藤權三郎
豐津村 內藤島藏	下條村 小林金三郎	嵩山村 野尻常次郎
退會者		
長部村 小林初藏	下條村 深井精一郎	下條村 河合半平
嵩山村 後藤重三郎	嵩山村 後藤健藏	西鄉村 森田仙吉

八名郡農林會報告第參號畢

明治三十年一月二十日印刷  
明治三十年一月二十四日發行

〔非賣品〕

編輯兼發行者

愛知縣八名郡西鄉村大字萩平三十四番地  
八名郡農林會副會長  
鈴木平五郎

印刷者

愛知縣名古屋市傳馬町六十番戶  
山田良弼

發行所

愛知縣名古屋市傳馬町六十番戶  
一誠社

